

陸軍士官の一般國民に及ぼす影響

と能はざることゝなり居れり。獨逸の陸軍士官の優秀なることは、天下に認められたる事實なれども、幾多の重要なる點に於て、國民全體の上に、不健全の影響を與ふることあるは否むべからざるに似たり。彼等は特殊の訓練と、遺傳と、習慣と、倫理觀とを有し、他の國民と隔離して、別に一階級を形成するの觀あり。專制君主の立脚點より是を見れば、斯の如きは最も願はしき事なるべけれども、國民の側より見れば、其軍隊が國民を離れて、別に一種の階級を作り、其思想感情に於て互に相背馳すると云ふが如きは忍ぶべからざる事なりと云はざるべからず。

軍隊の生活

獨逸軍隊の生活は、固より英國に於けるが如く、贅澤ならざれども、千八百七十年以前に於けるが如き、素朴剛健の風は復た見るべからず。種々の贅澤なる遊戯と、勝負事は盛に軍隊内に行はれ、是がために多額の金錢を要するのみならず、年々歳々、幾多の悲劇は是に依りて演ぜらるゝなり。伯林にユートニオン、シヨギの二大俱樂部あり、其會員の多くは近衛兵の士官なるが、何れも辯々たる貴族名門の出なるを以て、奢侈放逸の風頗る甚だしきものあり。伯林に於ける風俗

陸軍士官の誘惑

危険なる俱樂部生活

壞亂の中心と目されつゝあり。冬期の間に行はるゝは主にツハンテアン、ランスクネット、エカルター及びポーカー等の室内遊戯にして、夏期に於ては、多く戸外の遊戯に耽るを常とす。何れも少からざる金錢を賭るものにして、往々一夜の間に數萬圓を得るものと、是を失ふものとあり。地方にも亦た是に似て規模の小なる幾多の俱樂部あり。少年貴族等は其始何れも是等の俱樂部に於て遊戯と賭博とを學び、遂に度すべからざる放蕩兒と化し去るなり。普國の貴族中に在ても、其舊家たるを以て世に知られたる五箇の貴族が、僅かに二季節の間に是等の俱樂部に於ける賭博のため、倒産するに至しことは、拾年以前のことにして、今尙人口に膾炙する出來事なりとす。故ビクトリア女皇の孫にして、ゴッブルグ公國の繼嗣なりし、アルフレッド親皇が墮落の淵に沈み、終に悲慘の最後を遂ぐるに至りしも、是等の俱樂部に關係したるより起りたりき。又た皇帝の侍從武官の一人も、是等の俱樂部に出入したる結果として、其地位を辱かしむるに至り、遂に軍職を退くの已むをざるに至りたりき。數年前、或刑事被告事件に於て、是等の俱樂部の内幕は悉く法廷に曝露せられしが、其醜態の實狀は人をして慄

然たらしむるものあるなり。是等の俱樂部に於て行はるる賭博類似の遊戲に關して、最恐るべきものは、口約若くは、一箇の紙片に其賭せんとする金額を記載する而已にて、勝負を争ふことなり。青年の血氣に驅られ、或は酔興に乗じ、或は自己の勝利を期待するがために、不注意にも莫大の金額を賭することあり。而して勝負決定後廿四時間以内に其義務を決済するの習慣にて。若し是を果さざれば、非常なる破廉耻の行爲として擯斥せられ、復び社界に面出すること能はざるが故に、其全財産を傾くるも、是を決済せざるを得ず。若し到底如何ともすべからざる場合には、自殺を以て、其罪を贖ふを常とするなり。

軍人高利貸も亦た獨逸に特有の一害毒なり。軍人高利貸とは固より軍人にして高利貸を爲すの謂には非ず、軍人に高利の金を貸すと云ふなり。世故に經驗なき、貴族川の若士官等は往々彼等の毒爪に懸り、身を亡ぼし、家を失ふとあり、今左に其慣用手段を略記せんか。彼等は其商賈柄として、其地に在る凡ての士官の貧富、其收入、性行、家庭の情態、親族關係等を知悉するなり。彼等は是等の要

軍人高利

點に關して、最も正確なる智識を有するが故に、損失の恐れ最も少し。是に於て先づ辭を卑ふして、何時にても金錢の融通に應ずべきを告ぐるなり。斯くて直ちに借用の申込を受けずとも、更に失望することなく、機會ある毎に是を繰り返へし、且つ最も寛大便利の條件を以て、要求に應ずるが如くに装ふを常とす。其條件は固より一定せざれども、手取千圓に對して、千貳百圓乃至千五百圓の證書を入れしめ、其利率は利息法に抵觸せざる程度に於て、是を定むるなり。而して彼等の慣用手段として、期限を經過するも、敢て返済を逼ることなく、成るべく其元利の増大して容易に返済し得ざる巨額に達せんことを待つなり。而して漸く其時機に達せるを見るや、忽ち假面を脱して、銳利なる爪牙を表はすなり。是に於て憐むべき少年士官は、其負債の意外の巨額なるに一驚を喫すれども、如何ともするに由なく、遂に彼は樂しき其獨身生活を棄て、持參金附の妻を迎ふるか、否らざれば親族會議を開催せられて、一方其負債を償却せらるゝと同時に、彼は獨立の人格を失墜せざるを得ざるなり。何れにしても、高利貸自身は他人の不幸によりて、法外の利益を獲得するを常とし、是がために一文にても損失する

ことなきなり。
 如何に多くの青年士官が高利貸の毒牙に懸りて、其身を亡ぼし、或は心ならずも、卑しき動機のために、結婚すべく餘儀なくせらるゝか。何事にも科學的研究を應用せんとする獨逸にも、未だ斯の如き統計表を作れるものなければ、正確の數字を示す能はずと雖も、其驚くべき大數に達せんことは、余の信じて疑はざる所なりとす。

宴會の度數の餘りに頻繁にして、隨て飲酒の風の盛なることも、亦た獨逸軍隊に於ける、一大弊害なりとす。此點に關しては、皇帝は其身を以て臣下に好範を垂るゝ能はざるのみならず、寧ろ其惡風を助長するの責に任せざるべからず。獨逸の軍隊に於ては、リーベスメーラー即ち親陸會と稱して、戰勝紀念日、皇帝、元帥、將軍等の誕生日は勿論、些細の事に托して、宴會を開くを例とす。而して其度毎に鯨飲馬食、放歌亂舞を事とし、果ては不健全なる遊戯に耽るを常とす。皇帝陛下は殊の外斯の如き宴會を喜び給ひ、止を得ざる差支なき限り、勉めて是に出席し給ふを常とし、彼の時々世界の物議に上る非常識的の大演説の多くは、斯る

奢侈放逸の風漸く陸軍内にうつりつ

宴會の席上に於て爲さるゝなり。

是を要するに、普國が佛蘭西と埃太利の二大勁敵を控へ、是に對して優勝を競ひし間、即ちウォータールーよりサドワに至る二大戰爭間の五十年は、スバルダ的の剛健勇武の氣象を以て、各國軍隊の模範と稱せられしが、斯くの如きは既に過去の物語と成り果て、今や驕奢放逸の風滔々として、其軍隊を侵蝕しつゝあり。皇帝陛下深く是に懸念あらせられ、屢、詔敕を發して時弊を矯救せんことを努め給ふに關らず、殆んど勞して功なきものに似たり。毎年秋期大演習の後に陸軍部内に大變動あり。其度毎に放蕩淫佚の極、退職を命せらるゝもの、倂指に違あらず。斯の如き懲戒も、以て他を警醒するに足らざるものゝ如く、年々歳々同一不祥事を繰り返へしつゝあるは、普國軍隊のために痛恨せざらんと欲すと雖も得ざるなり。勿論、獨逸の陸軍が全體に於て、腐敗墮落しつゝありと斷言するは大早計なるべしと雖も、諸種の兆候に依て、冷靜に判斷すれば、今や獨逸の軍隊(特に普國の軍隊)はフレデリッキ大王の歿後漸く懦弱に流れ、遂にエナの大戦に於て全く其光榮を失墜し去りたる當時と同一の傾向に陥りつゝありと云

陸軍の經

費
兵士の食
物と粗惡
を極む

ふことは、否定すべからざる事實なりとす。
獨逸の陸軍に關して、更に注目すべき一事あり。多く世人の論議に上らずと雖も、其事相の重大なるに至ては、前掲の諸項に勝るとも劣る所なきなり。千九百〇一年度に於ける獨逸陸軍の經費は五億五千九百萬馬克、即ち約貳億七千萬圓なれども、實際上國民の負擔は是に數倍するものあるなり。前記經費の約半額は兵士の食料と給料に充てらるゝものなれども、其食物は頗る粗惡にして、下級の勞働者を除くの外は、是而已を以て満足すること能はず。又た兵士の手當は一日拾貳錢乃至貳拾四錢にして、到底其雜費を支辨するに足らず。是に於て、六拾餘萬の兵士の大數は、其父兄親戚より少からざる金錢の補給を受けつゝあるなり。又た二萬五千餘の士官に就て云ふも、其俸給は以て其經費を支辨するに足らず。殊に小佐に至る迄の下級士官に於て然りとす。例へば小中尉の如きは實際の費用は其俸給の二倍乃至三倍に達するなり。而して其不足額は何れも父兄親戚を頼はすか否らざれば負債を作るの外に策なきなり。斯くて獨逸國民の其軍隊のために間接に支出する金額は少くとも年々四億萬圓に下る

軍隊と國
民教育

べからざるなり。而して此一事が其中流以下の國民に如何に大なる苦痛を與ふるかは固より絮説するを要せざるなり。
最も國民は常に戰時に於てのみならず、平時に於ても其陸軍に負ふ所頗る大なるものあり。モルトケ將軍在世の砌屢、議會に於て公言したりし如く、軍隊生活の國民教育の上に及ぼす影響頗る大なるものあり。例へば、秩序を重んじ、服従を貴び、清潔を愛好する習慣の如き、是れ多數國民が軍隊の訓練に依りて得たる精神上の賜物にして、身體の健康も亦た是がために大に増進せらるゝ所あること固より論を俟たざるなり。然れども、一方に於て是がために受くる惡影響も亦た看過すべからざるものあり。そは軍隊的精神の國民一般に普及すると共に、不羈獨立の精神は痛く損傷せられ、何事にも唯だ指導者の命の儘に動く傀儡的の國民となりつゝあること是なり。即ち英雄なく、天才なく、國民中に一の異彩を放つものなく、常識的の人間を以て充たされんとするなり。此傾向は學術、文學、技藝等あらゆる精神的方面に表はれつゝあり。獨逸の傑出せる軍人、大政治家、大科學者、大詩人等は何れも過去の時代の產物にして、普佛戰爭以後には

殆んど全く是なしと云ふも過言にあらざるなり。英雄の時代、天才の世紀は既に過ぎ去りたりと云ふものあり、夫れ或は然らん。然れども少くとも、英米の如き自由國の社界は獨逸の如く爾く單調ならざるなり。各方面に一旗幟を立つるものあり、異彩を放つものありて、各其特性を發揮するを見るなり。

獨逸陸軍の組織、兵數、實力等一般に關することは、普く世に知れ渡れるを以て、特に此處に記載するの要なかるべし。唯だ其學校組織に至ては、外國人中往々誤解するものあるを以て、今左に其大體を説明すこととせん。

先づ其第一階級は幼年學校にして、全國に拾一校あり。其中三箇の特に大なるものは伯林、ミューニヒ及びドレスデンにあり。十歳乃至十二歳にして入學を許され、十七、八歳にして卒業の上は見習士官として、隊附を命ぜらるゝなり。彼等の校内に於ける訓練は極めて嚴格なるものにして、其學科は羅甸及び英佛語、地理、歴史、數學、圖書等の普通學を主とし、兵事に關することは、僅かに其初步を授けらるゝに過ぎず。銃槍、騎馬、水泳、舞踏等の體育を課せらるゝは無論の事なりとす。學生の多くは軍人其他官吏の子弟にして、學資を有せざるものは官より支給せらるゝことを得るなり。自費を以て在學せんと欲せば、一ヶ年約五六百圓を要す。寄宿舎は清潔にして、空氣の流通良く、食事も亦た甚だ佳良なりとす。

幼年學校

士官學校

斯くて一、二年の軍隊生活に依りて、實際的の智識を得たる後、十九歳乃至廿歳にして、士官學校に入學せしめらるゝなり。學科の主なるものは、戰略、戰術、築城術、彈道學、操砲術、及び露西亞語等にして、銃劍術、體操等は引續き課せらるゝものとす。此種の學校も亦た全國に十一箇あり。就中規模の大にして、設備の完全せるは、ポツダム、ミューニヒ及びハノーバーにあるもの是なり。卒業後は直ちに少尉に任ぜられ、各聯隊附を命ぜらるゝなり。

陸軍大學校

陸軍大學校は伯林とミューニヒにあり。後者は前者に比すれば、其規模遙かに小なり。入學は本人の志願に依るものにて、最とも嚴格なる入學試験を受けざるべからず。即ち志願者が果して將來高級武官たるべき智能資質を有するや否やに就て吟味せらるゝなり。參謀本部の直轄に屬し、將來參謀本部、陸軍省其他特殊の學識技能を要する部署に働くべき、最高級の將校を養成するを以て

目的とす。皇帝は屢該校に臨御あらせられ時々特殊の問題に就て講演を爲し給ふことあり。將來獨逸陸軍の柱石たるべき若士官等は、此處にありて始めて皇帝、元帥、將軍等に親近して、自己の力量才能を認識せらるゝの機會を得ると同時に、彼等に對する敬仰の心を増すことを得るなり。

學生は大抵廿五歳以上にして、其主要の課程は軍略戰術等にして、理論を攻究すると同時に、學生互に敵と身方とに分れて、擬戰をなし、或は各自に課せられたる特殊の任務に就て、實地演習をなし、後教師の批判講評を受くるものとす。此擬戰と演習とは、即ち講堂に於て研究せる理論を直ちに實地に應用するものにして、最も有効のものとして認識せられ。獨逸陸軍全體に採用せられ、今は各國の陸軍競ぶて此方法を採用實行することゝなれり。

勿論、獨逸陸軍の最高理論の府、即ち其首腦は參謀本部なりとす。而して其組織他の諸國と大に趣を異にするものあり。即ち陸軍の各部より其代表者として傑出せる將校を送りて、是れを組織するものにして、其任期に一定の期限なく、一二年にして轉出するものもあるべく、是に反して拾數年間動かざるものもあ

參謀本部

るべし。されば其主體は常に變動しつゝありて、決して一定不變のものにあらざるなり。現在の總長は伯爵シリオンエン將軍にして、故モルトケ將軍の高弟、獨逸陸軍の首腦を以て目されつゝあり。其管掌する所は、(一)各國陸軍の現狀態を調査し、且つ其變動を詳かにすること。(二)一旦緩急あれば、何時にても、其陸軍を移動し得る様に諸般の準備を整頓すること。(三)戰時軍隊と、其必需品を輸送するに差支なき様、海陸の運輸機關を準備する事等にして、附屬的の事業としては、全國の測量、戰史の編纂、軍用地圖調製等の事あり。

參謀本部に命令を發し、或は其事務に干渉し得るものは、唯だ大元帥たる皇帝陛下ある而已。而して陛下は屢、是を敢てし給ふなり。參謀本部に於て調査し、或は成就したる事業中、特に陛下の詔命に依りて成されたるもの甚だ少なからざるなり。

獨逸の士官は概して向上的の精神に富めり。彼等の多くは學校の門を出でて、後學理の研究を廢止せざるなり。當局者も亦た彼等の勉學を獎勵し、大尉に至る迄の若士官には、時々問題を課して、論文を提出せしむるなり。是れ一方

に於ては、彼等の研究を鼓舞するの効あるのみならず。他方に於て、當局者は是に依て、彼等の性質力量等を判断し得るの便あるなり。

近來獨逸に於ても、各國の軍隊と等しく、其軍服の色彩に於て大なる改革をなせり。從來は黒赤等の明白なる色彩を用ゐ、燦然たる金具を(兜、ボタン等)附したるものなれども。普佛戦争後今日に至る迄の實戰の經驗に依りて、其極めて不利なることを發見し。今日に於ては鼠色、カーキ色等不鮮明の色合を用ゐ、且つ金屬は凡て光輝を放たざる様の工夫を施すに至れり。固より是がために軍隊の外観美を失ふこと少からずと雖も、實戰に於て利益あること論を俟たざるなり。小銃は普佛戦争以來幾度か其口径を小にし、以て今日に至りけるが、今や殆んど最小極限に達せるに似たり。

第十章 獨逸の海軍

獨逸に海軍協會なるものあり。數年前皇帝陛下の發意に依て創設せられ、今は八十五萬人の會員と、三百萬圓の財産を有し、名譽會員或は理事としては、各聯

海軍擴張熱

邦の君主及び帝國內のあらゆる名士を網羅せり。其主一の目的は唯だ海軍擴張を成就するにあり。其醸出したる金額は固より是が運動の用に供すべきも、亦た自から水雷艇を造り、港灣の防備を全ふする等の目的のために支辨することを得るなり。

此一事以て、獨逸に於ける海軍熱の如何に熾盛なるかを語りて餘りあり。歐洲の大陸軍國が更に海上に其權力を伸ばし、獨り英國をして海王の名を擅にせざらしめんと希望は、深く國民の心底に基礎を有し、決して皇帝が箇人的の野心を以て目すべきにあらず。寧ろ皇帝は時代精神の代表者なりと云ふを以て適當とせん。獨逸の世界政策に反對なる舊政黨すらも、海軍擴張には反對せざるなり。千八百九十八年と千九百年と兩度の議會に於て、現今の海軍大擴張政策は樹立せられたるなるが、若し百〇七箇の舊政黨の投票の是に與るにあらずれば、固より通過せんこと覺束なかりしなり。

陸軍擴張の時代は、今や既に過ぎ去れり。曾ては露、佛、獨、奧の諸國が競ふて、其常備軍を増加し、一旦緩急の變あらば、直ちに他の國境を超へて闖入せんとして、

陸軍擴張時代は過去

虎視眈々たる時代もありしなり。而かも各國共に廿年の昔に於て、其陸軍は殆んど極度に迄擴張せられ、此上の擴張は大に其國民利福を犠牲に供するにあらざれば能はざるの情況にあり。されば各國共其陸軍に於ては滿を持して放たず、暫らく交綏の情態にありと謂ふべし。爾來各國何れも其人口の増加に伴ふ自然の發達を以て満足するものゝ如く、一時の如き人目を惹くべき大擴張なるものを見ることなきなり。勿論、英米の二國は歐洲大陸諸國と大に趣を異にするものあり。歐洲大陸諸國が銳意其陸軍の改良擴張を圖るに當りて、二國は全く是を雲煙過眼に附し、其陸軍に對し、些の注意をも拂はざりしが。近來漸く自國陸軍の幼稚不整頓にして、有事の日に是に信賴するの頗る危険なるを覺り、漸く是が改善擴張に心を傾くるに至りしなり。

今や世界の強國は何れも海上に其勢力を樹立せんとして、苦心慘澹たり。今日の如く、各國が一齊に海上に優勢を得んとて努力することは古來未だ曾て見ざる現象なりとす。而して其動機目的亦た皆な相同じきなり。即ち擴大せる海上貿易を保護せんこと、及び海外に於ける政治上に優越權を得んこと、是なり。

海軍擴張の目的

是れ實に、國民的本能とも云ふべきものにして、現代の政治、經濟事情より必ず發生せざるべからざる結論なりとす。今の時代は國民の注意大陸に踞踏たらずして、殖民地に及び、大陸政策は變じて、世界政策となれる時代なり。又た自國の製品を廣く世界の各地に輸出すると同時に、地球の端々、隅々より食物、原料品等を持ち來りて、自國の市場に供給せざるべからず。強大なる海軍を有するにあらずんば、如何にして能く其目的を達することを得んや。殊に英國の海外に於ける優越と發展の情況とを見るものは、何人も海軍の必要を切に感ぜざるを得ざるべきなり。

第十九世紀の初に、拿破翁の勢威を摧きてより以來、英國は海上に於て、絶體的權力を掌握するに至れり。佛蘭西の海軍は跡方もなく尖せ去れり。他諸國の海軍も亦た然り。獨り露國の海軍而已は存在したりしかども、其勢力範圍はバルチック海に限られたり。斯く英國は海上に於て、全く敵を有せざりければ、何事を爲さんと欲して爲し能はざるなく、悠々として世界の隅々迄其手足を伸ばせり。斯くて一世紀間に於て、前代未聞の世界的帝國を形成し、富盛なる殖民地

英國の海軍

を以て全地を掩ひ、其商業は以て世界の富を吸収し、其商賈をして王侯の如く富ましめたり。此時に當て、歐洲大陸の諸國は廿年戦争の瘡痕尙未だ癒えず、僅かに回復の運に向ふや、政治上の自由を得んとする平民的運動のために、國家は動搖し、海外に發展を試むるの餘力を有せざりしなり。固より海軍政策に腐心するの機會なかりき。

佛國海軍の再興

英國の強敵なる佛蘭西が復び其海軍を建造して、海上に英國と相對するに至りしは、奈破翁第三世の治世なりき。而かも不思議の運命とも云ふべきは、斯くて回復したる佛國の海軍は、其舊敵なる英國と戦はずして、反て是と同盟して露國砲臺を攻撃したることなりき。此時に際して佛蘭西は始めてグロアなる一の甲鐵艦を建造せり。是れ世界の海軍史上に於ける最初の甲鐵艦なりとす。佛蘭西の海軍の漸く面目を一新せんとするに反し、英國は一時海軍政策を等閑に附し、其艦隊を半減するに至りぬ。是時に當りて、英國の危きこと累卵も管ならず。幸にして佛國と干戈を交ゆるの機會なかりしと雖も、具眼の士は其前途を思ふて悚然たりしなり。此時より以來、英國は其海軍を黨派政治の外に置き、

如何なる政黨が政權を掌握するも、其海軍政策を變更すること能はざる事となしたり。而して如何なる犠牲を拂ふとも、英國の現地位を危ふせざる丈けの海軍を維持するを以て其確定不動の方針となしたり。

最初の間、英國は此方針を實行するに、敢て何等の困難をも感ぜざりき。何となれば、英國の唯一の敵手たる佛蘭西は千八百七拾年戦敗の後を善くするに急にして、未だ殖民政策、海軍政策に心を傾くるの暇なかりき。佛蘭西以外には固より英國の競争者たらんとするものあらざりしなり。然れども、斯の如き英國の獨舞臺は固より何時迄も持續せらるべきにあらず。千八百八十五年頃よりして、佛蘭西は復び其海軍に留意し始め。露西亞も亦たバルチック海と黒海とに有力なる艦隊を浮ぶるに至りぬ。而して當時此二國の英國に對する態度は決して好意的ならざりしなり。是に於てか、海上に於ける英國の優越權は復び危殆に瀕する事となりぬ。殊にグラッドストーン氏の對外政策の影響を蒙り、黨派政治の上に超然たる海軍政策も多少の打撃を受けざる能はざりき。此時に當り、若し佛蘭西にして、千八百七十一年の記憶のために心を奪はれざ

英國海軍
の二國標
準主義

りしならんには、英國が埃及を掌握することは不可能なりしなるべく、蘇西運河は今尙ほ嚴正の意味に於て中立地帯たるべかりしなり。

幸にして、英國海軍の斯の如き情態は一時の現象に止まり、輿論の要求に依り、千八百八十九年、一の海軍擴張案を通過し、政府は直ちに十隻の大戦闘艦、四十二隻の巡洋艦及び十八隻の水雷艇を建造すべく着手せり。彼の二國標準主義なるものは此時始めて主張せられたるものなりき。其意蓋し當時の二大海軍國たりし露佛二國の海軍力を合計したるものよりも、一層有力なる海軍力を維持するを以て、英國海軍政策の根本主義となさんとするにあり。當時にありては、是れ唯だ海軍當局者が胸裏に畫きし一箇の理想に過ぎざりしが、懸がて一般國民の標語となり、内閣は幾度變動するも、此方針のみは決して變動するを許さざる一大主義とはなりぬ。

斯の如き英國海軍の一大擴張に對し、始の間、露佛二國同盟は敢て對抗の舉に出でざりき。千八百八十一年より千八百九十年迄の十年間に於ては、英國の拾九萬六千四百四十噸に對し、二國は貳拾參萬千四百拾四噸を建造せるに反し。

千八百九十年より千九百年に至る十年間に於て、英國の七拾壹萬五千百五拾噸を増加せるに對し、二國は唯だ僅かに四拾九萬五千六百拾一噸を増加せるに過ぎざりき。隨て英國の海上權は非常に優越のものとなり、其結果は忽ちフハシヨダ事件に於て、遺憾なく發揮せられたりき。當時海上に於ける英國の優越は比較的最上點に達したるものにして、佛國海軍の二倍、露國の三倍に相當し。海軍國として未だ其の頭を擡げざりし米獨の二國に對しては實に四倍の強味を有したりしなり。

新海軍國
の勃興

而かも間もなく形勢の變化は起れり。今日迄海軍國として、敢て世の注目を惹かざりし露獨米及び日本等は、一齊に大海軍國たらんとの希望を起し、着々として是を實現せんことに努力し始めたり。佛蘭西も亦た是に續いて海軍大擴張の計畫を立てたり。露國は八隻の戦闘艦、拾隻の巡洋艦、及び三拾隻の水雷艇を建造せんとし、是がために貳億圓を支出するを意とせざりき。其目的とする所固より英國に對するよりも、極東に於て制海權を得んとするにありしは云ふ迄もなき事なるべし。是等の船艦は日露戦争の際、尙未だ全部竣功するに至ら

ざりしかども、露國に取りて一大勢力たりしこと論を俟たず。其多くが對馬及び旅順沖に於て、海底の藻屑となりしは、非常の慘事なれども、若し是等の艦隊皆無なりしとすれば、露國の運命は更に悲惨なるものあるべかりしなり。其後の露國海軍に就而は固より云ふに足らず、此頃更に大規模の計畫を以て、再建に従事しつゝあることは、世界に知れ渡れる事實なりとす。

米獨佛日諸國の海軍擴張熱亦た固より露國の夫れに遜るものにあらず。而して露國の大艦隊が一朝忽ち烏有に歸したるに反し、是等諸國の海軍は今日に至る迄、日夜兼行の勢を以て増進せられ、現在に於ては各國共に居然たる大艦隊を擁するに至れり。試に、其勢力を舉示すれば、米國は本年即ち千九百十一年に於て、廿九隻の戦艦と、廿隻の裝甲巡洋艦を有し、本年中にはフロリダ及びユタの二大戦艦竣工し、千九百十二年にはワイオミング、アーカンサスの二隻、同十三年には紐育テキサスの二大艦の進水を見んとす。佛蘭西は現在廿六隻の戦艦と、拾六隻の裝甲巡洋艦を有し、本年中にダントン、ヂヅロ、ゴンドルセーの三艦竣工し、千九百十二年にはミラボー、ベルニオーの二艦、同十三年にはジュアンバ

ール、クルペーの二艦建造せられんとす。日本は現在拾一隻の戦艦と、拾隻の裝甲巡洋艦とを有し、本年中には戦艦安藝の進水を見んとし、千九百十二年には河内同十三年には攝津の竣工を見んとす。

獨逸は現今廿七隻の戦艦と、九隻の裝甲巡洋艦とを有し、本年中にオストフリースランド、ミュリゲン、ヘルゴランド及びエツチ號の四隻完成し、千九百十二年にはオルデンブルヒ、エルサスヒルデブランド、エウルサスハイムダル及びジェーの四隻、同十三年にはエルサツハーゲン、ニルサツアーチル、エルサツオーデンの三隻竣工せんとす。此處に一事の注意すべきは、獨逸の軍艦統計は常に内輪に見積られ居ること是なり。假令戦時に役立つべき戦艦巡洋艦にても、少しく舊形に屬するものは統計に加へず。又た完成期限にも大なる餘裕ありて、千九百十三年中に完成となるものは、必要に際せば、一年を繰り上げ、十二年中に完成せしむることを得るなり。嚴正の意味に於て云へば、是れ世間を欺罔するものなれども、國家のために謀りて、最も思慮ある賢明の處置なりと云ふことを妨げざるなり。

前記の統計は唯だ艦數を示す而已なれば、更に噸數、砲種、砲數其他の情件を詳記するにあらざれば、正確の比較を爲すこと能はずと雖も、固より概念を得るに於て差支ならなり。是に依て直ちに吾人の注意の喚起せらるゝは、佛蘭西海軍の進歩の遅々たるに反して、獨逸の長足の進歩をなしたること是なり。

英米の海軍は艦數、噸數、砲數等の統計以外に於て、一個の弱點を有す。他なし、士官と水兵を得るの困難是なり。由來、英國の海軍士官と、其水兵とは、品位と技術に於て最も卓越したるものとして、世界に認識せられたるものなれども、際限なく、是を供給せんことは固より期待し得べきにあらず。此點に於て、今や英國は殆んど其極限に達せるものゝ如し。されば、縱令英國海軍にして何時迄も現狀を維持し、二國標準主義に隨て新艦を建造することを得べしと假定するも、戰時に際して斯の如き大艦を進退するに足る程の士官と水兵を得んことは頗る困難なりと云はざるべからず。是れ英國に取りて、決して杞憂にあらず、英國海軍の當局者は云ふ迄もなく、苟も英國の事情に通ずるものは、何人も是を承認するの外あらざるべきなり。米國も亦た以上の困難を免るゝこと能はず。海軍

英國に於ける海軍の乏

省は屢、此事に關して、國民の愛國心に訴へ、大統領も亦た其教書中に於て是に言及せることあり。尤も其後此點に關して、應急の手段を講じたりと雖も、今日の如く、年々歳々、大戦艦と大巡洋艦の建造せらるゝ時に當りて、能く其需要に應ずるを得べきかは頗る疑問なりと云はざるべからず。軍艦を操縦すべき士官は勿論、水兵と雖も、今日の海軍に於ては、多大の訓練を要すべきものにして、決して一朝一夕に養成し得る所にあらず。此點に關し、強制的徴兵の制度を有せず、一に志願者の出づるを俟つて、是を採用せんとする、英米の制度は非常に不便なりと云はざるべからず。獨逸及び日本の如き徴兵制度を有する國に於ては、其軍艦の増加するに隨て、水兵を増加せんこと頗る容易にして、英米二國に於けるが如き大なる困難を感ずることなきなり。

要するに、英國が世界第一の海軍國たることは、今尙ほ古の如しと雖も、其他の海軍國に對する關係に至ては、大なる變化を來せり。曾て英國は嘗に世界最大の海軍國たるに止まらず、佛蘭西を除くの外、他に有力なる競争者を有せざる時代ありしが、千九百〇六年以降、英國は實に四大競争者を有することゝなれり。

而して四者の勢力を合算すれば、實に英國海軍の二倍に相當し。若し更に以太利の海軍を加算すれば、是に對する英國の勢力は一層低下せざるを得ざるなり。固より英國以外の海軍國が悉く同盟して、是に當ることあるべしとは、想像する能はざる所なれども、形勢の變化は明かに是を認めざるを得ざるなり。

西米戰爭及び日露戰爭の教訓により、今や世界の海軍當局者は戰闘に最も重要なるものは、其艦型と製造年代の相近似したる戰闘艦より成れる艦隊なりと云ふに於て一致せり。蓋し最近式の戰闘艦は、管に其の攻撃力と防禦力に於て卓越せるに止まらず。又た非常の速力を有し、或程度に於て、砲艦、水雷艇、水雷驅逐艦、巡洋艦等の長所を兼有する也。而して、近來に至る迄、戰闘艦の唯一の短所は多くの石炭を積載するの餘地なきを以て、長途の航海に堪へざるの一事にありしが。最新型の戰闘艦に於ては、此缺點を改良し、一度も寄港せずして、數千哩を航行し得ることゝなれり。さればこそ、今日に至ては各國競ふて最新型の戰闘艦を造るに汲々とし、敵に後れざらんことを恐るゝの情況なるが、獨り佛蘭西のみ、此點に於て、他各國の歩調に伴ふ能はざるものゝ如し。

西米及日露海戰の教訓

戰闘艦の
大小

戰闘艦の大小は年々増大し行くの傾向あり。各國共一萬噸以下の戰闘艦は、實際に於て戰闘力を缺くものとして、今は殆んど廢棄せられんとしつつあり。極端に大艦主義を採るは、英、米及び日本にして、最近に至り、二萬六千噸以上の大戦闘艦を建造し、或は是が注文を發せるは、各國海軍界に知れ得れる事實なりとす。噸數の大なるに隨て、戰闘力を増加するは、明白の事實なれども、是に伴ふ不便の點も亦た甚だ少からず。(一)經費の非常に増大すること、(二)運動の敏捷を缺くこと、(三)海岸航行に不便なること、(四)乏を容るゝに適當なるドックの多からざること、是なり。少くとも、是れ獨逸海軍當局者の意見にして、實際に於て、一萬三千噸以下の戰闘艦の建造を廢止したるに關らず、未だ俄かに二萬六千噸と云ふが如き大艦を建造するに至らざるなり。大砲に關しても、英、米の如く、極端の巨砲主義を取らず、寧ろ其口徑を減じて、砲數を増加するを以て可なりとするものゝ如し。甲鐵の厚さに至ては、他の諸國と殆んど大差なし。水準以下の部分は六吋乃至八吋の鋼鐵にして、其以上の部分は四吋乃至五吋、砲塔其他特に重要な部分は十吋に達するなり。其速力は十八哩乃至廿哩にして、英國最速の戰闘艦

獨逸の巡洋艦

に比するも、決して劣る所なきなり。

巡洋艦に關しても、獨逸の主義は英米に比して大に異なる所あり。獨逸の海軍當局者は戰時に於て、巡洋艦を以て、其商船を保護することは全く不可能の事となし。其主要の任務は戰闘艦の前鋒となりて、敵艦の實力、其動靜等を探查報告するにありとなせり。此主義を他の海軍國一般に應用し得べきや否やは固より研究すべき問題なれども、少くとも獨逸國自身に取りては、正當の見解なりと云ふを妨げず。若し巡洋艦を以て、海外貿易を保護せんと欲せば、戰闘艦より多くの巡洋艦を要すべく、縦し是を有したりとするも、電報に依て直ちに其所在を知らるゝものとするれば、英國の如き強勢の敵を控ゆるものに取りては、何等の効をも有せざるなり。彼等は信ず、其敵の何國たるを問はず、海上の勝敗は、一戰闘に依て決せざるべからず。而して獨逸が有する凡ての巡洋艦は此目的のために必要にして、其他に力を煩つこと能はずと。獨逸の商業貿易に取て、最も恐るべき危険は、敵艦のために、其港灣と附近の沿岸を封鎖せらるゝことなり。而して是を免がるゝの方法としては、洋上に於て、層く敵艦を迎へ、是を撃破するの

外はあらず、獨逸海軍の目的は全く此處に存せるなり。

されば、獨逸が巡洋艦を建造するは、戰闘艦を補助せんがためにして、貿易保護のためにあらず。是れ獨逸の製艦政策の英米の夫れと異なる主要の點なれども、尙他に一箇の注目すべき相違あり。そは英米に於けるが如く、一萬四千噸、或は一萬五千噸と云ふが如き、巨大なる巡洋艦の効用を信ぜざること是なり。獨逸の巡洋艦は以太利及び日本と同じく、最大なるものにて、八、九千噸を越すことなし。是れ其速力を減じ、運動の敏活を缺かんことを恐るゝが爲なりとす。

今日迄獨逸の建造し、又た今日建造せんとする巡洋艦中、三千噸内外のもの頗る多し。輕裝にして、非常の速力を有し、敵の動靜を偵察するに、最も適當なるを以て、海上の輕騎兵として其効用極めて大なるものあるなり。

獨逸の水雷艇は、英國と同じく、三百噸を以て標準とす、米國に於て見るが如き一千噸の水雷艇なるものなきなり。獨逸の海軍は潜水艇に重きを措かず、其理由とする所は其速力を有せざること、眼界の狭く限られたること、及び其運轉の自由を缺く事等是なり。由來、潜水艇に大に重きを措くは、米佛の二國にして、英

潜水艇の効用

國の海軍當局者も是を重視せざるなり。

獨逸の海軍は年々拾隻七萬五千噸乃至八萬噸宛増加しつつあり。是れ固より英國を除く外、他に斯の如き非常の増加を爲すものあらず。近頃米國海軍の發展實に刮目に價するものあれども、尙ほ聊か獨逸に如かざるものあり。今日の所未だ俄かに獨逸は英國の壘を靡するに至らずと雖も、其増加の比例に至ては、獨逸は既に英國に超ゆるものあり。英國海軍にして、其増加率を一層高むるにあらざれば、兩者の距離は年々減少するの外なきなり。

運河の効

軍艦、大砲、士官等の以外に於て、戰時獨逸の海軍をして、最も有力ならしむるものは、バルチック海より北海に通ずる運河の開鑿是なり。是實に獨逸の艦隊に新たに一の大艦隊を寄與したると其効力を同ふす。運河開通以前に在りては、二箇の海岸を別々に防禦するの必要を感ぜしも、今は一艦隊を以て、是を防禦することを得るなり。獨逸の沿岸何れの所にも、三十六時間にして達することを得るなり。若し敵艦隊の非常に優勢なる場合には、獨逸の全艦隊を此運河中に押込み、敷設水雷を以て是を防禦せば、是に優る安全の避難所はあらざるなり。

獨逸の海軍をして有力ならしむる他の事情

されば、獨逸の艦隊は、其近海にあらん限りは、敵艦隊が如何に優勢の場合に於ても、佛艦隊のツラフハガルに於けるが如く、或は露國バルチック艦隊の對馬海峡に於けるが如き、全滅の厄に遭ふの恐れあることなきなり。該運河の獨逸海軍に與ふる利益の如何に大なるかは、管に獨逸海軍當局者の間に理解せらるゝに止まらず、世界の海軍當局者は悉く是を認識せり。是れ列國が其實力以上に獨逸海軍を重視する理由の一なりとす。

戰時に於て、獨逸海軍をして有利ならしむる今一の事情は、其海岸の多く遠淺にして航海に危険なること是なり。殊に北海に於けるブレイメン、ハンブルグの二大要港の間、及び西の方、和蘭に到る海岸に於て然りとす。是等の沿海は、平時に於てすら、最も危険の航路として航海者の間に注意せられ、年々難破船の數も少からざることなれば、若し戰時に際し、航海の安全を保證すべき一切の標識を撤去せらるゝに於ては、其危険實に云ふべからざるものあるなり。

北獨逸ロイド、及びカムブルクアメリカ會社に屬する百數十隻の快速船は、皆な戰時に於て巡洋艦若くは運送船として獨逸海軍の用を爲すべきものなるこ

とも亦看過すべからざる事實なりとす。日露及び西米戦争に於て、是等の補助船が如何に大なる効用を爲したるかは、今尙ほ世人の記憶に新たなる所なりとす。

獨逸の海軍士官と、其水兵等が實戦に臨んで、如何なる技術を表すべきかは固より一箇の疑問なり。英米佛西蘭及び日本等は何れも海戦の経験を有せるに關らず、獨逸のみは全く是を有せざるなり。然れども、彼等の訓練は極めて善く行届き居れり。其技藝と、智識に關する教育は頗る完全なり。其士官と水兵の多くは、古來其大膽と、冒險と、海事思想に富めるを以て知られたる、バルチック海及び北海沿岸より來れり。是等の事實を綜合すれば、彼等が實戦に臨んで、英米日本等の海軍人に劣る所なかるべしと推定するも、決して架空の想像なりと云ふべからざるなり。

士官水兵の技術は未知數也

獨逸帝國は普魯西の擴張したるものなり

第十一章 獨逸の外交

獨逸帝國なるものは、元と廿六箇の聯邦より成り、普魯西は是が盟主たるに過

ぎず。是れ固より憲法上の議論なれども、其實際に於ては、廿餘の邦國は普魯西に依て統一せられたりと云ふに至當なりとす。普魯西王が獨逸の皇帝たるは云ふ迄もなく、其政治も、陸軍も、畢竟するに普魯西傳來のものにして、其風俗習慣さへも、各聯邦の特性は漸次に消滅し去り、滔々として普國化せられつゝあり。外交のこと亦た固より其例に漏れず。所謂獨逸の外交なるものは、普國外交の繼續せるものにして、其主義方針に於ても、慣用の手段に於ても、根本的の變化を受くることなく、只だ其國運の進歩發達せると、四圍の情況の變化せるがために、其形式に於て、多少の變動を見るに過ぎざるなり。

普國は所謂北方の強なり。千四百十五年、ホーヘンツォルレルン家のフリードリヒ公が其土民を征服して、創めて邦家の基礎を奠めたる當時に於ては、固より蕞爾たる一小國に過ぎざりしが、其民は武勇、慷慨を以て聞えたりき。爾來其武力と、權變、詭詐測るべからざる外交政策とを以て、漸次四隣の地を蠶食し、千八百六十七年の頃に至りては、參拾四萬七千キロメートルの土地と、千三百萬の人口と、貳拾六萬の常備兵とを有する巖然たる一雄邦となりたり。

歴代の普國王は概して好武將にして、亦た卓越せる外交家なりき。而かも聯然として歴代諸王中に頭角を現はし、普國の外交政策に一新紀元を畫し、永く後世に向つて則るべき範を垂れたるものは、フリードリヒ大王なりとす。彼れが外交上の秘訣は、巧妙なる辭令と、懇懇の態度と、誠實らしき舉動とを以て充分に他の信頼を博し。而して一度は機會の來るに際しては、電光石火、端倪すべからざるの勢を以て、其野心を遂行するにあり。巧に反間苦肉の策を弄し、他の強國をして互に相闘はしめ、以て自から漁父の利を得んとするにあり。例へば、千七百四十一年、露瑞二國の干戈を事とするに至りしは、大王の計策に乗せられたるものなること、具眼者の夙に看破する所なりき。然れども、王の二國に對する態度は、懇懇丁寧を極め、殊に露國に對しては、自から瑞典を教唆したりと云ふが如きことの誣妄なる旨を辯解するに於て餘力を殘さざりき。彼は又た露西亞と埃太利とをして衝突せしめんがために全力を盡したり。彼は常に埃に向つて露國の南進の如何に恐るべきものなるかを指示するを怠らず。又た埃にして露と戦端を開く曉には、佛は是を坐視せざるべく、普國も亦た應分の後援を爲す

に躊躇せざるの意を暗示すること一再にして止まらざりき。フリードリヒ大王以後、普國の外交史上に異彩を放つものは、云ふ迄もなくビスマークなり。彼れの人格は大王よりも大にして、其外交上の技倆に至ても亦た遙かに是に凌駕するものあれども、其大體の主義方針に至ては、遂に大王に依て置かれたる普國傳統的外交方針の範圍を脱すると能はざるなり。豈管主義方針とのみ云はんや、彼が外交上に於て、偉大の成功を博したる慣用手段を見れば、何れも是れフリードリヒ大王の遺策を踏襲するものにあらざるは、なきを知らん。普埃戦争の未だ始まらざる以前に於て、ビスマークの胸中、早く既に、一度は埃に打撃を加へたる上は、轉じて佛を屈服するの必要あるを感知せり。而かも、彼は其計畫を深く胸中に秘して、辭色に表はさず。百方力を盡して、奈翁三世の歡心を買はんことを勉め、彼れに懇懇するに、伯耳義を取らんことを以てし、且つ普王の覽に供せんがために、普佛密約の草案を提出せんことを請へり。奈翁乃ち、其使臣ベネデツチをして、是を比公に致さしめたるに、彼は直ちに是を露國に回送して、露の佛に對する反感を挑發し、以て來らんとする戦争に於て露の佛

を助くるとなからんがために防禦線を張れり。千八百七十八年の伯林會議に於て、ビスマルクは寧ろ以太利の權利に屬せしチエニス^{チエニス}を佛國に取らしめ、一方露國の得る所なきに反して、埃をしてボスニアとヘルツェゴビナを取らしめ、以て佛以露埃の間に反感を生ぜしめ、隨て埃以二國をして獨に頼るの外なからしめ、斯くて三國同盟の基礎はなりぬ。既に埃を破り、佛を屈し、聯邦を統一して獨逸帝國を形成したる後、彼が外交上に於ける最大の目的は、露の勢力を弱むるの一事にあり。彼は表面親露主義を装ひ、あらゆる方法手段を講じて、其歡心を求むると共に、一方に於ては、他國の露と近接するを妨害し、機會だにあらば、露國と他の諸國との間に火を投じ、彼等をして立つて相戦はしめんと待ち構へたり。而して彼れが畫策は遂に効を奏し、千八百七十七年、露土兩國は砲火の間に相見ゆることゝなれり。斯くて、彼は露國をして疲弊せしめんとする、宿昔の希望を達したりと雖も、若し露をして自由に戰勝の結果を獲得せしむるに於ては、更に其強大を加ふるの恐れあるを以て、伯林會議を開催し、得意の辣腕を揮つて、露の手中より其當然得べき獲物を奪取し去りたることは、外交史上最も著名の事實

として今尙人口に膾炙する所なりとす。

維廉二世
と獨逸の
外交

ビスマルク逝て以來、獨逸の外交政策は全く現皇帝の手中にあり。カプリビ^{カプリビ}、ホーヘンローヘ^{ホーヘンローヘ}、ビュロー^{ビュロー}を経て現宰相ベイトマン^{ベイトマン}ホルツェツヒ^{ホルツェツヒ}に至る迄、皆な是れ皇帝が手中の傀儡に過ぎず。尤もホーヘンローヘ公は傀儡たるを屑とせず、骸骨を請ふて去れりと雖も、他の宰相に至ては、唯だ帝の指揮命令を遵奉するを以て満足するものゝ如し。皇帝維廉二世は固より不世出の英主なり。而かも其外交家としての技倆に至ては、フリードリヒ大王及びビスマルクに及ばざること遠し。彼等は、大なる權變と術數とを有するも、容易に其鋒先を現はさず、人をして其眞意を忖度するに由なからしめたり。帝の外交政策も亦た固より普國傳統的のものにして、フリードリヒ大王及びビスマルクの政策と相同じ。而かも技巧を缺けり。彼は餘りに直情徑行なり。其爲す所、凡て露骨唐突にして、往々にして傍若無人なり。最も神經の過敏なる外交界に處して、彼は屢大膽不謹慎の言動をなして、内外入をして呆然たらしむることあり。

獨逸の孤
立

現帝の時代に至り、獨逸國運の發展は全世界をして驚駭せしむるに足るもの

あり。其陸軍は愈強盛の度を加へ、海軍は將さに英國の壘を摩せんとし、商工業の進歩、亦た列國に其比を見ざるに關らず、獨り其外交に至ては甚だ振はざるに似たり。ビスマルクが常に其接近を妨ぐるを以て、主要政策としたる露佛は遂に千八百九十一年に至りて協商し、爾後益親密の度を加へつゝあり。殊に平和の君エドワード七世の一度ひ外交舞臺に出現するや、其八面玲瓏の人格と、其標榜する平和主義とは相合して、非常の成功を齎らし、一方歴史的の仇敵なる佛と握手し、一方に於ては到底兩立すべからざるが如く思惟せられたる露國と交歡し、米國及び日本との關係は愈親密の度を加へ、坤輿の上到處る所として可ならざるはなきの概あり。此時に當り、三國同盟の効力尙ほ存すと云ふと雖も、塊以の間の感情は冷々水の如く、時に或は衝突の恐れなきにあらず。而して以佛の兩國は益々接近しつゝあり。獨たるもの焉んぞ、孤立援なきの威に堪えざらんや。

其斯の如くなる所以の理由、一は皇帝の爲人の圭角稜々として圓満の資を缺き、且つ外交上の技倆の足らざるにあること勿論なれども、一は時勢の變化にありと云はざるべからず。第十九世紀の末葉に至る迄、外交と云へば、只だ巧に權

外交政策
に於ける
影響

謀術數を弄し、他國を陥擠して自國の利益を謀るものとせられたり。國際關係に於ては、理非曲直を云ふの必要なく、最後の斷案を下すものは只だ實力のみとせられたり。云ふ迄もなく、是れフリードリヒ大王及びビスマルクの外交主義にして、唯だ一の米國を除く外、列強の外交方針亦た皆な斯の如くなりき。然るに十九世紀末葉より廿世紀の始めに懸けて、漸く外交上に於ける新傾向は現はれ初めたり。新傾向とは何ぞや、自國の利益と體面とを損せざる限り、成るべく他と和借協同せんことを努むること。并に國際間に道義的の曙光兆し、一國の主張にして、甚しく非理なる時は、列國の同情を失ひ、其結果直接間接に非常の不利益を來すが故に、強國と雖も、其慾を恣にすること能はざるに至れること是なり。時勢は既に斯の如く變化せるに關らず、獨逸の外交政策は依然として、フリードリヒ大王以來の舊套を墨守して改むるを知らず。極端なる利己主義を行るに、陳套なる權變と詐術とを以てせんとす。列國の同情が漸く彼を去て、彼をして孤立を嘆ぜしむるもの固より怪むに足らざるなり。

世間往々彼の所謂世界政策なるものを以て、現皇帝の主唱發意に出づるもの

なるが如く思惟するものなきにあらず。固より皇帝は該政策の最も熱心なる支持者にして、屢公會の席上に於て、是を公言して憚らず。又た是が遂行に向つて全力を傾注し給ひつゝあり。而かも是が眞の創立者はビスマルクなること固より疑ふべきにあらず。既に聯邦を統一して、獨逸帝國の建設に成功したる彼れが第二の野心は、歐洲大陸の覇權を握らんことなりき。而して反問苦肉の彼が外交政策は能く効を奏し、大陸の強國は何れも彼が術策に陥るゝ互に相猜疑して、親近することなかりければ、彼は容易に歐洲の中原に覇を稱ふことを得たり。續いて彼が胸中に起るべき野心は、云ふ迄もなく、世界的の希圖たるべきなり。是れ決して吾人が想像にあらず。彼は曾て其腹心の友に向つて、其胸中の磊塊を吐露して曰く、千八百六十六年に至る迄、吾人は普魯西對獨逸政策に苦心し。千八百六十六年より千八百七十年に至る迄は、獨逸對歐洲政策に焦心せしが、千八百七十年より以後、吾人は始めて世界政策の途に上れり」と。遮莫世界政策がビスマルクの主唱に成れるか、皇帝陛下の發意に成れるかは固より論ずるの要なし。畢竟するに、是れ國民的自覺の聲なり。一般國民が醉生夢死せ

る間に、獨りビスマルク若くば維廉二世のみが、其胸中に洪圖を計畫せりと思ふものあらば、是れ箇人と時代との關係を知らざる味者なりと云はざるべからず。塊を打ち、佛を懲らし、國民的統一を遂げ、歐洲大陸の覇を握れる獨逸國民の間に、^⑤儼然として一箇偉大なる自信力の發生せんことは固より怪むに足らず。管に大陸に於て覇を稱ふるに止まらず、世界の端迄も、其權力を及ぼし、老衰せる英國に取て代らんとするの意氣は、磅礴として國民の間に充滿したるにて、ビスマルクや、維廉二世は此國民的要求の實行者たるに過ぎざるなり。普佛戰爭以後に現はれたる獨逸の政事外交に關する出版物に注意するものは、到る所に、或は組織的に、或は斷片的に、同一思想の發現せるを知らん。而して無數の出版物中、其實に於ても、量に於ても、最も傑出し、多數國民が云はんと欲して云ふ能はざりし胸中の希望を、最も大膽明白に言明したるものを、有名なる教授ツライチユケの政治學となす。要するに、獨逸の世界政策なるものは、勃興的國民の間に、自然に起り來れる國民的要求にして、ツライチユケは是に學理上の説明を與へ、ビスマルクは是が實行を計畫し、維廉二世は乃ち今尙是が遂行に焦心苦慮しつゝある

ものなりと解するを至當とす。

吾人は以上に於て、簡畧ながら獨逸外交の鳥眼觀を試みたり。是より更に他の邦國との特殊の關係に就て一言する所あらんと欲す。

和蘭は蕞爾たる一小邦にして、過剩の人口を有し、少額の農産物の外、何等天然の財源を有せざる土地なれども、其地理的關係上、獨逸に取りては最も重大の價値を有するものなることを忘るべからず。

抑も、獨逸の製造工業の七八分迄は、ライン河の流域に集中しつゝあり。隨てライン河は獨逸商業の大通路にして、殊に海外貿易に對しては、最も重要な航路なりとす。ラインの流域に於て製造せらるゝ莫大の貨物は、何れも一度び其河畔に運送せられ、此處より船舶に搭載せられて、ロツテルダム、アムステルダム、アントワープ等河口の地方に輸送せられ、更に海外の各地方に輸出せらるゝものとす。されば、ライン河口が他邦に依て占領せらるゝの不便と、苦痛とは、獨逸に取りて到底忍ぶべからざる所なりとす。前述せる如く、和蘭が何等の天恵をも有せず、特種の工業をも有せざるに關らず、アムステルダムとロツテルダムが繁

獨逸對和蘭

獨逸が和蘭を要する理由第一

榮を極むる所以のものは、全く獨逸商業の通路に位するがためにして。獨逸の側より云へば、ライン河口の和蘭に領有せらるゝがために、自國が貿易上の利益の幾部分を割いて、徒らに他邦人の腹を肥やしつゝあるものと云はざるべからざるなり。

理由第二

更に海軍の立脚點より云へば、獨逸は軍港として、北海に於て、ヴィルヘルムスハーフェンを有し、波羅海に於ては、キールを有すれども、ヴィルヘルムスハーフェンは港内狹隘にして、今後續々製造せらるべき大戦脚艦を碇泊せしむるに適せず。キールの港内は廣濶にして、如何なる大艦巨船をも容るゝことを得べしと雖も、不幸にして其位置宜しからず。丁抹若くば露國を敵とする場合には、頗る便利なれども、英國に對する場合には、不便を感ずること最も大なり。其北海方面に游弋するの頗る困難なるは勿論、和蘭の海上に於ける獨逸の外國貿易を保護するに由なきなり。

獨逸にして、若しライン河口に海軍根據地を有するを得ば、其便利なること固より云ふ迄もなし。以て佛英に對する作戦の根據地となすべく、敵の攻撃を受

くるに際しては最も安全なる避難所たるべく、同時に和蘭海上に於ける自國の貿易を保護することを得べきなり。

理由第三

次に陸上の作戦計畫上より云ふも、獨逸は一刻も和蘭を思量の外に措くこと能はざるなり。和蘭は獨逸に取りて最も堅固なる障壁たると同時に、若し是を占領せば、佛の死命を制することを得べし。和蘭は獨佛兩國間の天王山たるのみならず、獨が英に對する作戦計畫上に於ても、是を占領するに於て、大なる利便を有すること、固より論を俟たざるなり。

されば、獨逸が和蘭に向つて垂涎するは、固より一朝一夕のことにあらず。虎視眈々、常に乘ずべきの機會を窺ひつゝあるなり。而かも彼が今俄かに其野心を逞ふする能はざる所以のものは、只だ列國、殊に英佛二國の妨害を恐るゝが爲め而已。兩國が現在の地位勢力を失墜せざる以上、獨たるもの到底其野心を遂ぐるの日あるべからず。是に於てか彼が取るべきの方法は、唯だ一の懷柔策ある而已。

獨の和蘭
に對する
懷柔策

現皇帝即位以來、獨逸の和蘭に對する政策を見れば、最も明白に其意のある所

を推度するを得べし。一方に於ては、切りに壓迫を加へて、獨逸の感情を害するの恐るべき結果を來すことを覺らしめ、一方に於ては、あらゆる甘言と好餌とを提供して、獨に倚らしめんとす。其狀歴然として掩ふべからざるものあり。例へば、千八百九十二年より千八百九十九年に至る七年の歲月と、四千萬圓の費用を投じて開鑿せられたるドルモンドイムス運河の目的は、全く獨逸貿易の潮流をライン河口より自國の海港に轉せんとするに外ならず。是がために和蘭の受くる打撃の輕小ならざるは論を俟たざるなり。而して一方に於ては、巧に外交官と、半官報とを使用して、英佛の野心の測るべからざること。獨蘭兩國の唇齒輔車の關係を有すること。兩國が歩調を同ふせんことは、其安寧幸福のために缺くべからざること、勸説せしめつゝあるなり。斯くて徐々に彼を導いて關稅同盟、通貨同盟を締結し、遂には進んで、自發的に和蘭をして聯邦に加盟せしめんことを期す。獨の眞意固より此外にあるべからず。是れ事順に名正しく、列國辭を措くに由なく、而して獨に取りては、刃に齧らずして人の國を併呑する所以たるなり。

露獨の國際的關係は、既に一千年の歴史を有す。紀元八九百年代の頃より獨逸人の露國バルチック地方に移住するもの跡を斷たず。漸次其數を増加するに隨て一大勢力となれり。始めの間露國は是に向つて些の注意を拂はず、寧ろ是を歡迎するの傾向なりしが、其勢力の侮るべからざるものあるを發見すると同時に、一方に於ては露國に國民的醒覺のあるありて、漸く是を露化するの必要を感ずるに至れり。殊に千八百八十一年、歷山三世の即位以來、非常の熱心を以て、其主義を勵行し、新教に迫害を加へ、外國人の土地所有を禁じ、法廷に於て獨逸語の使用を禁ずる等、獨逸に對してあらゆる壓迫を加へたり。獨逸が是に對して平かならざるものある固より怪むに足らざるなり。

千八百七十年、獨佛戰爭に際しては、露はビスマルクの反間により、佛の野心を疑ふと共に、拿破崙三世の實力を過信し、獨逸の勢力を過小に見積りたるを以て、獨に對して好意的の中立を宣言し、若し第三國にして、佛を助くる場合には、露は獨を助けんことを約したり。斯くて戰爭は遂に獨逸の大勝を以て終局を告げたり。而かも露は是がために、何等の報酬をも得ざりき。固より露國と雖も、自

己の好意的中立のために直ちに報酬を請求する程に現金ならず。他日獨の好意に依て大事を解決する日あらんことを期待したりしなり。

時は遂に來れり、久しく結んで解けざりし露土間の葛藤は、千八百七十七年に至りて、其絶頂に達し、砲煙彈雨に訴ふるの外は、復た解決の方法を見出さざるに至れり。固より露をして最後の決心をなさしむるには、獨の慫慂と、戰爭破裂の場合には、好意的態度を取るべしとの言質與つて力あり。斯の如き機會に際し、獨が露に援助を與へんことは、固より當然にして、露の無邪氣坦懐なる更に是を疑ふことなかりき。されば、露は今度こそは宿昔の希望なるコンスタンチノールを略取するの目的を達し得べしとして、勇躍禁ずる能はざりしなり。而して露軍は連勝の勢を以て、長驅直ちにコンスタンチノールを衝かんとするや、突如として、英國軍艦はボスフォラス灣頭に現はれ、露の君府占領に異議を挿み、埃匈國も亦た英國に左袒して、是がために露と戰端を開くことを辭せざるの態度を示せり。是時に當り、露の頼む所は、只だ獨逸あるのみ。露が如何に切に獨逸の同情を要求せしかは、想像するに堪へたり。

露土戦争
に對する
露の態度

露國の利
害關係

而かも幾もなくして、露は頼むべからざるものを頼みたるの愚を發見し、悔恨の情骨に徹したり。獨は敢て英、埃二國の爲す所に反對せざるのみならず、却て彼等と歩調を共にして、露の君府占領を妨げ、續いて列國會議を開催して、露をして何の得る所なからしめたり。此時より以來露の獨に含むこと甚しく、獨は百方力を盡して露の歡心を買はんことを努むれども、遂に今に至る迄露をして釋然たらしむること能はざるなり。

露獨の相敵視するは歴史的に深因あるのみならず、現在に於ても亦た調和すべからざる利害の衝突あつて存するなり。埃、匈國に於ても、バルカン半島に於ても、小亞細亞に於ても、二國は互に兩立すべからざる關係にあり。殊に露國に取りては、コンスタンチノールブルを占有せんことは絶對的の必要にして、如何なる犠牲を拂ふも其目的を達せざんば止まざらんとす。而かも獨逸に取りては、危險是より大なるはなし。コンスタンチノールブルにして、一度は露國の手中に落ちんか、地中海方面と黒海方面とは共に露の制馭を受くべく、隨てバルカン半島は其勢力の下に立つべく、遂には埃、匈國の安全を脅かさるゝに至らん。是れ

到底獨逸の忍び得る所にあらず。如何なる危險を冒しても、露のコンスタンチノールブル占領には反對せざるを得ず。斯く露と獨とは到底衝突せざるべからざるの運命を有するなり。

されば、獨逸の露に對する政策は、成るべく表面に好意を裝ふて其歡心を買はんことを努め、一方に於ては、露と他強國との接近を妨げ、其銳鋒をして英佛若くは極東に向つて轉せしめんとするにあり。而かも外交のこと往々カイザルの意の如くならず。英は近頃露佛同盟に接近し、極東に於ては日露の協約新たに成り、戦争の瘡痕漸く癒え、露國は復び昔日の威風を以て、歐洲の中原に臨まんとす。獨逸たるもの到底高枕安眠すること能はざるなり。ビスマルクは埃國をして、城下の盟を爲さしめ、國民の意氣正さに注なるに乗じて佛を打たんと欲し、其機會を翹望したりき。而して佛が西班牙の王位問題に關して不法の干涉を試むるに於て、獨は是を以て絶好の機會となし、直ちに故障を申込み、大に妨害を試みたり。拿破翁三世是に於て大に怒り、普國に向つて宣戰を布告したり。是れ實にビ公の夙に待設くる所なりき。斯くて彼は思の

獨逸對佛
關係

儘に佛に打撃を加へ、彼をして復び立つ能はざらしめんがために、佛をしてアルサス、ローレインの二州を割讓せしむる外に、貳拾五億圓の償金を拂はしめたり。然るに佛の回復力は意外に旺盛にして、僅に數年の間に無慮廿五億の償金を皆済し、國民皆な臥薪嘗膽、戰敗の屈辱を雪がんとするの意氣を示せり。是に於て、ビスマルクは佛に再度の打撃を加へ、百年の憂患を除かんと欲し、千八百七十五年、陰かに英露二國の意向を探りたるに、獨に取りて不利益の情報を得たるを以て、流石のビスマルクも其計畫を抛棄するの止を得ざるに至れり。

是に於て、佛國民の敵愾心は其極に達し、獨人の肉を啗はんと欲するの慨あり。爾來三十有餘年、汲々として軍備を充實し、國富を増殖し、一に報復の手段を講ずるを以て國是となせり。而かも敵愾心なるものは如何に熱烈なりとするも、畢竟するに一箇の感情に過ぎず。歲月の経過と共に漸次消失するを免かれざるなり。現に佛の獨に對する復讐心も最近十數年に於て、著しく其熱度を減じつゝありたり。

獨の佛に對する政策は露に對すると大差なし。一方に於いて、佛の他の強國

に近接するを妨げ、彼をして孤立せしむると同時に、一方に於ては、成るべく是に好意を表し、其歡心を買ひ、其敵愾心を鈍らしむるにあり。ビスマルク及び他の獨逸政事家の爲す所、勿論斯の如くなりしなり。然るに、日露戰爭のため、露の勢力の滅殺せらるゝを見るや、獨の佛に對する態度往々謹慎を缺き、漸く消へ失せんとする佛の敵愾心をして再燃せしむるが如きものあり。彼の摩洛哥問題に關する獨の態度の如き其著るしき例なり。斯の如き小故を以て佛を挑發するは決して獨のために謀つて賢明の政策なりと云ふこと能はず。遮莫、若し獨の眞意、英と露とが如何なる程度迄佛の後援たらんとするを試験するにありと云はゞ、吾人復た何をか云はん。

獨佛の不和は主として感情に起因せり。而かも利害の關係も亦た固より是なきにあらず。アルサス、ローレインを回復せんことは、感情問題を離れても、佛蘭西に取りて必要のことなるべし。又た其民情風俗より云ふも、地理上より云ふも、ライン地方は寧ろ佛蘭西に屬すべきものなるに、其獨逸に屬するがために、佛が國防上に危険を感ずること抑も幾何ぞや。佛蘭西の國境は、一方海峡を以

て劃られ、他方にはピレニース山とアルプス山の天嶮あり。獨り東北方のみ全く開放せられつゝあり。之を以て、ライン南岸の地方を得、ライン河を以て國境となさんとの希望は、曾て暫らくも佛國爲政治家の胸裏より離れたることなきなり。又た佛の白耳義に對するは獨の和蘭に對すると其關係相同じ、而して一朝和蘭にして獨の手中に落つる時は、白耳義は危險に陥らざるを得ず、隨て佛蘭西の安全も亦た脅かされざるを得ざるなり。其他獨が佛の殖民地の或ものに垂涎せるが如き、摩洛哥に於ける勢力争の如き、何れも物議の種たらざるはなきなり。

既に感情の衝突あり、利害の相同じからざるあり。縱令、摩洛哥問題は幸にして平和の解決を告ぐべしとするも、今後何時、如何なる方面に於て、兩國が砲火を開くの辭柄を見出すべきか、何人も是を豫期するに由なしと雖も、兩國間の均勢の破れたる時は、乃ち平和の破るゝ時なりと斷言することを得べし。今日の所兩國の實力は互に相匹敵するものと見做すことを得べく。而して獨は塊以を連ねて、三國同盟を結び、近頃土耳其をも引いて、是に接近せしむべく成功したる

獨佛の戦
起るべき時

獨逸對英

ものゝ如し。是に對して、一方には露佛同盟あり、英佛協約あり、以て勢力の均衡を保ちつゝあり。一朝何れの側に於てか變動を生じ、兩者の勢力に多少の差等を生じたる時は、歐洲の中原に龍攘虎搏の大活劇を演出するの時なりと覺悟せざるべからざるなり。

獨逸が世界の到る所に其權力を樹立せんとするは、一は國民の虛榮心に發するものなれども、一は必要に逼らるゝがためなりとす。今や獨逸の人口は六千五百萬に達し、年々八九十萬人宛増加しつゝあり。伯林大學の教授、シモラー博士は、千九百六十五年に至らば、獨逸の人口は一億四百萬人に達すべしとなし、佛國の統計家ビュロー氏は、本世紀の終に於ける獨逸の人口は二億萬人を超ゆべしと推算せり。獨逸が近き將來に於て、人口の過剩に苦むに至らんことは殆んど疑を容るべからざる也。されば獨逸の爲政治家が、此過剩の人口を移殖せんがために適當の場所を得んと欲して苦心するは固より當然のことなりと云はざるべからず。而かも白人の移住に適すべき、溫帶的の地方は、殆んど悉く他強國、殊に英國の占領する所となり、獨逸のために餘す所なきなり。是に於て獨

獨は英國
の殖民地

逸は其生存の必要上、勢ひ他國の殖民地を窺奪せざるべからず。而して彼が最も多く垂涎する所は、濠洲印度ツランスバル其他の英國の領地にあることを論を俟たざるなり。

商工業上の競争者

商工業上より云ふも、英獨は最も激烈なる競争者なり。最近廿年來に於ける獨逸商工業の發達は非常にして、世界の到る所に於て、着々として英國の市場を侵蝕しつつあり。獨人は英人に比して、生活の程度低く、英人の到る所に於て、其習慣風俗を固執するに反し、獨人は時處に随つて變化し、所謂郷に入ては郷に隨ふの風あり。是れ獨逸商人の英商人に優る所以にして、世界に於ける英國の市場は漸く獨逸のために横奪せられんとするの恐れなきにあらず。況んや英國が自由放任の政策を取るに反し、獨逸は極端の保護政策を取り、自國品の輸出を奨励し、他國品の輸入を排斥するに於て、至らざる所なきに於てをや。英が獨に對して憐焉たらざるもの固より怪むに足らざるなり。

國の目的は英を倒すにあり

斯くて、獨逸が其世界政策を實行せんとするに當り、其前路に横はる最大の妨害者は、佛にあらず、露にあらず、實に英なり。獨逸の有識者が此點に關する思想

海軍擴張の最終目的

は最も大膽無遠慮に、あらゆる新聞雜誌著書に於て發表せられつゝあり。今其一例を擧ぐれば、伯林大學教授ハンスデルブラック博士は千九百年二月發行の北米評論紙上に於て、坤輿の上にある一切のものは正さしく人類の共有物たるべき筈なるに、英國は世界の大部分を占領して、其殖民地となし、他人が是に一指を加ふるを許さず。又た全世界の商利を壟斷し、他國民の是に競争を試むるものあらば、妨碍百端至らざる所なきなり。平和の手段を以てしては、到底吾人は其目的を達し得べきにあらず。而して我國の海軍力は未だ獨力を以て英を屈すること能はざるを以て、英を敵とするに於て、利害の關係を同ふする、露佛と同盟して、是に當るを要するなり」と論斷せり。

露佛獨の同盟と云ふが如きものが成就し得たりとせば、英に當るに於て最も有力のものたること云ふ迄もなし。而かも是れ一部人士の夢想にして、到底實現し得べしと思はれず。されば獨の取り得る唯一の政策は、一方露佛の英に接近するを妨碍し、一方に於ては、極力其海軍の擴張を圖り、獨力を以て英に當るの日を俟つにあり。最近に於ける獨逸海軍の異常なる發達に見ば、蓋し思ひ半ば

獨逸對摩
洛哥

に過ぎんなり。
摩洛哥は北部亞弗利加に在る一獨立國にして、西班牙の南端より僅かに廿五哩の距離にあり。土地豊饒、氣候温和なれども、文明の程度甚だ幼稚にして、惡政のため、國內疲弊せり。英佛獨西の四國は或は軍事上より、或は商業上より、何れも多少の利害關係を有しつゝあり。其勢力争のため、往々にして歐洲の中原に禍亂を捲き起さんとする所以なり。

西班牙が摩洛哥と交渉を有するは、殆んど一千年來のことなれば、歴史上より云ふも、地理上より云ふも、最も深き關係を有する筈なれども、其の國勢の振はざるがために、其發言に何等の權威なきは、是非もなき次第とこそ云ふべけれ。英國が摩洛哥に對して注意を怠る能はざるは、一に其ジブラルタルを有するがためなり。若し其對岸摩洛哥の山上に大砲を据えて、是を攻撃せば、ジブラルタルは決して難攻不落を誇る能はず。随つて英國は到底摩洛哥の他強國の手中に落つるを坐視する能はざるなり。佛蘭西が摩洛哥に重大の關係を有する所以は、其屬領たるアルジェリヤと土壤相接し、而かも其境界線の出入錯綜して分明

英佛西の
摩洛哥に
對する關
係

ならざるものあり。千八百卅年以來屢、葛藤を生じ、其度毎に佛は是を略取せんことを企てしかども、常に列強の妨礙に遭ふて其意を遂ぐる能はざりしなり。

獨逸の摩洛哥に關係を有するに至りしは、全く最近のことに屬す。千八百八十八年アンジェルト灣に於て、貯炭所を租借し、千八百九十年條約を締結し、千八百九十五年定期航路を開き、公使を駐劄せしめ、時々軍艦を派遣しつゝあり。而かも其商業關係に至ては敢て云ふに足るものなく、同國に對する獨逸の輸出は年々百萬圓を上下するに過ぎざるなり。而して其他には政治上に於ても軍事上に於ても、何等痛痒の關係を有するとなきなり。されば摩洛哥に事變ある毎に獨逸が迷々焉として、自國の一大事件なるかの如くに、振舞ふは滑稽の極にして、流石權變に慣れたる歐洲の外交家も其厚顔なるに呆然たらずんばあらず。而かも怪むを止めよ、是れ寧ろ彼が慣用手段なり。斯くて強て列強の間に割込み、着々として其間に地歩を占め、以て異日の變に備へんとする而已。而して附隨的の目的は、一朝機に乗ずべきものあらば、是に依て英佛をして乖離せしめんことを助め。又た英佛二國が果して眞に獨を相手として戰ふの決意あるや

否やを探るの感觸器として是を利用せんとするにあるなり。

第十二章 教育界

教育制度の完備せること、國民教育の普及せること、其大中小學校の設備の完
全せることも亦た獨逸が他國に卓越せる事の一にして、其國運の隆盛を致せる
原因全く此處に存す。此事實は、今や一般に他國の認むる所となり、各國何れも
視察員を派遣して、其教育制度と、其實施の模様を研究せしめ、以て自國教育の進
歩に資せんとしつゝあり。殊に米國教育家の益を求むるに急なる毎年夏期休
暇に際し、觀光を兼ねて獨逸の教育事情を視察せんとするもの無慮數千に上ら
んとす。

大學に至ては、各國其主義目的を異にするものあり。例へば英國に於ては、大
學を以て學識と品性と技倆とを兼備せる國士を養成する所と爲し。獨佛諸國
に於ては、單に是を學術研究の場所となすが如し。されば俄かに各國の大學を
比較して其優劣を判すること能はずと雖も、若し大學を以て學術研究の府とな

さば、獨逸の大學を以て各國大學中最も優秀のものとなすに於て、何人も異論な
かるべきなり。固より學科に依りて、英米獨佛各其長所を有し、隨て海外より是
等諸國の大學に來り學ぶもの少からずと雖も、最も多くの外國留學生を有する
ものは獨逸の大學なりとす。日本より毎年海外に送らるゝ留學生の殆んど三
分の二は獨逸の大學に行くものなるは、普く世人の知了する事實なりとす。米
國の學界は近時非常の進歩をなし、殊に其大學の設備に至ては概して歐洲の大
學に比して勝るとも劣る所あることなし。是を以て、今は米國より歐洲に留學
するもの、極めて少しと雖も、今より僅か二三拾年前に溯れば、米國の學生は自國
の大學を卒業して後、一度び獨逸に留學するにあらざれば、學者たるの資格に缺
くる所あるが如く思惟せしこと、今日の我國に於けると異なることなかりしな
り。

教育の普及せること、亦た亦も著るしく、通常の能力を有せる學齡以上の人間
にして文字を知らざるものは、殆んどなしと云ふも、決して過言にあらず。獨逸
の陸軍省が其徵兵適齡者に關して公にせる統計表に據れば、千八百七十九年

に於てはアルフハベットを讀み得ざるもの、拾四萬〇八百八拾壹人の中に、二千二百七十七人即ち一分五厘七毛なりしが、十年後の千八百八十九年に於ては、十七萬〇四百九十四人中、僅かに八百六十九人即ち五厘一毛となり。千九百〇五年に於ては、二拾五萬五千百〇三人中、只だ二百十三人即ち八毛の割合となれり。勿論、是れ全國の平均にして地方の異なるに隨て、其割合に高低の相違あり。廿六聯邦中の拾箇に於ては、殆んど文字を讀み得ざるものなく、ヴェストフハリア、シユレズグアイヒホルスタイン、ハノーバー、ラインランド等に於ては、一毛乃至二毛の割合に過ぎず。是に反して、ポーゼン、東プロシア、西プロシア等、波蘭土人の多數を占むる地方に於ては、三厘一毛乃至四厘一毛に上るを見るなり。併し、是とて他の文明諸國に比すれば、其割合遙かに低下なりとす。近來英米佛日本等に於ける教育普及の趨勢大に見るべきものあれども、未だ容易に獨逸の壘を廢するに至らざるなり。

以上は是れ只だ初等教育に關することなれども、中等教育に於ても、佛國との戰爭以來長足の進歩をなせり。ギムナシア(高等學校)リアルギムナシア(主とし

中等教育機關

て古典學と近科學とを教ふ。リアルシユール(數學、地理、歴史、理化學、近世語學)等中等科等の校舍現在數百の上に出づれども、何れも滿員の盛況を呈し、而して年々私設せらるゝもの數十の多きに達すれども、尙ほ入學志望者の全體を容るゝ能はざるものゝ如し。是等の學校の授業料は比較的低廉にして、柏林ドレスデン、ライプチヒ等の大都會に於ける最上のものにて、一年百參拾馬克即ち六拾五圓を越ゆることなし。尤もとは公立學校に就て云へるにて、私立學校の授業料は概して是よりも高し。公私とは、是等の學校の全科を卒業するものは、大學に入學することを得、其或程度迄を履修するものは一年志願兵たることを得るの特典を與へらるゝなり。

大學及び其他の專門學校に於ける入學志願者も、年々歳々、其數を増加しつゝありて、是を卅年前に比すれば、數倍の上に出づべし。現在柏林大學は七千、ミュンヘン大學は五千、ライプチヒ大學は四千の學生を有す。獨逸の大學は何れも四分科に別れ居れるが、各科増加の割合の非常に相違あるを見れば、以て時勢の趨向を忖知することを得べし。其増加の比例の最も大なるは法科なり。此

大學專門學校の學生數

各分科の
消長

科には、政治、法律、經濟の三部門あり、凡て官吏たらんとするものは此分科を卒業するを要するなり。是に次て大なる増加をなせるを醫科とす、其業務を實行せんがために多くの準備を要すれども、全く獨立的にして、且つ殆んど生活に苦むが如き惧れなきに由るものならん。是に次げるは哲學科なり。此分科には純正哲學の外、文學、數學、天文學、言語學、史學等無數の學科を包有すれども、何れも名利權勢に縁遠き科目たるを免がれざるなり。最後に來るものは神學部にして、昔に増加せざるのみならず、漸次減少の傾向あり。是れ經世家の最も注意を拂ふべき現象なりとす。實際問題として、神學の興味は舊時に比して決して減少せるにあらず。新教派たると、舊教派たるとに論なく、僧侶牧師の俸給は以前に比すれば、頗る増加せり。されば神學を修むるもの、減少する所以は何ぞや。云ふ迄もなく、第一の理由は無神論及び非宗教的精神の旺盛なるにあり。是れ獨り獨逸のみに止まらず、世界一般の傾向なるが、特に獨逸に於て、其青年が神學を修むるを妨ぐる事情は、所謂正統派保守派と稱するものと、新神學派、高等批評派の争鬭の激烈にして、人をして適從する所を知らざらしむること是なり。

高等遊民
の増加

高等教育の普及は、一國の文明を上進せしむるに與つて大に力あること、固より論を俟たざれども、是と同時に弊害の是に伴ふものあるは實に止むを得ざる所なりとす。獨逸に於ては、是がために既に頗る危險の情態を呈しつゝあり。若し是に處するの道を講せず、自然の成行に放任するに於ては、危險の度益甚しからんとす。斯の如くなる所以の理由に至ては、極めて明白にして、殆んど説明の要なきに似たり。即ち年々歳々、大學其他の専門學校を卒業する青年の無數なるに關らず、彼等の總てをして満足せしむる丈の地位と職業となきなり。斯くて、最高等の教育を受けながら、何等の地位職業をも有せざるもの、數は年を逐ふて増加せんとす。是等の中の或者は、依然として父兄親戚を煩はし、或者は海外に移住し、或は海外に於て職業を發見すべしと雖も、其大多數は遂に泣く泣く自己の修めたる學科に縁遠き職業に就き。然らざれば、自己の當然占め得べき地位よりも遙かに劣れる地位に満足すべく餘儀なくせられ。斯くて不平不満を以て日々を送ることとなるなり。社會黨員中に於て牛耳を執るものは、何れも斯の如き階級より來るものとす。幸にして、今日の社會黨なるものは、頗

現在教育
制度に對
する皇帝
の意見

守舊派の

る穩健着實にして、社會の平和を害するの恐れ少しと雖も。而かも往々にして危激極端に流れ、無政府黨の畛域に入るもの少からざるなり。

獨逸の有識者中、現在の教育制度を以て、時勢の要求に適せずとするもの少からざるは、亦た注目すべき事實なりとす。現皇帝即位の當座、此點に關して、根本的の改革を爲さんとして、努力し給ひしことは、今尙ほ世人の記憶に新たなる所なりとす。皇帝の意蓋し教育制度なるものは、如何に完全にして、且つ或一定の時期に於ける實際生活に適合したるものなりとも、必ずしも未來永遠に斯の如くなるべきを庶幾すること能はず。現代の要求は、科學の理論と實際とを、今一層充分に研究せしむることにあらざるべからず。此點を等閑に附するに於ては、必ず國際競争の敗者たらざるべからずと云ふにあり。帝は屢、右の意見を發表し給ひ、且つヒンツペテル、リードラー、スラビー等の諸教授をして、此點に關して研究せしめ給ひしことあり。又普國の内閣に命じ、其重立たる教育家をして、實行の方法を審按せしめ給ひたることもあるなり。

而かも國內の守舊派は、擧つて帝の意見に反對したりき。而して彼等は皆な

反對

官吏として、教育家として、重要な地位を占むるものなるが故に、悔るべからざるの勢力ありて、帝の權威を以てするも容易に壓服すべからざるものあり。反對論の要旨は、獨逸は現教育制度の下に、偉大なる進歩發達を遂げたるものにして、各國皆な是に倣はんとするの傾向あり。若し其教育制度中より、古典を撤去するが如きことあらば、是れ國民の精神的修養上に、回復すべからざる損失なるべしと云ふにあり。畢竟するに、何時の世、何れの國に於ても、發見し得べき戀舊分子の常套語たるに過ぎざるなり。勿論、有力なる教育家にして、同様の意見を有し、機會ある毎に是を世に公けにしたるもの少からず。例へば、リードラー教授の如き、シャロットテンブルグ高等工業學校の校長に就任するに當り、其就任式の演説に於て、獨逸の教育制度中より、希臘羅馬等の古典を省き、應用科學と、近世科學に一層重きを置くの必要を述べたり。論理正確、結構雄大、堂々たる大演説にして、全國到る所に反響し、あらゆる新聞雜誌は、是に對して、多少の評言を費やせしが、十中の八九は反對の意見を表したりき。

餘りに反對論の頑強なるがために、流石のカイゼル陛下も一時其主張を撤回

すべく餘儀なくせられ給ひしが。漸く近來に至り、獨逸の教育制度は一大改革を遂行するにあらざれば、國際競争場裡に敗を取るに至るべしとの意見、教育者間に盛行するに至り、カイゼルをして先見の明を誇らしむることとなりぬ。近頃斯の如き新教育意見を載せたる一書、獨逸の一高等官吏に依りて公にせられたり。彼は獨逸現在の學校——中學も、高等學校も、専門學校も、大學も——は其卒業生に實際生活に必要な智識と手腕とを附與するものにあらざるを論じ、根本的に是を改造するの必要なることを主張し。其改革の第一着手として、大學に工業部を置き、中學と、高等學校をも、是に準じて改革せんことを切論せり。

爾來學制改革の聲益喧しく、漸く實行の端を開くに至れり。曾てフランクフルトに、新教育主義に基せる高等學校ありて、世人は寧ろ輕蔑の意を以て是を見るの有様なりしが。其後プレスラウ及びダンチヒにも同様の學校の設立せらるゝあり。入學志望者非常に多く、漸く盛大に越かんとするものゝ如し。其科目は概してリードラー教授の意見に隨へるものにして、希臘羅甸の古典を除き、科學と近世哲學に重きを置くものなりとす。

物質主義
の傾向

近時獨逸學生間に於ける、物質的實利主義の傾向は頗る著るしきものあり。此傾向を云ひ表はさんがために、特に「ストレルツム」なる一新語の造り出だされたる程なり。物質的の成功を得るに急にして、其目的を達せんがためには手段を擇ばざるの謂なり。蓋し我國現時の成功熱と略ぼ同じきものと、了解せば中らずと雖も遠からざるなり。曾て獨逸人は理想に憧憬する國民なりと云はれたる時代ありき。また獨逸人は學問を好む國民にして、敢て是に依て名利の慾を達せんとするにあらず。只だ眞理を發見せんがために、學術を研究するものなりと云はれたる時代ありき。固より今日と雖も、斯の如き篤學の士を全く有せざるにはあらざれども、晨星の寥々たるものにして、浴たる學生社界は、物質的の成功を追求するの外に餘念なしと云ふも、決して過言にあらざるなり。是を以て、新教育制度の結果なりと云ふものあれども、新教育制度なるものは、昨今僅かに實行の端緒を開きたるものにして、未だ俄かに多大の結果を生ずべきにあらず。畢竟するに、是れ世界的の傾向にして、英國に於ても、米國に於ても、日本に於ても、等しく目撃する所の現象たるに過ぎず。而して獨逸及び日本の如

獨逸學生の體育

く急劇に經濟組織の變動を來せる所に於ては、特に斯の如き傾向の甚大なるものあるを免かれざるなり。

是に反して、學生間に於ける良傾向と云ふべきは、健全なる遊戯と體育に對する熱心の勃興せることなりとす。是れ一に皇帝が熱心に是を獎勵し給ふのみならず、自から其範を垂れ給ふに是れ依るなり。今より僅か廿年前に溯れば、獨逸學生間に於ける遊戯體育なるものは、只だ劍術ありし而已。而かも今は何れの大學にも、水泳俱樂部あり、短艇俱樂部あり。テニス俱樂部あり。フットボール俱樂部あり。競争俱樂部ありて、一年中盛に練習をなし、時々對校競技ありて、學生の血を涌かしむ。皇帝が斯の如き男兒的の遊戯を愛好し給ふことは、其天性より出づるものと云ふべく、對校競技のある場合には必ず臨場し給ひ、手づから勝者に賞品を授與し給ふを常とするなり。斯の如き遊戯は、元と是れアングロサクソン特有のものにして、獨逸の學生間に輸入せられたるは極めて近來の事に屬するを以て、米英の大學に比して、尙未だ遠く及ばざるは云ふ迄もなき事なれども。他日彼等が長足の進歩をなしたる後、今日英米大學間に於けるが如

微惡風の衰

く、獨逸の大學と、英若くは米の大學と對校的兼國際的の競技を實行するに至らば、最も興味多き年中行事の一たるべきなり。

英米に於ても、大學生間には特殊の風俗習慣ありて、往々不健全の行爲に耽ることあり。識者をして憂慮せしむることなるが。獨逸の大學に於て其弊最も甚だしきものありと稱せらる。而かも幸にして、漸次其勢力の減少しつゝあるを見るは甚だ喜ぶべき事なりと云はざるべからず。殊にビールを鯨飲すること、決闘を以て無上の名譽とするの習慣とは著るしく衰へつゝあり。學生間に幾多の決闘俱樂部なるものあり、學生の大部分は是に屬し、些細の口實を發見しては、他の俱樂部員と決闘をなし。以て獨逸魂此處に存すとして、得意がりしものなるが。今日は斯の如き俱樂部に屬せざる學生の數、大に増加するに至りしのみならず。一方には斯の如き蠻行を阻止するを以て、目的とする俱樂部の組織せらるゝありて、團體の勢力を以て、惡習慣に抵抗しつゝあり。今日にては、決闘を申込まれて、是を拒絶したりとて、是を大に耻辱とするが如き感情は漸くにして消へ失せんとす。殊に大都會に於ける、第一流の大學に於て然り。地方

の大學に於ては、其生活の單調なると是に入るものゝ多くは、單に或時期の間大學生活を送らんとするにありて、眞に學術の研究に腐心せんとするにあらざるを以て。尙ほ斯の如き蠻行に依て、消閑の法を見出さんとするもの比較的に多しと雖も、伯林、ライプツヒの如き都會の大學に於ては、只だ僅かに殘喘を保つに過ぎずと云ふも不可なし。例へば、伯林大學に於ては、決闘主義の學生に比し、非決闘主義の學生は、一に對する六の割合を以て多數を占めつゝあるなり。始めて獨逸を見舞ふものゝ眼に、最も著るしく映ずるものは、途上に逢ふ所の紳士の多く、其面上に癩痕を有することなるべし。而かも四十歳以上の年輩のものに多くして、廿代の青年には甚だ少きを發見すべきなり。余の意固より決闘を以て過去の遺物と成り了せりと云ふものにあらず。今尙獨逸の新聞紙上往々、危害の恐れなしに、面部に畏怖すべき癩痕を附せんことを求むる者及び是に應ぜんとするものゝ廣告を見ることあり。而かも漸次斯の如き痴漢の數を減じつつあることは争ふべからざる事實なり。思ふに今後二三十年を経過せば、全く斯の如き蠻行の跡を社界に絶つことを得べきなり。

獨逸人のビールに於けるは、猶ほ佛蘭西人の葡萄酒に於けるが如く、日本人の清酒に於けるが如く。是なくしては、其生活上、社交上に一大缺陷を感ぜざるを得ざるなり。ビールと獨逸人とは既にタントスの時代に於て密接の關係を有したること當時の記録に存せり。今後亦た渝ることなけん。ビールは獨逸人に離るべからざる戀人なり。されば學生の集會に於て、必ずビールの是に伴はざることなきは固より云ふ迄もなき事なり。相談會にも、親睦會にも、送別會にも、歡迎會にも是を飲み、競技に勝てば大に祝杯を擧ぐるは勿論、負くるも亦た固より飲むなり。斯の如きは尙ほ怨すべし、其怨及ぶべからざるものは、所謂「ビール戰」なり。其目的單に一箇極めて幼稚なる浮誇心を満足するに過ぎず。對手者如何に多くの同席者ありとも、二人の外は見證者たり、見物人たるに過ぎず、交る交るに飲み、一方が玉山頹然として崩れ、前後不覺となるに至て止むなり。斯くて略ぼ二合を容るべき大なる蓋附のビール呑五拾杯以上を代ふること珍らしからざるなり。而かも斯の如き惡習の漸く衰退しつゝあるは、獨逸の將來のために非常に喜ぶべき現象なりと云はざるべからざるなり。

何れの國に於ても、大學生の生活は最も愉快なるものなり。而して彼等の生活をして、最も愉快ならしむる主なる原因は、彼等に特有の習慣の存するにあり。されば、無害なる習慣は是を廢棄する必要なき而已ならず、成るべく是を保存することを勉むべきなり。伯林其他の都市に於て、學生下宿屋の軒を並ぶる地方を通行するものは、往々市街の一の側より他の側に下宿の樓上に綱を引き、あるを見るべし。而して異様の物音に驚かされて頭上を仰げば、バスケットの綱渡りするを見て、一驚を喫することあるべし。怪むを止めよ、中にあるものは、ビール、菓物、チーズ其他の飲食物若くは書籍等にして、學生相互間の贈答貸借の品物たるなり。

獨逸大學に於ける費用は、是を英米の大學に於けるに比すれば、頗る小額にて足れり。伯林大學は獨逸の他の大學に比すれば、多くの費用を要すること勿論なれども、尙ほ一年七百圓内外にて足るべし。若しグリーンズワルト、ギンゼン、チューピング、ピルツブルグ其他の小なる大學に行かば、五百圓内外にて、一ヶ年を支ふること決して難事にあらず。されば英米の學生に取りては、縱令往返の

獨逸大學
の學費

旅費を計算するも、自國の大學に學ぶよりは、遙かに經濟的たるなり。學生を顧客とする料理店に於ては、大抵一回參拾錢内外にして、相當滋養に富める食事を供するなり。肉價の廉ならざる獨逸に於て、如何にして斯の如きことを爲し得るかと驚かるゝ計りなり。要するに是れ多くの顧客を有すると、勞働賃金の低廉なると、薄利に甘んずるに由るなり。何れにしても、學生に取りて、非常に便利なることなれども、社界の制裁緩慢に過ぎ、殊に學生間の風紀甚だ嚴格ならざるを以て、英米の大學に遊ぶに比すれば、誘惑に陥るるの危険多きことを忘るべからざるなり。

教授氣質

余は前に獨逸學生氣質の非常に變化せることを述べしが、教授等も亦た浮世の風潮に隨て自然に變化しつゝあり。世の小説家が好んで描出する、獨逸大學教授の典型なるものは、長髪を蓄へ、大なる不恰好の眼鏡を懸け、杖を携へ、素朴にして身邊を飾らず。好人物にして、世事に疎く、而して最も博學多識なるもの是なり。而かも是れ過去の大學教授なり。今や此種の教授は獨逸全國を搜索するも、是を見出すこと頗る困難ならん。

今日吾人が實際に見る所の獨逸大學教授なるものは、全く是と異なれり。敏捷快活にして、世事に通曉し、流行の衣服を纏ひ、金縁眼鏡を懸け、鼻下にカイザル髭を蓄へ、ハバナの葉巻を吹かせる、一寸の隙間もなき當世紳士なりとす。是を進歩と云ふべきか、退歩と云ふべきか、容易く斷言すること能はずと雖も、余は舊式の教授の他迄學者らしきに與せんなり。

教授等の外形の變化は、雖がて是れ精神上の變化を表彰するものにあらざるか。余は獨逸の教授等が墮落しつゝありと云ふが如き事を概論するを欲せざれども。試に米國に於て聞ける一逸話を語らんか。曾て豊府大學醫學部を卒業せる一秀才ありて、獨逸に趣き。有名なる眼科醫某博士の病院に就て、其手術を一見せんことを請ひたるに、頗る高價の謝儀を請求せられたり。青年醫學士は固より喜んで是を支拂ひたりしが。後に至て、彼は大家自身にあらずして、青年醫學士と學力相等しき部下の一助教授たりしことを發見せりとなり。而して是れ只だ一例に過ぎずと解せらるゝなり。

大都會に於ける大學聽講者の非常に増加すると共に、或教授の収入は驚くべ

大學教授

き巨額のものとなりあり。獨逸の大學に於ては聽講者の拂ふ授業料が教授の収入となることは何人も知る所なるべし。フォン、ベルグマン、フォン、レーデン等の如き有名なる教授の年收は少くとも拾萬圓より貳拾萬圓の間なりと想像せられつゝあり。日本にて最も有名なるコホ教授及びデルブツク、シーマン、レントゲン、ペーリング、スラビー、シモラー等諸教授の収入も亦た以上の二教授に次て大なるものなりと解せらる。英米に於ける大發明家を除く外學者として多くの収入を得るもの獨逸の大學教授の如きは他に比類なきなり。

第十三章 風俗習慣

最近四五十年間に於ける、我國社界事情の變遷は世界に比なしと稱せらるれども、獨逸の變化亦た必ずしも是に劣るものにあらず。本國を去りて、二三十年の後復び歸り來れるものは、恰かも外國に來れるが如き感爲すと云へり。事々物々一として舊態を存するものなきのみならず、其親戚も、友人も、思想と感情に於て、二三十年前の獨逸人とは全く其趣を異にし、殆んど互に同情を有するこ

と能はざるもの、如しと。是れ彼等が永久に本國と關係を斷つべく、復び海外に出て去る主なる理由にあらざるか。

獨逸人の
特性

斯の如く、事々物々非常の變化を遂げたるに關らず、依然として舊態を改めざるものは、其國民性なり。而して獨逸國民の最も著るしき特性は、遲鈍緩慢なると是なり。英國人は此點に關して、獨逸人を嗤ふの權利を有せざれども、他の敏捷快活を以て其國民性とする、米、佛及び日本人等にして、獨逸に旅行するものは、殆んど是がために惱殺せらるゝの感あるべし。先づ第一に、警察其他の官衙と何等かの交渉案件を有せりと假定せよ。所謂繁文縟禮にして、些細の事に時間と手數とを費やすのみにて、容易に埒の明かざるに因却せん。ホテルに行くも、料理屋に行くも、洋服を注文するも、何れの處に到るも、彼等が悠々緩々として、閑日月を有するが如くなるに一驚を喫せん。而かも、人若し最も善く此特性の發揮せらるゝを實見せんと欲せば、其労働者の働き振を見るに如かず。彼等は一日に六度食事を爲すなり。其度毎に少からざる時間を消費するは云ふ迄もなし。中食後には、夏時なれば涼しき木蔭に於て、冬日は固より屋内に於て、一時間

呑氣なる
労働者

の晝寝を爲すを例とす。漸く復び仕事に取懸り、二三の木石を此處彼處と運び廻りたりと思ふ間もなく、腰がて腰を下ろして煙草を吹かし、或は雜談に耽るなり。又た時々ポケットより、ノルドハウゼル(唐黍にて造れるウイスキー)の平瓶を出して、自から飲み、終て同僚に回すなり。一日の労働時間十四時間なりと云へば、頗る過劇の労働の如くに聞ゆれども、其實斯くの如くにして費やし去らるゝなり。固より監督ありと雖も、彼も亦た獨逸人にして、生來斯の如き空氣の中に人と成れるものなれば、是を見て少しも怪むことなし。彼も其労働者と共に一日六度宛食事を爲すなり。斯くて彼等が十四時間の労働に於て成就する所は、米國の労働者が八時間に成したるもの、半ば或は三分の二に過ぎず。されば獨逸の労働者の給料は最高三馬克(壹圓五拾錢)に過ぎず。多少の技倆と熟練を要する高等職工に至ては、一週拾五圓乃至貳拾圓の給料を得るもの少からずと雖も、是とて米國の職工、労働者に比すれば甚だ低廉なりと云はざるべからず。而かもそは只だ名儀上即ち金錢の多寡に於てのみ。實際は頗る高價の労働賃金となるなり。以上は固より米國労働者との比較なれども、我國の労働者

絶望的な
労働階級

は獨逸の労働者に比するも、尙其下位に立たざるべからざるは、甚だ遺憾なりと云はざるべからざるなり。

獨逸人の萬事に遅緩なるは固より其國民性に負ふ所多しと雖も、其労働者の怠慢にして功程エフィシエンス少き他の理由は、其社會組織の階級的にして、労働者は永遠に労働者たるの運命を有し、前途に何等の光明を有せざるにあり。試に労働者の一人に向つて、何故一層其業務に出精せざるかを問はば、必ずや答へて、出精せざればとて、敢て糊口に差支なく、如何に出精努力したりとて、容易に現在の境遇より脱し得べしと思はれざるが故なりと云はん。同じ獨逸人にて、前途に發展の希望を有する地位にあるものは、其業務に勤勉なること、固より普通労働者の比にあらざるなり。又た獨逸の労働者にして、米國に移住せるものを見るに、其業務に精勵發憤すること、米國労働者と殆んど異なる所なきなり。是れ固より其周囲に在る他の労働者が凡て勤勉なるに、獨り己れのみ悠々閑々たる能はざるに依ると雖も、一は其賃金の豊富にして、努力如何に依りては、其前途に新境を開拓する事の不可能にあらざるを知るがためなりとす。

富豪階級の現出

國民が富を追求するの熱心なること、未だ英米二國の如くならずと雖も、是を二三十年前の有様に比すれば、實に隔世の感なき能はず。斯くて其富の漸々増殖するに隨ひ、社界は益々物質的の方向に進みつゝあり。富豪なるものは、漸く一箇の階級を形造り、社界上に非常の勢力を有するものとなれり。クルップ、ネツム、ジーメン、ロープ、ブライシレーダー、バルシャワー、メンデルゾン、カール及びヴェルタイマー等の社界上の地位は、米國に於て、カーネギー、ロックフェラー、モルガン等の有する地位と異なざるなり。

奢侈の弊

是と同時に、奢侈の風は滔々として、其上流社界を侵蝕しつゝあり。曾ては質素儉約を以て、獨逸人の國民性となし、是を以て獨逸人が世界の競争場裡に於て英人に勝を占むる一の要素なるかの如く云ひ做したる時代もありしかども。斯の如きことは過去の夢と化し去りぬ。今は獨逸國中何れに到るも奢侈の風の頗る盛なるを發見すべし。寶石屋、時計屋、小間物屋等の店頭に於ても、宴會の席上に於ても、家屋の構造と、其内部の裝飾に於ても、是を發見することを得べし。都會の地には、壯大にして、而かも美術の趣味に富める建築物軒を並べ、市外に到

趣味の發達

れば、數奇を凝らしたる富豪の住宅の此處彼處に散在するを見るべし。又た盛なる宴會の流行すること、英米佛諸國に劣らず。其料理法は勿論、裝飾術が一箇重要な藝術と見做され居ることは、反て英米佛の諸國に勝るものありと云ふを得べし。其贅澤にして善美を盡せる有様若し過去の獨逸人をして是を見せしめば、必ず驚いて、獨逸の末路近づけりと、絶叫するならん。美術骨董を愛玩するの風も、亦た甚だ盛にして、今の獨逸美術家は其國內のみにて、充分に其作品の需要を見出すことを得るなり。到る所に富豪の所有に係る私立美術館あり。例へば伯林にはラブネー及びヤフエーの二美術館あり。何れも數百萬圓の價値を有し、レンブランド、レノルツ、ダーナール、ルーベン、チ、アン、を始め、古代の名畫を藏すること最も多し。又たエッセンに近き、ユーゲルに於けるクルツプの別荘にも、頗る完備せる美術館あり。銀行家ブライフレイダー、ロバートツハルンヤワー、カスケル諸氏、並にケルンの出版業者ドイモントシヤウベルグ氏も亦た美術館を所有せり。ミュニヒにはシヤック伯爵の美術館あり。其死に先だち遺言して、是を皇帝陛下に献上せしが、近頃陛下より更に同市に下附されたり。

獨逸のホ
テル

右の外木彫、象牙彫、ゴブレン織、美術的家具、裝飾品、骨董品等を蒐集したる特殊美術館にして、貴族富豪の私有に係るもの、二三にして止まらざるなり。

今より僅か二十年前に溯れば、伯林には倫敦、紐育に於ける第二流のホテルすら發見すること能はざりき。英米の贅澤なる旅客が獨逸に行きて、最も不満に感ずるものは、其旅舎の設備の不完備にして、其食物の口に適せずと云ふことなりき。而かも今日に於ては、其結構に於ても、設備に於ても、倫敦、紐育、巴里等の第一流のホテルに比して、遜色なき幾多の大ホテルを發見することを得べし。例へば、パレースホテルの如きは、其料理と葡萄酒の美なることに於て、全歐洲に其比なしと稱せられ。ホテルブリストルの如きは、結構の壯大にして、設備の完全なる、倫敦巴里の第一流のホテルに比して、優るとも劣る所なしと稱せられつゝあり。其他ライヒスホフ、サポイ、メトロポール、カイゼルホフ等何れも伯林ホテル中の鏘々たるものにして、其結構に於ても、設備に於ても、料理に於ても、待遇に於ても、歐米に於ける第一流のホテルたるに遜らざるなり。

料理屋、ビヤホール等亦た然り。獨逸の「クナイベ」(ビアホール)と云へば、今より

廿年前に伯林を見舞ひたる人々は、天井の煤けたる、陰氣なる室内に、武骨頑丈なる幾十のチーブルを並べたる場所を想起するならんも。今は斯の如きものは伯林の町外れか、然らざれば、人口二三千の小都會に於て見るのみにて、伯林其他の大都會にあるものは、堂々たる石造にて、輪奐の美を極め、電燈燦として輝き、雪白のリネン以て覆はれたる幾百の圓卓の周圍には、學生勞働者に止まらて、世界のあらゆる階級を網羅せるを見ん。其結構の壯大にして、裝飾の美なる、是をビヤ管若くはビヤ殿と稱するの寧ろ適當なるを感ずるなり。固より是に要する資本の莫大なる云ふ迄もなし。果して是に對して相當の利潤を擧げ得るや否やを疑ふものあるべしと雖も、とは全く無用の心配なり。恐らく獨逸に於てビヤホールに優る有利の商業あることなきなり。數年前、伯林に於てカイゼルカウエーと稱する一大カフェー(料理店)新設せられけるが、其持主はパウエルと稱するビヤホールの給仕人長たりしものにて、是に要したる資金四拾萬圓は拾年間客より得たるチツヅ(心附)を貯蓄したる結果なりとは、殆んど信じ得られざる程の事實なりと云ふべきなり。

徳風の敗類

質素儉勤の美德の類れて、奢侈の風の漸く増長するに隨ひ、正直、眞實、眞潔等の如き、一般道徳の標準の低下しつゝあることは、獨逸國民のために甚だ悲むべき事實なりと云はざるべからず。是れ固より漠然たる想像にあらず、政府の示せる統計表の證明する所なりとす。即ち財産及び人性に對する犯罪は驚くべき速力を以て増加しつゝあり。千八百七十年より今日に至る迄、前者は五倍、後者は四倍の増加をなせり。昔に竊盜、強盜等の如き犯罪のみならず、一般國民道徳の低下を表すべき、詐偽、欺騙、監守盜、委托金費消等の罪惡も共に非常の増加を爲しつゝあるなり。

伯林の醜業

曾て獨逸人は、佛蘭西の淫靡の風を指摘して自から殷鑑となし。長く其清楚剛健の風を維持せんことを以て、國是の一となせしが、不幸にして、經世家愛國家の希望は満足せられず、淫靡の風は何時しか、社界の中心を侵蝕し、滔々として全國に氾濫せんとするの勢あり。思ふに獨逸の歴史に於て、今日程男女間の關係の亂雜に成れることは未だ曾て是れあらざるなり。尤も其最も甚しきは伯林にして、他の地方に至ては、比較的健全なるものありと雖も、何れにしても國民

全體の淫靡の風に浸染せることは否むべからざるの事實なりとす。伯林の今日の情態は、巴里の情態と決して異なる所なきなり。伯林市中に於て、公然若くは陰密に、醜業に従事せる婦人の數は、拾五萬人以上に達すべく、晝夜の差別なく、市街の如何なる所にも出沒し、其附近の空氣を腐敗せしめ、市中に害毒を流しつゝあること、實に想像以外にあり。今や其恐るべき病毒は、上中等の嚴格なる家庭に迄も侵入し、獨身の男兒にして、其に關係せざるものは、全くなしと斷言するも、決して伯林人士を侮辱するの言と爲すべからざるなり。是れがために、前途多望の青年が、其身體と精神を殘害せらるゝこと、幾何なるや、殆んど測り知るべからざるなり。

結婚問題

是れ恐らく獨逸の現在に取りて、最も重大なる社會問題なりとす。否な管に獨逸のみならず、世界共通の問題なりと云はざるべからず。何れの國に於ても、勞働者及び下層社界の概して早婚の弊に陷るるに反し、上中等社界、殊に高等教育を受けたるものは、晩婚を常とし、近時愈其傾向を増しつゝあり。其主なる原因は、家族を支給するに足る丈の収入を得るの困難にあること、固より論を俟

たず。是れ實に、高等教育を受けたる青年の前途に横はる一大難關にして、國家も亦た是が解決に充分の力を注がざるべからざるなり。而かも今日の所、何人も是に處するの道を發見し得ざるに似たり。今日の青年は、大抵十八九歳に至る迄、豫備教育を受け、若し進んで大學若くは専門學校に入るとせば、更に三四年の歳月を費やさざるべからず。是がために要する費用の莫大なるは、云ふ迄もなき事なり。斯くて漸く學校を卒業したりとするも、其得る所は僅かに一身を支ふるに足るのみにて、到底其家族を支持するに堪へず。勿論彼若し大に其社界上の地位を低下し、僅かに衣食住に事缺かざるを以て満足せば、其家族を支給せんこと、必ずしも困難ならざるべきも、何人も斯くして迄も、妻子を有するの必要を感ぜず。獨身生活を送るの、安樂自由なるに如かざるなり。斯くて、五年十年の歳月は、夢の如くに經過し、其漸く家族的生活を送らんことを自から切望するに至り、且つ是を實行し得るは、四拾歳前後なりとす。四十未だ家を成さずとは、東洋に於ては、愛國志士の境涯にして、西洋に於ても、學者、詩人、宗教家、改革家等、普通社界と撰を異にするもの、間に稀に見るの例なりしが、今日は是れ殆ん

ど教育ある社界の常態となり、尙ほ益々延長するの傾向あり。將來或は五十にして始めて結婚するを以て、一般の習慣とするが如き時期の來らんこと必ずしも架空の想像にあらざるなり。而して斯る長期に亘る獨身生活の間、更に婦人と交際せず、清淨潔白に其身を保持せよと云ふが如きことは、木石にあらざる人間に向つて如何にして期待することを得べきか。此處に需要あり、供給なかるべからず。伯林が拾五萬の嬢子軍を有すること固より怪むに足らざるなり。

此問題の解決法として、自然に出て來れる制度は、婚嫁すべき女子に持參金を與ふること是なり。今日獨逸に於ては、其女子を嫁せしむるに當り、相當の持參金を與ふることは、父たるもの、免がるべからざる義務となり居れり。是れ固より夫たるもの、僅少の収入に加へて、不自由なく生活し得らるゝ丈けの利子を生ずるを目的とするなり。而して其金額は事情に依りて、一樣ならずと雖も、少くとも拾萬馬克、即ち五萬圓を下ることなきなり。生活の程度は日に高まり、殊に食品の價格騰貴する一方なるを以て、今日伯林に於て、中等以上の一家を支持せんには、一ヶ年四五千圓を要するなり。されども其女子に相當の持參金を

結婚と持參金

與へ得るものは固より少數に過ぎず。是に於てか、婚期に達しながら結婚し得ざる女子の數極めて多からざるを得ず。最近の統計に據れば、獨逸全國に於て二百萬人以上に達するを見るなり。獨逸の婦人は英米の婦人に比すれば、質素檢勵にして、社交界に持離されんよりは、家庭の平和を享樂せんことを好むとは、吾人の曾て屢耳にせる所なれども、是れ過去の獨逸婦人なり。今日の獨逸婦人は、女王の如く盛裝して、自動車を驅り、劇場、宴會等に入出入するを好むこと決して英米の婦人に遜らざるなり。彼等は結婚後斯の如き物質慾を満足せんことを期待す。而して若し其希望を達する能はずんば、寧ろ獨身生活の不羈自由なるを撰はんとするなり。

大學教授も、著述家も、新聞記者も、此問題に就て論議せり。殊に現世の大哲學者として知られたるハルトマンの如きは、是がために尤大なる一箇の著述をなし、あらゆる救済法を提出しけるが。中に相當の財産を有しながら、故意に結婚せざるものに重税を課すべしと云へるが如き提案あり。實際の局に當る政事家にして、斯の如き提案に對し、眞面目に攻究を試みたるものもありしなり。

以て此問題の如何に識者の心を苦むるかを想像すべきなり。而かも問題は依然として残れり。要するに、現在社界の情態より自然に出て来るべき結果にして、最も深き所に根底を有するを以て、其解決は決して容易の事にあらざるなり。伯林に於ける風俗懷亂の甚だしき事は、心ある市民の痛嘆する所なりとす。會て同市婦人會の名を以て、政府に對し、何等か適當の方法を以て嚴重に「敗徳婦人」の取締をなし。社界に害毒を流すこと能はざる様にせんことを請願したることあり。所謂「敗徳婦人」なるものは、管に白晝公然市街を横行するのみならず、到る所の家屋の中に巢窟を構ふるものなるを以て、部屋借りをなせる家庭に取りては、其子女等に對する危険實に恐るべきものあるなり。是に於て警察は峻嚴の手段を取り、疑はしき婦人は容赦なく拘引することゝなせしが。其結果往々にして良家の令嬢夫人を拘引して、警官自から謝罪せざるべからざるが如き事を演出し、遂に中止するの止を得ざるに至れり。其後斯る罪惡に對して、勇敢に戰鬥するの目的を以て、全國婦人同盟會の組織せらるゝあり。先頃は二萬五千人の連名を以て、カイゼル陛下に對し、是に對する適當の取締を設けられんこ

とを建白せり。併し何人も百鬼夜行の情態を痛嘆せざるにあらず、只だ如何にして是を救治すべきかを知らざるにあり。具體的の成案を供することなく、何等かの方法を講ずべしと迫るも、固より無益の沙汰なり。其後今日に至る迄、別に何等の手段方法の設けられたるを聞かざるも、固より怪むを要せざるなり。

近頃「ホームローゼン」俱樂部の會員なる一貴族に關する刑事事件あり。取調の進行するに隨ひ、俱樂部生活の真相、貴族社界の内幕等悉く天下公衆の目前に曝露せられ。人をして其實際の意外に醜怪なるに一驚を喫せしめたり。更に社界の綱紀の弛廢せることを證明すべき事實は、離婚數の非常に増加せることなり。殊に新民法の實施以來驚くべき増加を爲しつゝあり。

凡て斯の如き事實を綜合すれば、獨逸の徳風の漸く頽廢しつゝあることは、全く否むべからざる事實なるを知るべきなり。

獨逸の警察制度は一種特異のものにして、各國に其例無し。公私百般の事に關して、偉大なる權力を有することも、亦た露國を除くの外、恐らく世界の他の部分に類例を見ることなからん。獨逸の議會に於て、屢、議員等が警察の専横を概

して、自國を警察全能の國なりと叫ぶことあり。是れ決して根據なき不平にあらざるなり。而かも政府の意是に依て、政治上社界上の權力を充分に把握せんとするにあり。其管掌する所の事務は、實に人生の萬事に關係し、政府も、人民も、警察の力を籍るにあらざれば、何事をも爲し能はざるの情態にあり。獨逸の警察を稱して、全智全能なりと云ふも、決して過言にあらざるなり。其部門は刑事、民事、公安、道義及び衛生等に分れ、其中に又た各小分科ありて、専門の智識経験を有する技師吏員に依て管掌せられつゝあり。其組織は各聯邦多少趣を異にし、又た都市と地方とに依て相違あり。地方に於ては別に憲兵ありて、多くは騎馬にて、短銃と劍とを帶せり。都市に於ける巡査は其服裝普通の歩兵と殆んど相同じく、短劍を帶び、時としては短銃をも併せ帶ぶることあり。騎馬巡査は全數に對して、約五分の割合なりとす。

警吏任免の權が中央政府に依て掌握せらるゝに關らず、警察の費用が一切地方税に依て支辨せらるゝは一奇なりと云はざるべからず。而して其人員は全部陸軍より供給せらるゝなり。獨逸の警察が其形式に於ても、精神に於ても、軍

警察官の
人民に對
する態度

隊的の傾向を有すること、固より怪むに足らざるなり。以前は高等警察官の階級を尉官、佐官、將官等陸軍と同様にし、士官の資格を附與したるなり。士官即ち高等警吏の服裝は其色彩に於ても、仕立方に於ても、普通巡査のものと同く趣を異にし、最も威嚴を備へたり。併し其俸給に至ては、普通巡査は勿論士官格のものと同く、甚だ憐むべきものにして、巡査の月給は三拾圓位、士官のは最低額六拾圓位なりとす。恩給、年金、遺族扶助料等の規定あるは固より云ふ迄もなし。彼等は自己の職責を、非常に重大なるものゝ如く自信す。是れ必ずしも咎むべきにあらざれども、是がために其言語舉動の頗る尊大横柄なるに至ては、恕すべからざるなり。彼等は日常の事務を遂行するには、頗る綿密精確なれども、創意と應變の略とに乏しく、新たなる事件に遭逢する時は、是に處するの道を知らず、杓子定規に拘泥するの外なきなり。要するに普通の事務に堪能なれども、高尚なる頭腦的の動作に懸けては幼稚たるを免かれざるなり。されば、其執務時間には英米に比すれば、頗る長けれども、其頭腦を勞することは割合に少かるべきなり。彼等は概して正直廉潔なりと云ふことを得べし。融通の利かざるを缺

點とすれども、金錢を以て左右し得べき米國の警吏に優ること遠しと云ふべし。其訓練は固より極めて嚴格なり。全く軍隊式にして、下僚は絶體的に上官の命令に服従して、敢て苟も背くことなし。是に反し、其一般公衆に對する態度の傲慢なるは、他の歐米文明國に於ては到底見るべからざる異例なりとす。彼等が市民を見るは、恰かも士官が新兵を見るが如くにして、須らくも監督指導を怠るべからずとするものゝ如し。要するに、他の歐米諸國に於けるが如く、己れを以て市民の公僕なりとするが如き觀念全くなく、政府の一機關として、人民に臨むものなりと思惟せり。彼等の態度既に斯の如くなるを以て、市民も亦た彼等に對して些の同情を有せず。極惡の罪人を逮捕すると云ふが如き場合に於て、往々にして一般市民の警官に加勢するが如きことなきにあらざれども、斯の如きは寧ろ稀有の例にして、公安秩序を害する罪と云ふが如きは云ふ迄もなく、縱し破廉耻罪の犯人たりとも、警官が是を拘引せんとするに當りて、一般公衆は警吏に向つて同情を表するとなきなり。

夫れ然り、然りと雖も、市民は警吏に對して同情を有するにせよ、せざるにせよ、

日々是と交渉接近することを避くる能はず。例へば、勞働者に對する年金の如き、主人と婢僕の關係の如き、家主と借家人の關係の如き、兵役及び租税に關する事の如き、抑も亦た流行病其他衛生に關する事項の如き、一として警察に關係を有せざるはなし。加之、苟も獨逸の國內に住するものは、其本國人たると、異邦人たるとを問はず、一定の期間毎に其動靜を届出でざるべからず。又たホテル及び下宿の持主は、必ず其旅客及び下宿人の出入に關して、警察署に届出づべき事となり居れり。斯くて、無所管内に如何なる人々の居住せるかは、彼等の目の前に悉く明かになり居れり。而して彼等が若し危險の性質を帯びたる人物なりと認定する時は、何等の説明をも與ふることなしに、内外人の別なく、其管内より退去せしむるの權力を有するなり。されば獨逸にありては、警吏に憎まるゝは頗る危險の事にして、平穩無事に其日を送らんと欲するものは、如何に是を好まざるにせよ、其感情を害する能はず、所謂敬して遠くるの外に策なきなり。尤も警察の即決處分に對して、地方の裁判所に控訴することを得べしと雖も、時間と金錢とを空費するのみならず、裁判の結果は概して警察の處分に裏書するに過ぎ

極端の國
家主義

ざるを以て、よくよく忍び難き場合を除く外、控訴の權利を使用する事なし。隨て警察が市民の上に暴威を揮ふこと實に想像の外にあるなり。

曾て獨逸人は何等の偏執を有せず、極めて公明正大の心を以て、世界の各國民に對する、最も寛大なる世界主義の國民なりと稱せられしが、聯邦の形成普佛戰爭の影響等のため、僅に三四十年の間に、極端なる國家主義の國民となりしことも亦た最も注目すべき現象なりとす。廣く世界各國を見渡し、制度に於ても、思想に於ても、各國民の長所と善所を採用綜合して、理想的の文明を現出せしめんとは、其學者先覺者の抱負なりき。ゲーテ、シラー、レンシング、フンホルド、ヘーゲル等の大哲學者、大科學者、大詩人は悉く此時代の産物にして、又た其時代思想の権化なりき。獨逸をして世界の思想界に其雄名を擅まにせしめたる最大の原因は此博大なる世界主義的思想なりしなり。然るに國家的自覺と共に、自尊、自衛の思想一世を風靡し、極端なる國家主義は全國到る所に跋扈し、復た昔日の雄大崇高なる思想感情に接するの機會なきに至りぬ。獨逸は國家として慥かに勃興せり、而かも人間としては墮落せり、吾人は獨逸國民のために一は喜び、

一は悲まざるばあらざるなり。

獨逸人と
讀書の習

獨逸近來の傾向中更に嘆ずべき事は、國民の多數が讀書に遠かりつゝあること是なり。曾て獨逸人は英人と共に最も讀書を愛する國民なりとの名譽を有したりしが。是も既に過去の事實となり、今日は寧ろ其反對の方向に對つて進みつゝあるものゝ如し。世の出版業者と、著作家は一齊に出版物の需要の漸次減少しつゝあることを證言せり。新聞雜誌も亦た其數に洩るゝこと能はず、殊に眞面目なる新聞雜誌に於て然り。縱し購讀者の數を減ぜざる迄も、人口の増加と、文化の普及の割合に比して、其發行數の増加甚だ遅々たるものあり。社界の全階級を通じて、一般に實際と云ひ、經驗と稱し、而して書物及び書物の興ふる智識に對し、輕侮の意を有するの傾向あり。殊に上流社界に於て、其傾向の盛なるは甚だ奇なりと云はざるべからざるなり。

獨逸人は所謂北方の強にして、禮に嫻はざる野人なりとせられしこともありしが、社交上の禮儀作法の漸く完備すると同時に、國民一般に實際の術に長じ、其動作の溫雅にして、辭令に富める點に於て、或は佛蘭西人を凌駕せんとするもの

實際場
の獨逸人

なきにあらず。是れ固より或意味に於て、文明の進歩なりと云ふことを得べし。然れども、眞情の其形式に伴ふ能はざるは自然の數にして、勢ひ偽善に流るゝとを免かるべからざるなり。男尊女卑の風も、漸く社界に其跡を漸ち、苟も交際社界に立ちて温雅なる紳士と云はれんと欲せば、婦人に對して、大に敬意を表せざるべからず。衷心敬意を有すると否やとは固より問ふ所にあらず。只だ是を有するが如く、振舞はざるべからざるなり。婦人に對しては、帽を取りて、感慙に腰を屈め、出入必ず婦人を先きにして、男子は其後に隨ひ、時としては、婦人の手に接吻する等のことは、紳士道に缺くべからざる重大事件として、上流青年の研究を怠らざる所なりとす。

獨逸の社界が如何に現代化しつゝあるかは、其社交界に於ける日常の談話に依て是を判知し得べし。哲學、宗教、文學、歴史等に關する事は、今や實際世界に縁遠き事として、何人も是に注意を拂はず。多くの人の話頭に上ることは、演劇の事、競馬其他の勝負事、株式に關する事、陸海軍に關する事等にして、政談を試むるものすら多からざるなり。

田園生活
の變化

嘗に都市の風俗の非常に變化したるのみならず、田園の生活も亦た昔日の而影を留めざるなり。獨逸の農業政策と云へば、最も權變術數的のものと解せられ。大地主等は其勞働者をボーランド若しくは露西亞より招徠すると云ふ今日、田舎の生活情態の激變するは、固より其處たるべきなり。田園生活と云へば、何れの國に於ても、粗野簡朴、人をして太古の風を偲ばしむるものなり。殊に獨逸の田園に於て然りき。麥秀で、野茨の花香る閑寂の境涯に、都會の罪惡と、激烈なる生存競争を知らざる無垢の農民等は、牛羊を侶としつゝ、平和安樂に其生活を營みたりき。此等の地方にも、今は天を際せんとする煙突聳え、惡魔の口より吐き出せる如き煤煙は其美しき空を汚し。大根砂糖の製造所は到る所に設立せられ、其けたゝましき汽笛の音は森と小山に反響を傳へつゝあるなり。斯くて都の風は容赦なく、山間僻陬に迄も吹き荒み、田夫野人も今は株式相場の高下に一喜一憂することゝはなりぬ。唯だ汲々として利益を追ひ求め、富を作るを以て人生最大の目的なるかの如く思惟すると、都會に住するものと異なる所なきなり。又た如何なる山間僻地に至るも、社會問題、社會主義は盛に講説せられ、

大地主を除く外は、概して社會主義に同情を有するの傾向あり。斯の如く田舎の光景の全く一變せる中に在りて、舊態依然、超然として時流の外に立てるものは、恐らく牧師而已ならん。彼等は樂天的理想家にして、葡萄畑と、葱麥の場にて繞らされたる牧師館内に、浮世を他所に見て、其羊等の邪徑に迷はんとするを憫むなり。

婦人職業問題

中等以上の男子の結婚を躊躇するがために、獨棲を嘆ずる婦人多きとは前既に是を述べたり。而して政府の發表せる統計表に據れば、獨逸に於ては、婦人の數の男子に超過すること百萬人に餘れり。是に於て必ず起るべきは婦人の獨立問題なり。換言すれば婦人職業の問題なり。今や獨逸の有識者は、男女に拘らず、此問題の爲めに大に頭腦を苦めつゝあり。數年前のことなりき、伯林に萬國婦人會の開催せられたることありしが、獨逸側より出てたる議題の主なるものは、何れも結婚と婦人の職業に關する事なりき。

從來とても、固より獨逸の婦人は或種の職業に従事したりき。而かも其種類は學校教員、家庭教師、家庭取締、下婢、裁縫師、婦人帽子製造人等にして、其他劇場、寄

席、ホテル、料理店等に職を得るものあれども、其數固より多からざるなり。然るに近來に至り、漸く男子の領域に侵入し來り、是迄は全く男子に限られたる職業に婦人の従事するもの少からざるなり。例へば小賣營業は漸次婦人の職業となりつゝあり。諸種の工場、製造所に勞役する婦人の數は固より數拾萬人に上るべし。新聞記者、著述家としても相當に成功せるものあり。殊に婦人は小説家たるに適するもの、如く、今や獨逸小説家の三、四割は婦人なり。政府及び市町村役場の吏員にも婦人あり。電話の交換手は固より悉く婦人なり。製圖家、石版師、美術家、タイピスト等にも幾多の婦人あり。獨逸全國に三人の婦人鍛冶屋ありと云ふに至ては、寧ろ意外の感なくんばあらず。男の側より激烈なる反對ありしに關らず、婦人も制規の試験を受くれば、醫師、藥劑師たることを得ることゝなれるは、世人の熟知する所なり。

然れども、婦人が今日の地位情態に達する迄には、幾多の苦戰を経たるなりき。否な、今日と雖も、政府に於ても、民間に於ても、其保守的の部分に於ては、婦人に對して、男子と同様の待遇を與ふるに反對するもの少からざるなり。例へば、大學

教授と其男生の多くは婦人の入學に反對しつゝありき。遂に普國議會の問題となりたれども、年々歳々否決せられ。容易に婦人の入學を許すに至らざりき。而かも徐々に進歩的思想は勢力を得、聖書を基礎として、婦人の高等職業に従事するに反對せし、普國の文部大臣ボス博士は其地位を去らざるべからざるに至り。幸にして其後任者は進歩派に屬するものなるを以て、茲に始めて婦人の前途は光明を以て輝くに至りぬ。聯邦中の他の諸邦に於ては、普國に先んじて婦人の解放を是認せしもありしが、然らざるものは何れも普國の先蹤を追ふことゝなれり。

大學と婦人

今日に於ては、大學及び高等専門學校の多數は女子の入學を許し。女子は何れの學科に於ても學位を請求することを得るなり。前に述べたる如く、醫師藥劑師たることを得れども、未だ辯護士たることを許されず。又た日本て云へば、判任官程度の官吏たることを得れども、高等官たることを許されざるなり。現在伯林大學には三百人内外の女學生あり、ハイデルベルグ、ゲッテンゲン其他の大學にも少からざる女學生あり。而かもミューニヒ大學の如く、今尙ほ女學生

家庭に於ける婦人

の入學を許さざる所も少からざるなり。教授等の女學生に對する態度は、以前程冷淡ならず、殊に外國留學生に對しては概して好意を表するの傾向あり。唯だ男學生は今尙ほ女學生に對して、輕侮の念を去らず。往々にして、是を言行に發する事なきならずと雖も、是れ唯だ舊思想の殘影にして、懸がては雲散霧消すべき事、固より論を俟たざるなり。

社界に於ける婦人の地位の變動既に斯の如し。如何んぞ、家庭に於ける關係に相逢を來さざらんや。以前は獨逸の家庭に於ける妻たるものゝ地位、縦し東洋に於けるが如く爾く屈從的ならざりしにせよ、決して英米佛諸國に於けるが如き地位と權力とを有せざりき。即ち妻たるものゝ地位は、夫の地位よりも遙かに下位に置かれしなり。人の妻たるものは公共の事業に關係するを許されざるは云ふ迄もなく。縦令一家の事に關する場合にも、相當の思慮を要するが如き重大の問題には容喙することを許されず、只だ沈黙して夫の決斷に従ふのみなりき。管に夫と其兩親に従順なるべく要求せらるゝのみならず、夫の兄弟等に對しても、又た己が産みたる男子に對しても、其成年に達したる後は、從順な

らんことを期待せられしなり。此點に於ては、大に支那日本の風習に相似たるものありと謂ふべきなり。

斯の如き風習が、一朝忽ち其跡を斷ちたりと云ふものあらば、固より其大早計たるや論を俟たず。一國の風俗習慣なるものは爾く容易に變化するものにあらざるなり。今日と雖も、彼等は己れを自覺すること、他の歐洲諸國の婦人に比れば、甚だ薄弱なるものあり。試に婦人同志の談話に耳を傾けよ、彼等は何事にも、我が夫は斯く曰へり、「我夫は斯く爲せり、我夫は斯く考ふるならん」と稱し、決して自から如何に思考するかを語らざるなり。敢て自から勉むるにあらざれども、先天的に其夫と子女のために自から犠牲たるの精神を有し、自己の慾望を達せんとするの念甚だ少し。斯くの如き美德の比較的獨逸婦人に多く存することは疑ふべからざるに似たり。

夫れ然り、吾人は以上の事實を是認するに吝ならざれども、是と同時に獨逸婦人の社界上に於ける變化と共に、其家庭的關係に於ても、大變遷に際會しつゝありと云ふとを否定すると能はざるなり。即ち如上の家族的感覺は、餘々に薄弱

になりつゝあり。盲從的精神は漸次減少しつゝあり。是に反して獨立の精神は遅々たれども、而かも確實に發達しつゝあり。夫たる者も、亦た其妻の權利を認めんとするの傾向あり、其活動の範圍も、眼界も共に大に擴張せられつゝあり。彼女は今や唯だ人の妻なりと呼べるゝ以て満足せず、眞實の意味に於て、其夫の伴侶たり、同勞者たらんとを希望しつゝあるなり。之れ固より人の妻たる者に取りて、正當の希望にして、極めて健全の趨向なりと云ふことを得べきなり。吾人は此章を終らんとするに蒞み、獨逸人の潔癖に就て、一言するの至當なるを信ず。ラフカヂオハーン及び其他二三の日本研究者は日本人を以て、世界第二の潔癖人種なりと云へり。是れ吾人に取りて、大なる名譽なれども、悲哉、吾人日本人は此名譽を荷ふに堪へざるなり。日本人を以て東洋第二の潔癖人種なりと云はゞ或は當らん。而かも是を以て世界第一の潔癖人種なりと云ふに至ては、吾人は寧ろ慚汗の背に冷きを感じざるを得ざる也。多言する迄もなく、東京の市街を以て、倫敦、紐育、巴里、伯林の夫れに比較すれば直ちに外人の批評の詬辭にあらざれば、誤謬の見なるとを覺るべきなり。蓋し世界の潔癖人種は獨逸人

伯林は世界中最も清潔の都

なり。何人も一度び獨逸を見舞ひたるものは、必ず余が言に同意すべきなり。都市何れの處に到るも、秩序整然として一絲亂れず。其市街は斷へず掃き清められて片塵を留めず、家屋の内外の清潔なること、恰かも洗滌したらんが如し。此點に於て、伯林は都市の模範たることを得べし、家屋の高大なると、交通機關の完備せると、市街の繁華なる事等に於ては、世界の都市中紐育に及ぶものなく。雄大にして世界の富を一所に集めたるが如き點に於ては、倫敦に如くものなし。若夫れ、華麗優美花嫁の着飾りたらん如き都會を見んと欲せば、巴里に行くに如かざるなり。然れども、其市街の善く整頓して、且つ清潔なるの一事に至ては、世界の大都中伯林の右に出づる者あらざるなり。市街の端より端に至る迄、家屋の高さは一齊に五六層にして、大なる高低なく、又た其體裁に至ても、市の中心と場末との間に大差なし。余は社會問題に興味を有するを以て、何れの都市に到るも、必ず其貧民窟を見舞ふを例としたるが、伯林に於ては、遂に是を發見せざりき。市中如何なる部分に行くも、他の都市に往々見るが如き、軒傾き、壁落ちたる家なく、又た襤褸を纏へる人を見る事なし。殊に道路の清潔なるは意外にて、場

末の町々に至る迄、掃除善く行届き、馬糞は勿論、紙屑、蜜柑の皮杯の狼藉たるを見る事稀なり。聞く所に據れば、市に數千の掃除夫あり、是を監督するに、伍長あり、百人長あり、總長あり、一定の制服をさへ着け、宛然軍隊的の組織を以て、大都市の掃除に従事しつゝあるなり。道路はアスファルト、コンクリート及び敷石の三種なるが、毎日一度宛水を以て悉く是を洗滌し、殊に四月より十月に至る六ヶ月間は毎日二度宛撒水することゝなり居れり。アスファルト、セメント等に聊かの磨損にてもあらば、直ちに修葺し、決して半日と雖も不體裁を曝露することなし。掃除夫の補助機關として、別に十歳以上十五六歳以下の小兒の大隊ありて、常に受持部分を巡回して、一切の蘆芥を拾ひ集め、是を町毎に備へ附ある鑄鐵製の塵箱に投ずるなり。冬期降雪の時期に當りては、固より雪掻きの設備あり。新發明の機械を以て、盛に是を掻き除け、如何なる大降雪にても決して地上に一寸以上積ることを許さざるなり。

伯林市は常に其外形の整頓し、掃除の善く行届ける點に於て、他の都市に勝るのみならず。衛生、教育、市營事業等に於ても他の模範となるべきもの多し。殊

模範的大都會

に其經費の紐育、倫敦、巴里等に比して人頭額甚だ低く、且つ少しの腐敗を容れざるの點最も稱するに堪へたり。余は東京市の當事者が、其吏員を歐米の大都市に送り、殊に伯林の市政を研究せしめ、以て東京市改造の參考に資せんことを希望して止まざるなり。

第十四章 獨逸の殖民地

千六百八十三年三月一日、ブランデンブルヒ大公はギニヤ海岸の一地點に獨逸の國旗を掲揚したることあり。此時既に公の活眼は海外殖民地の必要を感じたりしも、一般の社界は斯る事に些の興味を有せざるを以て、如何ともするに山なく、數年の後遂に是を放棄するの止を得ざるに至れり。爾來星霜二百年、獨逸人は全く殖民事業と沒交渉なりしが、漸く千八百八十年代に至り、ハンブルク及びブレームンの商人が亞弗利加の西海岸に於て、貿易の足溜りとなさんがために、其地の會長より數方哩の土地を購求したるを動機として、茲に再び大に殖民熱の勃興を來すに至れり。されば、實際に於て、獨逸の殖民事業は僅かに三十

年の歴史を有するに過ぎざるなり。

維廉老帝も、ビスマルクも共に最初の間は、殖民地を獲得するに熱心ならざりき。彼等は殖民地を得るも、反て負擔を増すのみにして、是に依て利益を得んことは覺束なきとなりと思ひたりき。殊に何等の實益なき空名を得んがために、英國の猜疑を招き、外交上の面倒を増さんことは忍ぶべからざる事なりと思惟せり。ビスマルクは議會の壇上に於ても、宴會の席上に於ても、屢、其意見を發表したり。而して他の事に關しては、一々ビスマルクの政策に反對する新聞紙等の多くも、此點に於ては、彼れと意見を同ふしたりしなり。其議論の要點を擧ぐれば、占領の價值ある地點は既に悉く英佛西蘭諸國の領有に歸して、復た寸地を餘さず。若し是を得んと欲せば、干戈を動かすの外あるべからず。且つ貿易の富なる殖爲すべき地點は既に必ずしも不足を感ぜざるのみならず、幸にして豊足溜りと民地は、多く自由貿易を標榜する英國の所有に係るを以て、其製品を輸出するに大なる不便を感ずる事なし。獨逸の得んと欲する殖民地は、只だ年々増加する其過剰の人口のために故郷を見出さんとするにあれども、斯の如き土

維廉老帝
及ビスマ
ルクの
殖民地觀

國民の殖
民熱

地は既に悉く他の占有する所と爲り了れるのみならず。年々歳々合衆國加奈陀及び濠洲に移住するもの二十五萬人に達し、是を防止する方法なしとすれば、必ずしも強て殖民地を獲得するの必要なしと云ふにありしなり。

而かも千八百八十年代に至り、國民の殖民熱は殆ど其頂點に達し、何物も是を制するに由なく、ピヌマクと他の吏員等も遂に其渦中に捲き込まれるに至れり。斯くて始めて第一殖民地を得る事となり、キャブッピの宰相たりし短期間を除く外、彼は徹頭徹尾獨逸の海外發展政策に反對したり、獨逸の政府は海外發展、殖民地獲得を以て、其政策の一となし、經費徒らに多くして、是に伴ふ實益の見るべき者なきに關らず、依然として其方針の遂行に努力しつゝあるなり。

而して努力計畫の結果空しからず、今日に於ては、獨逸の殖民地は其面積に於て、本國の五倍大となるに至れり。最初に其領有に歸せしは、熱帯及び半熱帯圈内の亞弗利加地方なりしが、漸次四方に發展して莫大の領地となりしなり。斯く獨逸殖民地の大部分はニューギニアの一部分と其附近の島嶼より成立せるが、其後ビュローロ公の宰相たりし時代に於て、膠州灣を得たるとは、今尙吾人の

獨逸の殖
民熱の五
倍大國

記憶に新たなる所なりとす。商業上軍事上同地の重大なる價值を有するは云ふ迄もなき事なるが、其真意は此處を立脚點とし、機會を俟つて、其附近に發展を試みんとするにあること、固より論を俟たざるなり。是に次で英米二國との協商に依りて、サモアの占領を遂行し。更に西米戦争の後に至り、カロライン群島と、マリアナ群島とを西班牙より購買したり。

是を同期間に於て、英佛二國が獲得したる殖民地に比すれば、其面積に於ても、質に於ても、甚だ劣る所あるを免かれずと雖も、而かも僅々三十年以前迄は海外に寸地をも有せざりし獨逸に収りては、非常の發展なりと云はざるべからざるなり。其殖民地の如何なるものなるかを明かにせんがために、試に其大要を略述することとすべし。

トゴはギニヤ灣にあり。其大さ獨逸本國の約六分の一に過ぎず。氣候は酷熱にして、歐洲人の住居に適せず。又た其海岸は出入乏しく、良港灣と稱すべきもの全くある事なし。土地は頗る豊穰なれども、運輸に適すべき河川なく、固より其他に交通の機關とて無ければ、其産物の多くは、只だ土人の需要を充足す

重なる殖
民地
トゴ

る丈けにて、商品としては、何等の價値をも有せざるなり。土人はユー族に屬すに黑人にして、文化の程度極めて低く、何れも拜物教を奉ぜり。獨逸政府は該殖民地のために、年々貳百五十拾萬馬克を支出す、是れ同殖民地の輸出額と略ぼ同様にして、輸入も亦た相如けり。白人の在住するもの、文武の官吏を合せて、百參拾五人なり。土人の數に至ては詳かならず、多くとも百萬人に上るべしと思はれざるなり。

カメルーンは前者に比すれば頗る重要なるものにして、同じくギニア灣にあり、北緯四度四十分より二度二十一分の間に延長し、其面積略ぼ獨逸の本國に同じ。而かも人口は僅かに參百萬に過ぎずして、海岸地方に在るをバンツ族と稱し、高原地方に在るをスーダン族となす。バンツ族中には今尙食人の習慣あり、宗教は拜物教なり。スーダン族は慍悍勇武にして、容易に屈從すべからず。其常職は他の種族の男女を捕獲し、奴隸として是を賣却するにあり。海岸地方は一帯に低窪にして、健康に適せず。殊にマラリヤ熱猖獗にして、同地に住する白人の平均壽命は極めて短し。内地は山脈重疊し、最高所は海拔一萬三千呎に

カメルーン

達し、所々に噴火山あり。而かも今日迄充分に探檢の行届きたるは、海岸地方のみにして、内地の情況は未だ詳かにせられず。海岸地方の産物の重なるものはココ、護謨、象牙、椰子油等にして、其品質頗る上等なりと云ふ。近頃獨逸の企業家は、米國より黑人の教師を雇ひ來りて、綿の栽培を試みつゝあり。前途頗る有望なりと云へり。該殖民地に於ても、交通機關なるもの殆んどあることなし。ベニユー、リオデルレー、ザンナガ等の諸川ありと雖も、舟楫の便あるは河口より僅かに數十哩の間に止まるなり。該殖民地よりの輸出は六七百萬馬克にして、輸入は一千二百萬馬克に上れり。獨逸の政府は是が維持費に毎年約貳百萬馬克を費やし、租税として百六、七拾萬馬克を收納しつゝあり。白人の在住するもの約六百人にして、内四百五十人は獨逸人にして、他は英人なりとす。

獨逸南西亞弗利加はカメルーンより十三度の南方、即ち北緯十七度十六分より二十八度三十八分の間に在り。其面積約獨逸本國の二倍あり。氣候は半熱帶なれども、亞弗利加に於ける他の獨逸殖民地に比すれば、大に健康に適すと稱せらる。獨逸政府は此處に多數の農民と、牧畜者とを移住せしめて、大に是を開

南西亞弗利加

發せんとして、種々の手段を講じつゝあり。該殖民地の主なる缺點は、土地乾燥にして、降雨尠く、人工灌溉を要すること是なり。土人の數は正確ならず。南方はホツテントツト人にして、北はハレロ人及びナマクワ人に依て占領せられたつあり、何れも蒙昧野蠻の種族なりとす。該殖民地には豊富なる銅鑛あり。黄金とダイヤモンドをも産すとの評判なれども、今日迄未だ何人も是を採掘したるものなし。銀鑛と鉛鑛は既に是を發見したるものあり。總がて相當の生産を見ることあるべしと思はる。内地の大部分は山又山にして、海拔八千五百尺に達するものあり、重要な輸出品はグワノ(鳥糞)にして、年々の輸出高百萬馬克に達す。政府が租税として、年々該殖民地より收納する所は僅かに百萬馬克にして、國庫より支出する所は實に九萬馬克に上れり。収入の少くして、徒らに多額の費用を要する點に於て、東部亞弗利加殖民地に亞いて、厄介者なりと稱せらる。白人の在住者約三千四百人にして、内二千人は獨逸人なりとす。

獨逸東亞弗利加は亞弗利加の東海岸、ザンジバルの對岸北緯四度四十分より十度四十一分の間在り。北は英領に接し、南は葡領に隣し、西はコンゴ、自由

東亞弗利加

國に境す、其面積獨逸本國の約二倍にして、人口四百萬あり。海岸の地方は一帶に卑濕にして、瘴癘の氣多く、且つ良港灣に乏し。内地の或部分は不毛の曠原にして、或部分は山岳重疊し、亞弗利加の最高山なるキリマンジャロも其中にあり。海拔二萬尺に達す。西部にはビクトリア、タンガニカの二大湖ありて、南北に延長す。内地は高燥なるを以て、健康に適すれども、土地不毛にして、殊に降雨少く、蝗害あり、時々牛疫の流行を來すことあるを以て、殖民地としての價值甚だ大ならず。獨逸の占領に歸して以來、住民の大半をして飢餓に瀕せしむるが如き大飢饉の起れること二三にして止まらざるなり。

土人の多くは、バンツ族に屬する黑人にして、北部には好戰的のマツツイ種族あり。南部にはツールス種族あり。海岸地方には亞刺比亞人の血液を混じたるスアヘリ種族あり。獨逸の占領後、斷へず是等の種族と干戈を交ゆれども、未だ戡定の効を奏せざるなり。經濟上より云ふも、今日迄、砂糖、藍、珈琲、煙草等の栽培を試みたれども、悉く失敗に歸せり。加ふるに、交通の便全くなく、其住民の多くは好戰的にして、産業を勉めざるを以て、殖民地としての價值最も少く、獨

逸に取りて一箇の重荷たるに過ぎず。輸出品の重なるものは象牙、護謨、椰子油、樹脂、胡麻等にして、其年額三百萬馬克に過ぎず。輸入は一千萬馬克に上れども、食物其他在留白人需要の物品に限られ居るなり。而して獨逸政府が年々該殖民地のために支出する金額は千六百萬馬克に達するなり。

ニユーギニア、ビスマーク群島、カロライン群島、マリアン群島等は總體に於て、獨逸本國の半程の大きさあり。中に就て、比較的殖民地として價値を有するは、ニユーギニアにして、貳百萬馬克の輸出入を有す。ビスマーク群島の大部分は今尙食人的野蠻人に依て占領せられつゝあり。カロライン及びマリアン群島は將來有望の殖民地たるべしと雖も、現在の所にては敢て云ふに足るものなし。マーシャル群島及びサモアも亦た同様の情態にあり。サモアより獨逸への輸出は約千五百萬馬克にして、輸入は貳千萬馬克なれども、行政費として國庫より毎年數拾萬馬克を支出しつゝあり。

膠州灣の獨逸の手に入りしは、千八百九十八年、即ち今より僅か十二年前の事にして、猫額大の一小地域に過ぎざれども、其重要の度に於ては、獨逸殖民地中の

ニユーギ
ビスマ
ーク群島
カロライ
ン群島
マリアン
群島

膠州灣

首位にありと云ふべし。其所在地なる山東州は豊穰にして、人口多く、最も健康に適するの地なり。其附近に豊富なる鐵山と炭鑛とあり。獨逸の目的は是を以て第二の香港たらしめんとするにあり。されば是がためには、敢て金錢を惜まず。現に年々千數百萬馬克を支出し、港内を浚深し、船渠を設け、波止場を築き、且つ海陸の防備を嚴にする等、企畫經營到らざる所なきなり。

現在に於ては、如上の目的のために、本國より齎し來る材料を除くの外、輸出入額は僅かに數拾萬馬克に過ぎざれども、將來最も繁榮なる貿易港たるに至らんこと殆んど疑ふの餘地なし。其附近の炭鑛と鐵山丈にても、盛に採掘せらるゝに至らば一大貿易品たることを得べし。其品質極めて上等にして、而かも無盡藏なりと云ふを以てなり。况んや、其背後には貳千萬の産業的國民を控ふるに於てをや。

斯の如く列舉し來れば、獨逸の殖民地なるもの、其面積より云へば、頗る莫大のものなれども、一の膠州灣を除く外、多大の價値を有するものなきなり。其殖民地中、一として多數の本國人を移住せしむるに、適當なるものなし。其氣候の點に

於て白人の永住に適するものは唯だ南西亜弗利加のみなれ共、土地確切にして多くの人口を養ふに堪へず。獨逸政府は五千圓以上の資本を有するにあらずれば、同地方に移住するも成功の見込なしとて、警戒を加へ居る程なり。されば、今日迄獨逸が得たる殖民地は一として、刻下の大問題、即ち如何にせば政治的、人種的、商業的に國家の利害と一致し得る様、過剰の人口を處分し得るかの問題を解決するに足らざるなり。是に於てか、獨逸は今尙依然として、何れの時か、何れかの方法に依て、如上の問題を解決するに足るべき殖民地を得んと舉國焦心しつつあるなり。而して其最も垂涎する所は、佛蘭西及び葡萄牙の殖民地にあり。此事に關し、英獨二國と葡萄牙との間に或種の密約の成立せることは公然の秘密なり。其密約とは、若し葡萄牙の財政にして、其殖民地を賣却せざるを得ざるが如き場合に立到ることあれば、必ず債主國たる英獨二國に先取權を與ふべしと云ふこと是なり。葡萄牙の本國は殆んど衰亡に瀕し居るに關らず、其殖民地には世界の野心家をして垂涎せしむるに足るものあるなり。ゴア、マカオ、アソールス群島、ケープベルデス及び亞弗利加の殖民地等は是なり。英獨の間には是等

の殖民地を分割する時期の來らん事は殆んど疑ふの餘地なきに似たり。終りに蒞み、獨逸の殖民政策に就て一言せんに、偉大の成功を示したる英國の模範に隨はずして、佛國流の殖民政策を踏襲したるは、獨逸のために頗る不幸なりと云はざるべからず。尤も故意に佛國に倣はんとしたるにはあらず、政治上、社會上の自然の傾向に依て、不知不識の間に斯の如く成りたるなり。ビスマルクは始より此處に注意し、英國の方法に隨て、貿易家、企業家、冒險家、移住民等をして自由に活動せしめ、其基礎の成るに迫んで、始めて國旗をして是に隨はしめんことを欲したりき。而かも全國民の精神は反對の方向に對つて進めり。即ち最初より巨費を投じて、大袈裟にして、複雑なる行政機關を組織し、本國に於て見ると異ならざる一箇の官僚團を現出せしめたり。是れ實に、獨逸人の長所にして、亦た其短所なりとす。斯くて、伯林に於ける中央政府も勢に制せられて、何時の間にか、知らず、不成績なる佛國殖民政策を模倣する事となりしなり。されば、獨逸の殖民地は、如何に微小にして、價値なき所にて、兵營、警察所、裁判所、民政廳等一切の行政機關整然として具はり、儼然一箇の國家たるの觀あり。而し

て彼の大膽暴險にして、不羈奔放なるべき企業家開拓者等は自由に其手腕を揮ふ事を得ずして、一々切々たる小官吏の指揮命令を奉せざるを得ざるなり。斯の如くにして殖民事業なるものが成功し得べきか、頗る覺束なき事なりと云はざる可からず。勿論、獨逸國內にも具眼者なきにあらず。議會に於て、左黨の領袖は屢、其殖民政策の謬れること、殖民地官吏の非常識にして、無用の干渉を敢てする事に關し、痛快なる攻撃をなし、政府者をして、完膚なからしむる事あり。又た有爲なる殖民地政治家にして、著述家なるグスタフマイネッケ氏は一論文を發行して、其誤れる殖民政策を剗撃して餘蘊なし。而かも國民的の性向は是を如何ともする事能はず。煩瑣冗漫なる官僚主義は依然として其殖民地を支配しつゝあるなり。

而かも、殖民熱は現時の獨逸人に取りて、一箇の幻影なり。彼等は殆んど實際の利害を考慮するの邊なく、唯だ國家的虛榮心を満足せんがために、殖民地を得んと欲するなり。されば其收支相償ふと否とに論なく、如何なる犠牲をも、是がために拂ふを躊躇せざるなり。試に獨逸の殖民協會なるものを見よ。其會員

國民的虛榮心

數無慮數十萬に上り、津々浦々に迄も支部を設け、其役員には現皇帝の伯父なるメクレンブルフのジョンアルベルト大公を始め、國內最高の人物を網羅せり。是れ云ふ迄もなく、國民的熱心の發現なりとす。以上の外、拓殖會社、探檢會社、稱するもの擧げて數ふべからず。何れも愛國的の動機に出て、巨額の金錢を費消する而已にて、何等の實益をも收むる所なきなり。而かも畢竟するに是れ一時の狂熱に過ぎず、懸がて國民が冷靜に復するの日あるべきなり。

第十五章 獨逸の宮廷

ソロモンの榮華の極に達したる時だにも、其裝野の百合の花に如かじ杯云ひて。古來宮廷と云へば、何れの國に於ても、榮華豪華を極むる場所とのみ思はれしが、近世に至りて、此風漸く熄みたり。獨逸の宮廷も、亦た其例に洩れず、曾てドレスデン宮中の榮華はベルサイユと、其光彩を競ひたりしが、今は大に平民的となれり。殊に聯邦内に於ける小宮廷の生活に至ては、平々凡々にして、何等の興趣をも有せざるものと成り了れり。

宮廷の平民化

其原因の一は君主たるもの、精神上の進歩にして、概して無益の豪奢を事とするを以て、幸福を感ぜざるに至りしなり。然れども、更に大なる原因は被治者の醒覺にして、彼等は其豪血を絞りて、主權者をして奢侈を恣まゝにせしむるを好まざるなり。第十八世紀の頃に當りては、小君主の財政に窮するや、其土地人民を外國に賣りて、其榮華を極むるの資に供したりき。シラーは其著カパーレウンドリイベ(陰謀と戀愛)に於て、當時の情態を記して、其正當の收入は年々數萬圓に過ぎざる公國の君主等にして、年々數百萬圓を費消するもの少からざりきと云へり。當時は勿論、第十九世紀の半頃に至る迄、獨逸國內の君主なるものは、凡て絶對的の專制君主にして、其意の儘に振舞ふ事を得たりき。未だ聯邦議會も各州の議會も存在せざりしなり。

而かも、斯の如き事は、過去の物語と成り了れり。今日は、聯邦君主等の經費は議會の協賛に依て定められたる歳費と、其私有財産よりの收入に限れり。勿論、君主中には定められたる歳費に依て生活するを屑とせず、全然自家の收入に依て自から支ふるものあり。メクレンブルフシユベリン大公の如き其一例なり。

君主の收入

サキソニー王家の收入も、其大半は私有財産より來れり。其他小國の君主にして、其經費を國庫に仰がざるもの少からざるなり。彼等の收入の大部分は、其私有の農園、山林、牧場等より來るなり。近頃米國農産物の競争に依り、是等小國君主の收入は大打撃を受けつゝあり。無遠慮なる一米國人は、王様の商賣は以前程儲からずと云へり。

遮莫、世間は廣く、人間の數は多し。今日も尙ほ斯の如き小國の宮廷を以て、理想の郷、名譽の泉源と心得、是に出入するを以て、無上の光榮とするもの、數、幾百萬なるを知らず。嘗に獨逸國內に於て而已ならず、海外殊に平民主義を標榜する國々に多く、是れあり。彼等は是等の宮廷に於ける一夕の宴會に出席するの榮を得んがために、千里を遠しとせずして、遙々海外の諸國より集ひ來るなり。

獨逸の宮廷中の最も重要にして、且つ尊嚴なるものは、云ふ迄もなく、伯林の宮廷なり。此處は現皇帝の治世に至て、大に其尊嚴の度を加ふると共に、生活の情態も以前に比すれば頗る華靡となれり。彼の祖父維廉第一世は頗る質素儉約にして、其收入の大部分を貯蓄して、不時の用に供へ、又た兒孫のために謀り給へ

伯林の宮廷

り。現皇帝即位の當時、現金而已にて、六十萬馬克の遺産を發見せりとの風評あり。其幾部分は皇弟ハインリヒ親皇に分與せられたるべしと雖も、現皇帝即位の始めに當り、是がために如何に大なる便利を得、給ひしかは、多言を要せずして明なり。皇帝の収入は普國王として、年々約八百萬圓あり。私有財産よりの收入約參百萬圓あり。又た皇帝としての、取得あれども、そは凡て文學、美術の獎勵費及び慈善の目的のために消費せらるゝ事となり居れり。

帝はホーヘンツォルレン家の首長として、直接に其一族の保護に任ずるの義務ありと雖も、今日迄の所僅か一二遠縁のもの、帝の庇護を請ふものありし而已にて、他は何れも相當に富み榮え、殊に皇妹を娶りしフリードリヒレオポルド親皇の如き、帝自身よりも多くの財産を有せり。帝の伯父アルブレヒト親皇も亦た莫大の富を擁せり。

獨逸皇帝の宮廷は、伯林とポツダムにあり。伯林の皇居は、古代の宮城にして、伯林舊市街の中央、スプレー河畔に在り。兩陛下の此處に居住あらせらるゝは、毎年一月より五月の半頃迄にして、是を伯林の交際時期と稱し、宮中に於ては、斷

伯林の交
際時期

へず宴會の催しあり。伯林の宮城は、三大部分より成り、其最古の部分は、今より凡そ五百年前の建築に係り、室内の裝飾等甚だ古雅なれども、舊式にして、新文明の設備を缺き、且つ甚だ大ならざるを以て、宴會等には不向なり。今は侍從、式部官其他宮内官吏の溜所と成り居れり。中央と北部に在るものは、其建築頗る壯大にして、廣潤なる庭園を備へたり。室數六百餘に上り、宴會の用に供し得べき廣間而已にて、五十に餘れり。就中、最も壯大にして、且つ美術的の趣味に富めるは、純白の間、黒鷲の間、赤鷲の間、ブランドンブルクの間等にして、繪畫、彫刻等の美術品、絢爛目を眩する計りなる金銀器等、所狭き迄に列べられ、天井も、床も、美術的の意匠を凝らし、四壁には高價なるゴブランを懸けたり。

伯林の交際時期の間に、宮廷に於ては、十箇の大宴會あり。小宴會と、夜會に至ては無數なり。大宴會には、二三千人の列席者あり、小宴會と雖も、四五百人を下る事なし。こは固より宴會と名の附くもの而已にて、時々昵近の臣下、又は外臣等に陪食を仰せ附けらるゝは、茲に所謂宴會の外なりとす。而して假裝會、舞踏會、音樂會等の伴ふ陽氣なる宴會は大齋期迄にして、大齋期中は、縱令宴會を開く

宮中の宴
會

とあるも、靜肅を旨とするなり。若し又た皇族、或は同盟國皇室の不幸等のために、宮中喪を仰せ出さるゝ場合には、凡ての宴會を延期せらるゝは勿論の事なりとす。

宮中に宴會のある場合には、豫め官報を以て、其日時、其階級に隨て定められたる入口、制規の禮服、婦人は女官長を、男子は式部長官を豫め訪問する等、一切の手續を告示するを常とす。宮中の賜宴に陪席の榮を得るものは、獨逸國內の他の君主、貴族、陸海軍士官、普國及び獨逸帝國の内閣員、高等の帶動者、一定の高等官、普國及び聯邦議會の議員等なりとす。社會黨員と雖も、議員たるものは、賜宴に陪席するの榮を得るものなれども、未だ其特權を使用するものあらざるなり。

宮中の宴會と云へば、各今日を晴れと着飾り、輕羅錦繡を競ふものならんと想像するものあらば大に誤れり。人若し、輕羅を纏ひ、珠玉を輝かしたる多くの淑女紳士を見んと欲せば、反て宮廷以外の富者の宴席に行くを可とす。宮中に於ては、其禮服に一定の制限ありて、各自に其意匠を凝らすの餘地なきを以て、千篇一律にして、敢て人目を聳えしむるが如きものなし。其材料に於ても、仕立方に於

宮中の禮服

ても、色合に於ても、又た其帶劍、靴等に關しても、一定の制規ありて、是に背くことを得ず。例へば、半ズボンを穿ち、絹の履下を用ゐ、其上衣には、或種の刺繡を施さざるべからず。要するに、凡て獨逸の古式にして、今人の是を着たる風采は如何にも不似合にして、普通人をして是を見せしむれば、抱腹絶倒せずんばあるべからず。併し婦人の服裝に至ては、大に是と異なるものあり。其胴衣の裁式、及び裳の長さ等に關して多少の規定あるの外、他に何等の束縛なきを以て、大に其趣味意匠を發揮するの餘地あり。新たに是を裁縫するものは、千五六百圓乃至三四千圓を要す。而かも子々孫々に持ち傳へ、幾度か仕立直し、色は褪せ、地は弱はり、數代の主君に事へたるを、誇り顔なる、歴史的の朝服を纏ひ給ふ女丈夫も決して少からざるなり。

以上は是れ正式の大宴會に關する事なり。其時々の小饗宴に至ては、固より斯の如く儀式張りたるものにあらず。毎年一回宛、必ず各國の大使、公使を招待し給ひ、又た一回は、各國大使館附武官を招き給ふ例となり居れり。尤も大使公使及び駐在武官等は、其他の夜會宴會等にも列席の榮を得る事あれども、凡て

儀式張らざる社交的の宴會に限らるゝに似たり。他國の君主の伯林を見舞はるゝが如き事あらば、其接待の盛なるは固より云ふ迄もなし。曾て埃帝フランシスジョセフ陛下の伯林を訪問あらせられたるに際し、王立劇場に是を招請したりしが、劇場の内部は天井、四壁、棧敷に至る迄悉く上等の薔薇の花を以て是を裝飾し、花代丈にて壹萬圓を費やし、帝の三日間の滞在のために、伯林宮廷の支出する所百萬圓に上れりと云ふ。以て其饗宴の如何に善美を盡し、歡迎の如何に盛なりしかを想像すべし。又た毎年、祖先傳來の習慣を踏襲せる特殊の宴會あり。一月の半頃にあるは、*オルデンスフェスト*と稱し、其前年に叙勳せられたるものを招待する日にして、列席者六、七千人に達するとあり。黒鷲日とは、普國最高の勳章なる黒鷲勳章を授與せられたるものゝために開かるゝ特殊の祝宴日なりとす。

宴會の性質に依りて、多少の相違はあれども、概して舊慣古式に隨ひ、嚴格に儀式を遵奉するを常とす。是を司宰するものは、即ち式部官にして、一點一劃も法式に違はざらんとを助むるなり。現皇帝は、殊に儀文を尊重せられ、其祖父君の

時代に比すれば、伯林の宮廷に於ける儀文禮式は一層嚴格綿密のものとなり、ために帝室の尊嚴を増加したるの觀あり。殊に宮中の宴に人を招待するには、非常の注意を拂ひ、招待状を發するに先だち、充分に其人の經歷、社會上の地位、人物、性行等を探査せしめらるゝなり。外國人に關しては、固より其大公使の推薦に任ぜらるれども、多くとも一年三、四人に上る事なきなり。

復活節と、五旬節の間頃、四五月の頃、氣候漸く溫暖なるに迫りて、宮廷は伯林よりポツダムに移動するを例とす。結構壯大、伯林の宮城に劣らず、殊に諸般の新設備の完全し、廣大なる公園に依りて、周圍を圍繞せらるゝ點に於ては、伯林の皇居に優ると違しと云ふべし。且つ其附近に幾多の小宮殿ありて、諸般の目的のために、使用する事を得るが故に甚だ便利なり。該地に於て、開催せらるゝ饗宴は、伯林に於けるものと、全く性質を異にし、多くは午餐會の如き、單純のものにして、時としては、大園遊會の催はざるゝ事あり。而かも陛下には、近年に至り、餘り長く此地に滞在し給はず、寧ろヴァイルヘルムスヘーへを愛好し給ふものゝ如し。セダンの戰後、曾て奈破崙三世の幽囚たりしとある所にして、遠山近郊の眺め畫

圃の如きあり。且つポツダムは餘りに伯林に接近せるを以て、日曜は殊に無数の群集來り、陛下と皇后皇子等の出入毎に好奇の眼を以て、是を送迎する等の事あるに反し、該地は遠く都會の俗塵に離れ居るを以て、陛下が是を愛し給ふは固より當然の事なりと云はざるべからざるなり。

夏期炎熱甚だしき時に當りては、陛下は毎年スカンヂナビヤの海上に航海を試み給ふを例とす。其間、皇后陛下と、幼弱の皇子等はツイルヘルムヘーヘに留まり給ふ事もあり、時としては近海に快走艇を走らせ給ふこともあるなり。秋期遊獵の季節に入るや、陛下は小數の扈從を隨へて、北の方カヂネン若くはロミントンに行幸あらせらるゝを常とし、皇后陛下の是に同伴あらせらるゝ事も珍らしからざるなり。

聯邦の宮廷中、其儀式の壯麗にして、威容の儼然たる、且つ舊慣古式を重んじて、容易に成金黨を近づけざる點に於ては、伯林の宮廷にも優れりと稱せらるゝは、ミューニヒに於ける、パワリヤの宮廷なりとす。其儀式、服制、宴會の模様等は、大にヴェイユナ宮廷の感化を受けたりと稱せらる。國王オト陛下は發狂せられ、今

はルイトポルトの攝政時代なり。總がて皇子ルイスの丁年に達するを俟つて、即位式の執行を見んとするなり。

聯邦中の小公侯國に關しては、種々の異聞奇談あり。ロイス侯國と稱する蕞爾たる一小邦あり。千八百六十六年に即位せし君主は普王ツイルヘルムの怨敵なりしが、普國を攻めんと欲して、數十名の兵士を送りたることあり。其後ピスマークは聯邦中に於て、普國に怨を懐ける凡ての邦國に對して、和を講ぜしが、彼れの細心と注意とを以てするも、遂にロイスの侯國あるを遺忘したり。夫れがために、今日に至る迄、理論上に於ては、人口三千五百萬の普魯西王國と、人口七萬のロイス侯國とは對敵の關係にあるなり。其系統より云へば、ロイス家は今の帝室ホーヘンツォルレン家よりも古く、又た是より盛なる時代ありしなり。該侯家に關する一の奇風は、其家長たるものは、累代必ずハインリヒと號し、百代を過る迄は是を改むる能はざる事是なり。ホーヘンツォルレン家には、二百年以前より、必ず其の子女に何等かの職業を學ばしむべしとの家憲ありしは人の知る所にして、現時の皇太子は家具の製

造に熟練し給ひ、王統を繼がずとも是に依而生活の資を儲くるに足るべしと、口善惡なき伯林の京童は評し合へり。現皇帝の伯父なる故ゲオルク親皇は文學上の天才を有し給ひ、常にゲーコンラッドなる匿名を以て、其著作物を公にし給ひ、其史劇の或るものは、一時伯林の斯界を騒がせたることあり。元來獨逸にては、皇族の位置を辱かしめざる職業は、只だ陸海の軍職而已となせるが故に、他の皇族は屢、彼が斯の如き業務に關係せるを非難したれども、彼は更に意に介し給はず、依然として其嗜好を恣まゝにし給ひ、文學者、美術家と而已往來交通し給へり。パウリヤのカール、セオドル公も亦た畸人傳中の一人なり。彼の富は莫大にして、若し爲さんと欲せば、如何なる贅澤をも爲し得べしと雖も、彼は是を欲せず。極めて素朴の生活に安んずる而已ならず、徒手遊食するところを好まず、自から眼科の専門醫となりて患者を治療し、避暑旅行中さへも是を廢し給はざるなり。數年前彼は千人治療の紀念祝賀會を催し、其實驗を記載したる冊子を發行し、眼科醫界に貢獻する所少からずと云へり。彼の門に來る患者は王族より市井の賤民に及べり。而して彼は何人に對しても、同様の親切丁寧を以てし給ふなり。

貧民よりは、固より一錢も徵收し給はず、富者に對しては、相當の治療代を拂はしめ、是を慈善の用に供し給ふなり。

ザクセマイニンゲン公國の君主は演劇に甚大の趣味を有し給ひ、自からマイニンゲンに模範的の劇場を建築し、舞臺、音樂、服裝等の事に關して、幾多の新機軸を出し、他に向つて改良の範を垂るゝ所あり。獨逸に於てマイニンゲン派の劇と云へば、改良派、進歩派の演劇を意味しつゝあるなり。彼は又た先妃の死亡後、女俳優を容れて妃となし、數名の子女を儲けしめ給へり。公國內の臣民は、何れも其君主の是等の行爲に對して満足し、大に悦服しつゝあり。聯邦中にありて、最も平和幸福なる者の一に數へられつゝあるなり。

奇行に富める點に於ては、カイゼル陛下自身も決して人後に落ち給はず。今は勿論、分別盛りの年輩に在せば、萬事頗る着實に成らせ給ふて、世の耳目を聳動するが如き御舉動少なしと雖も、而かも往々にして、其天性を發露し給ふとなきにあらず。帝は帝王神權説の最も忠實なる信者に在はし、專制獨裁の政治を喜び給ひ、壯嚴なる儀式と威容とを愛し給ふに關らず。一度び輿に乗ずるに當て

は全く平生の持論に反し、其威嚴を棄て、顧み給はざるが如きこと屢、是れあり。近頃快遊艇の御遊に、鏘々たる實業家を招待し給ひけるが、中に二人の猶太人あり。猶太人を其社交界に容れざる、伯林の上等社界が、之を聞て驚愕せる事は云ふ迄もなし。貴族社界の或もの、如きは、獨逸の皇室も末路なりと絶叫せりと云へり。

今や平民的の潮流は、全世界に氾濫しつつあり。獨逸の宮廷、貴族社界も亦た固より其影響を受けざる能はず。不知不識の間に非常の變動を受けつつあり。思ふに、煩瑣なる儀式や、面倒なる古例舊慣は漸次其勢力を失して、單純なる現代的の禮儀作法の代はる所となるべし。然れども、皇室夫自身に變化を生ずべしと云ふが如き事は想像すべからざるなり。

第十六章 新聞雜誌

獨逸に於て、新聞雜誌が他の事物の進歩に伴はざるは、一箇不可思議の現象なりとす。過去卅年間に於て、獨逸が爲したる商工業其他百般事物の進歩は、非常

にして、世界に其比を見ると罕なり。然るに、獨り新聞雜誌而已は殆んど其進歩の認むべきものなく、縦し是れありとするも、他の事物の進歩に比較する時は、敢て云ふに足るものなきなり。

第一に其發行の部數甚だ少く、數拾萬の讀者を有する新聞紙としては、僅かに一二に過ぎず。隨て其財政上の情態頗る困難なるを免かれず。又た新聞紙が國民の生活上に及ぼす勢力なるものは、甚だ微弱にして云ふに足らず。世人の是を見る事固より甚だ高からざるなり。

獨逸國に於ける新聞の歴史は、其古き事決して英佛米諸國に遜らず。最初の新聞の發行せられたるは、實に今より三百年以前の事にして、第十八世紀の頃に至りては、新聞社の數に於ても、發行部數に於ても、社界に對する勢力に於ても、相當の進歩發達を爲せり。三十年戦争の時に際して、新聞紙は敵味方の動作、進退、作戰計畫、戦争の模様、特殊の功勳を表はせる箇人の事蹟等戦争に關する一切の事を記載し、中には繪畫を挿むものすらありき。其後七年戦争の時に當りては、新聞の位置、勢力更に大に進歩し、交戦國の當局者は是を以て士卒の心を鼓舞し、

無勢力な
誌る新聞雜

獨逸に於
ける新聞
の歴史

或は是を阻喪せしめ、世界の同情を集め、或は其反感を招くに與つて力あることを認むるに至れり。殊にフレデリック大王は筆の力の必ずしも劍の力に劣らざるを認め、其在任四十六年の間、大いに世の新聞雜誌に向つて好意を表し給へり。「新聞紙を拘束する勿れ」とは有名なる彼れの訓言にして、其治世の間は獨逸の新聞紙は大なる自由を得たり。或時帝が二三の從者を隨へて、伯林の市中を微行あらせらるゝに當り、偶ま一新聞社の壁上高く、帝を攻撃せる掲示の懸れるあり、從者等は怒つて是を引裂かんとせしに、帝は徐ろに是を止めて、今少し低く懸け置けと曰ひしとの逸話あり。千八百十三年より十五年に至る間の戦争に依り、獨逸が奈破帝第一世の鐵蹄の下に蹂躪せられ、其後再び獨立を回復したるに際し、國內の新聞紙は大に愛國の至情を發揮し、其偉業を成就するに與つて大に力ありき。千八百七十年より七十一年に涉る佛蘭西との戦争に際しても、新聞紙の態度は最も稱讚に するものなりき。

然りと雖も、帝國的統一の業未だ成らず、國內幾多の小邦分立し、共同の觀念目的を有せざる時に當りては、偉大なる新聞の起らん様あらざりしなり。千八百

七十年に至る迄は、普魯西亞の新聞は唯だ其領域内にのみ販路を有し、國境以外に出づる事無かりしなり。斯の如く、サクソン、バウリヤ等の新聞紙も亦た其狭き祖國內に而已限られ、其以外の地に購讀者を有する事無かりき。されば、今日の獨逸人が有するが如き新聞紙なるものは、全く獨逸帝國創業の日以後に至て、現出したるものなりと云ふことを得べく、今日多大の購讀者を有し、社界に勢力を有する新聞紙は、何れも其當時以後に創立せられたるものなりとす。勿論、政黨も亦た帝國創業の當時、及び其以後に於て組織せられたり。國民自由黨、中央黨、社會黨の如きは、何れも建國後間もなく現出せり。而して政黨の組織せらるると共に、幾多の機關新聞の發刊を見るに至れり。

獨逸には倫敦タイムズ、パリフィガロ、紐育ヘラルドと云ふが如き、莫大の富と勢力とを有し、世界に向つて、其國民を代表するが如き大新聞なるものなし。倫敦、パリ、紐育等に於ては、大新聞社の建築なるものは、頗る堂々たるものにして、多くは市の要部にありて、銀行、大會社等と其壯大を競ひつゝあり。殊に紐育に於て、市中の大新聞社多くは、ブルックリン橋附近に集合し、拾數層の大建築の巍然として

雲際に聳ゆる有様、壯觀比なく、人をして新聞紙の勢力の如何に偉大なるかを想見せしむるものあり。是に反して、伯林に於ける新聞社の多くは、裏町若くは場末にあり、其建築も概して中等以下の民家に比して、劣るとも優る所なし。始めて伯林の市街を見物するものは、往々安下宿屋ならんと想像せらるゝ、家屋の壁上に、有名なる新聞社の看板の掲げらるゝを見て一驚を喫するとあるなり。試みに一二の例を擧ぐれば、デーポストは貴族的保守黨の機關新聞にして、其株主は何れも鏘々たる貴族富豪なるに關らず、其建築は英米に於ける田舎新聞にも劣り。主筆記者は何等の裝飾も、家具もなき、一小室に、極めて粗笨なる椅子とデスクとを据えて執筆しつゝあり。ユーデーインソヒテル氏と云へば、自由黨の領袖にして、フライシニゲツアイツングの主筆なるが、人若し彼を其新聞社に訪問せんと欲せば、とある裏町の極めて古風古雅の意味にあらざる、舊式の意なりなる一小家屋に入り、狭く、危ふげなる梯子段を三度昇らざるを得ず。而して彼れが椽大の筆を揮ひつゝある其牙管は一間四方程の一小室にして、最も高價の財産と見るべきものは、古色蒼然たる一箇のデスクと、三代相傳とも思はるゝ頑丈なる

三脚の椅子と、蠅の糞にて覆はれたる一箇の鏡面のみなるを見て一驚を喫するならん。

北獨逸アルゲマイネツアイツングは政府の機關紙にして、ピスマークの時以來、政府の意志を全世界に發表し、反對黨を威嚇脅迫するに用ゐられたる、最も有力の利器なるとは、中外人の知悉する所なるが。其建築の平凡にして、内部の見すばらしきと他の新聞と異なる所なきなり。其他世界に名を知られたる獨逸の大新聞なるもの、何れも大同小異にして、週刊、月刊等の雜誌類に至ては、日刊新聞に比して、一層憐むべき情態にあると固より論を俟たざるなり。フリーゲンデプレツターと云へば、獨逸第一の滑稽雜誌にして、全世界の獨逸語を解するもの間に、其名を知られ居れども、ミューニヒに至りて、其本社を見れば、其家屋の恰かも古道具屋の如くなるに、一驚を喫するならん。讀者或は余が家屋の大小、室内の裝飾に就て、喋々するを見て、徒らに皮相の觀察を事とするものとせんも、是れ噓がて、その國民間に有する勢力を測度すべき、適當の標準にあらざるか。

次に新聞社の收入に就て觀察を試みんか。英米佛諸國に於ては、新聞社收入

の大部分は、其廣告より來るものにして、有數の大新聞社に至つては、年額數百萬圓に達するもの珍らしからざるなり。然るに、獨逸に於ては、一年數拾萬圓の收入を有するものは、全國を通じて、僅かに一二を數ふるに過ぎざるなり。他の歐米諸國に於ては、最上流社界より、下級社界に至る迄、國民舉つて新聞紙を利用するを知り、且つ其習慣を有すれども、獨逸に於ては、上流社界は殆んど新聞に關係せず、是を利用するものは主として、中流以下の社界に限れり。實業界に於ても、第一流の會社、商店なるものは、收支計算表を除くの外、新聞廣告を利用するとなし。獨逸新聞の最上の顧客は中等以下の小賣商店たるなり。

其政治上に於ける勢力は云ふ迄もなく、英米の新聞紙に比すれば遙かに劣れり。獨逸の新聞は世人が一齊に注意を拂へる政治上の大問題に關し、其真相を捉へんとして、多大の金錢勞力を費やすと云ふが如きとなく。又た政治上、經濟上の陰謀を曝露して、當事者をして狼狽爲す所を知らざらしむるが如き痛快の技倆なく。又た政府若くは大政黨の法案を打撃して、是を粉砕すると云ふが如き大勢力を發揮したるとなし。是れ獨逸に於ける新聞紙の勢力を有せざる所

政治上に於ける獨逸新聞の勢力

新聞紙の發達せざる原因

以の原因にして、亦た其結果なりと云ふ事を得べし。而して其外來の原因事情に至ては、多々あるべしと雖も、主要のものを舉ぐれば、皇帝、政府及び上流社界のものが舉つて新聞紙に對して反感を有し、殊に獨立不羈にして、大勢力を有する新聞紙の存在する事を好まざる是なり。新聞記者の社界に對する役務の如何に重大なるにせよ、一國の君主、其政府、及び上層の階級が舉つて是に反感を有するが如き社界に於て、新聞紙の健全なる發達を遂げ得ざるは固より怪むに足らざるなり。

獨逸に於て、政治思想の統一する所なく、隨て大政黨なくして、小黨分立の情態にあるとも、亦た新聞紙の發達を阻害する一原因なりと云はざるべからず。廿箇内外の小政黨ありて、各一方に割據し、一の大勢力を有する政黨なき社界にありては、其新聞紙も亦た多大の購讀者を得るの途なく、隨て社界に大勢力を及ぼすに由なきなり。其證據は、獨逸の政黨史の上に於て、歴々是を徴するとを得べし。例へば、曾て國民自由黨が他の諸政黨を壓して、獨り大勢力を揮ひたる事ありしが、是當時は同黨の機關紙なるナチオナルツァイツングも亦た非常に多

數の購讀者を有し、社界に於て大勢力を有したりしが。其後同黨の内訌のため
に二箇の小黨派に分裂して、其勢力を失墜するや、次第に其勢力を失ひ、今日の悲
境に沈淪するに至れり。

勿論、新聞は政黨に關係なくして存在するを得べし。倫敦タイムスの如き、紐
育ヘラルドの如き、全く政黨に關係を有せず。而して、寧ろ此點こそ、是等の新聞
をして、偉大の勢力を發揮せしむる所以なれ。而かも獨逸に於ては、全く趣を異
にし、新聞紙なるものは、大抵何等かの政黨に關係を有す。隨て其政黨の興敗に
隨て、盛衰の運を異にせざるを得ざるなり。獨り社會黨の新聞而已は大に他の機
關新聞と同じからざるものあり。又た其他の新聞中にては、固より多少の例外
なきにあらず。例へば分裂したる保守黨の一方の機關なるクロイツァイツ
ングの如き是なり。獨逸國に於ける最古の新聞の一にして、其黨派の盛衰に關
らず、常に偉大なる勢力を有せり。其發行數に至ては、必ずしも最大なりと云ふ
とを得ざれども、貴族、大官、富豪、陸海軍士官等の社界に、其購讀者を有するを以て、
比較的其勢力を發揮するの便あり。又た些細の事故のために、忽ち其購讀者を

クロイツ
ァイツ

失ふが如き惧れなきなり。立法上は勿論一般政治上、社會上に及ぼす勢力の大
なる、他の凡ての新聞紙を合するも一のクロイツァイツングに及ばざるなり。
其記事論說の體裁に至ては、暗示的、誘導的にして、決して真正面より事理を論證
し、或は辯護攻撃を事とするが如きとなし。又た紙面全體に和氣洋々として春
海の如きものあり。一の危言なく、一の激語なく、人をして是を讀むを樂ましむ
るものあるなり。斯の如く、其言論は極めて婉曲にして、間接的なれども、反て他
の正面攻撃を事とするものに比して、遙かに偉大なる効果を奏するなり。ピス
マークの生存中は曾て是が寄書家たりしとあり。今日も其寄書家中には、獨逸
のあらゆる名士を網羅せり。該新聞の特長は着實穩健にして、其辭氣の和平婉
曲なるにあり。然れども、是れ其平常に就て云ふなり。而かも一度は自己の代
表する階級の利害休戚に關する大事件に遭遇する時は、如何なる權威勢力に向
つても、決然として對敵態度を取るとなきにあらず。曾て是がために、現皇帝に
反抗して、勇戦を試したるとあり。ために該紙は一時城中に入るを禁ぜられた
るとありしが、其當時は皇帝が即位後間もなき時の事にて、社會黨を始め、凡ての

利害を異にする階級を一に調和せしめ、以て帝の權威の下に悦服せしめ得べしとの自信を有し給ひしも、其希望の遂に全く一の幻想に過ぎざるを發見し給ふて後は、再び該紙に信認を措き、日々是を愛讀し給ふ事となりたり。

是に次で勢力あるものをフオツシツアイツングとなす。其創立の年代はクロイツツアイツングよりも古く、今より十年程以前に其創立百年祭を執行せり。曾ては自由黨の機關新聞にして、千八百四十八年の革命を起し。當時の普魯西王フリードリッヒヴィルヘルムをして憲法を發布せしむるに與つて大に力あるものとせられたり。而かも今は斯の如き光榮ある歴史を棄て、商工業的の新聞となれり。其發行部數の多くして、大なる富を有するの點に於ては、獨逸新聞紙中の鏘々たるものなりとす。是に反して、伯林ターゲブラットは今尙自由黨の機關紙として、主義のために奮闘しつゝあり。其政治上に有する勢力に至つては、頗る大なるものあれども、社運決して隆盛なりと云ふとを得ず、僅かに維持し得るに過ぎざるなり。

社會黨は他の如何なる政黨よりも、多くの機關新聞を有し居れり。而して其

フオツシツ
アイツング

伯林ター
ゲブラット

社會黨の

機關新聞

黨員數の増加するに隨て、新聞紙も亦た發達を遂げつゝあり。其購讀者の多數は労働者及び其他の下級民なると固より論を俟たざれども、其記事論說の智識上に於ける程度は、他の新聞紙に比して些しも遜る所あるとなし。獨逸に於ける下層社會の智的進歩の、如何に大なるかを想像するに足るなり。社會黨が帝國政府及び聯邦政府より、種々の迫害を受くるとは、今尙十年前と大差なく、其新聞記者の多くは種々の罪名の下に屢獄に投ぜられたり。而かも彼等の筆鋒は更に鈍る事なく、一難を加ふる毎に勇氣を増し、其主張のためには、鼎鏝をも辭せざらんとするの概あるを見ては、何人も是に向つて敬意を表するを禁ずる能はざるなり。且つ黨員の多數は固より下層社界に屬すれども、宮廷内にも、大學の教授中にも、政府の高等官吏中にも是を見出すとを得べく。上下あらゆる階級に瀰漫するを以て、其材料を得るの便利最も多く、其内國種に至ては、如何なる新聞も是に比肩するを得ざるなり。而して黨内の規律訓練極めて嚴厲にして、社會黨の新聞紙が、材料の供給者に辜負して、其出所を他に漏洩すると云ふが如きとは、未だ曾て是あらざる也。社會黨の新聞紙は何れも其黨に依て所有せら

れ、且つ管理せらるゝものにして、損益共に黨自身の負擔に歸するなり。社會黨本部の機關紙は伯林のフオーベルツにして、獨逸新聞紙中の鏘々たるもの。其發行數の多き點に於ては、他の如何なる新聞紙にも遜るとなし。

政黨に關係なく、不偏不黨を標榜する、所謂獨立新聞なるものゝ起れるは最近の事にして、其最も著名なるものをローカルアンツァイゲルとなす。頗る煽情的の新聞にして、他社に先立つて好材料を得、又は是を獨占せんがためには、金錢を惜まず。社主も記者も、共に亞米利加に在て、其黄色紙の經營方法を學び、歸來獨逸に於て其新方法を實行せるものなるが。大に時好に投じ、創立以來十年ならずして、卅萬の讀者を有し、數百萬の富を積むに至れり。本紙は煽情的、卑俗的にして、且つ政黨政派に關係を有せざるに關らず、カイゼル陛下に對しては、大に忠勤を擧げて、常に是が辯護の地に立てり。

政府の機關新聞には、多くの異なる種類あり。或ものは全然政府の所有に係り、或ものは半官報たり、又或ものは多少の報酬に依りて、政府のために提燈を持たんとを特約するなり。而して始めて斯の如き所謂御用新聞なる者を作りた

獨立新聞
黄色紙

御用新聞

るはピスマーク其人なりとす。ピスマークは新聞記者なるものを眼中に置かず、又た憲法に於て認められたる言論の自由を無視したれども、さりとして、新聞紙の必要を感ぜざる程の没分曉漢にはあらず。否な彼は其意の儘に使用し得べき數箇の新聞を有するの必要を切に感じたり。而して當時彼は廢黜せられたるハノーバー王家の財産千六百萬圓程を其手中に掌握したりしを以て、其利子を以て、新聞紙記者及び通信者を買収するの費用に供する事とせり。彼は管に獨逸國內のみならず、埃太利、以太利、佛蘭西、露西亞、米國へ迄も手を伸ばして、買収に従事せり。買収せられたるものゝ義務は、ピスマークの政策は勿論、何事に依らず、彼の言行に對し、直接間接に辯護の勞を取るにありて。敢て特定の義務なしと雖も、聊かにても彼の政策に反對するが如きとあらば、決して寛假せられざりしなり。北獨逸アルゲマイネの如きもピスマークの援護の下に成立したるものにして、其第一面は永久に政府の使用に供する約束なりき。固より今日と雖も、其契約は効力を有しつゝあるなり。コロインガゼットも亦た獨逸政府に對し、同様の同柄にあり。而かも同紙は古くより外國に關する記事の正確優秀

なるを以て、大なる名聲を有し、且つ海外に多數の購讀者を有するを以て、主として此方面に於て、獨逸政府の代言を爲しつゝあり。ライヒスアンツァイゲルは全然政府の所有する所に係り、法律、命令、叙任、免黜其他一切政府の公布に係る事項を記載す。所謂官報なり。

純然たる御用新聞の外、又た政府が發表せんと欲すれども、正式にするを好まず。或は是に對して責任を負ふとを欲せざる或種の材料を公にせんが爲に使用せらるゝ新聞紙あり。此種の新聞紙は外國政府の意向を探るに用ゐて大に奏功するとあり。若し其記事が外國政府に依り、好意を以て迎へらるゝとを發見する時は、應がて其機關を以て正式の發表を爲すべく。若し強硬の反對を見出す時は、一時是を中止するか、或は多少形式を變更して、其目的を達するの手段を講ずるなり。是等の新聞紙は内外合せて數十種あり。其獨逸政府、殊に外務省に取りて、非常に便利なると云ふ迄もなき事なれども。彼等相互の間に了解なきを以て、時としては左支右梧し、意外の失態を來すとなきにしもあらず。是種新聞に對する報酬に至ては、區々にして一定せず。或は新聞材料を供給せ

らるゝを以て、満足するものもあれども、或ものは金錢の支給を受けつゝあるなり。

新聞に對する獨逸の壓制

獨逸に於ては、社界百般の事物一として、カイゼル陛下の意志に依て左右せられ、其勢力の影響を受けざるものなし。況んや新聞紙に於てをや。ピスマーシクが新聞紙及び記者に對する態度の專制的なりとは、普く世界に知れ渡りたる事實にして、前既に是を説けり。彼が最も其權勢を揮ひし最後の廿年間に於て、彼は常に其ポケットの中に、彼れに反抗し、又は彼を侮辱したる新聞記者の名前を挿入する計りに印刷したる告訴狀の一束を藏したり。而して隨時隨所に於て、斯の如き犯人を見附次第、其名前を挿入して、直ちに是を檢事の手許に送致するなり。斯くて、彼に睨まれたる不幸なる記者は、數日の後、裁判所より召喚を受け、ピスマーシクに對する罪なる奇怪なる罪名の下に數週乃至一二年の禁錮に處せらるゝを常としたりき。然るに、現皇帝の新聞記者に對する處置は、更に是よりも甚だしきものあり。彼が即位以來十五年間のみにて、新聞記者の裁判に附せられたるもの無慮六千餘件に上り、極少數を除く外は、誹毀罪、侮辱罪、甚しきは

國事犯、皇室に對する罪等適宜の罪惡を負はされて、何れも獄中に呻吟するの不幸に遭へり。獨逸の新聞が壓制束縛を受くるとは決して露國に遜る所なきなり。

獨逸帝國內に於て、言論の自由の許さるゝ所、如何なる言議をなすも、是がために法律の制裁を加へらるゝ惧れなき所は、唯だ一の國民議會あるのみなり。されば、政府反對の議員等は、其國民のために、此處に胸中の磊塊を吐露せずんば止まざるなり。彼等は常にカイゼル陛下自身が、其國民の或者を罵詈するを躊躇し給はず。政黨其他凡て彼に反對するものに對し、種々の汚名を被らせて、公けに是を誹謗することを辭し給はず。國民の或ものが偶々陛下に對し不穩の言辭を弄せんとするは、是れ受働的なり、防禦的なり。然るに直ちに是を捕へて、罪人となさんとするは、憲法治下に於て爲さるべき事にあらざるを痛論せり。又陛下は他の罪人に對しては、屢、其特權を以て、刑期を輕減し給ふ事あるに關らず、言論文筆のために罪を負へるものに對し、未だ會て一日の輕減とも與へ給ひし事ならず、是れ決して公平の處置にあらずと主張するなり。斯の如き道理あ

司法官亦
た新聞紙
を敵視す

る攻撃に對しては、如何に詭辯に富める政府委員と雖も、固より辯解の辭あるべきにあらず。唯だ帝王の神聖侵すべからざる事を説くの他に道なきなり。

獨逸の新聞記者に取りて、最も不幸なるは、嘗に皇帝と行政官吏が是に反感を有するに止まらず、司法官も亦た彼等に向つて同様の態度を持せる事是なり。殊に、帝國最高の法院なる帝國裁判所に於て然りとす。司法官も亦た直接に陛下より任命せらるゝ以上斯の如くなるは實に止を得ざるなり。而かも何れの國に於ても、時に正義硬直の士なきにあらず。數年前、最高法院の最も有力なる判事某氏は、司法官の獨立を失ひ、良心の指命に背き、かつ憲法を蹂躪して、權威のために願使せらるゝを屑からずとして、其官職を抛ち去りたり。而かも彼の例に倣ふ義人なく、司法部の情態は愈益憐むべきものと成り果てつゝあるなり。

皇帝及び官吏の新聞記者に對する待遇斯の如くなるを以て、一般社會も、亦た自からは是を輕蔑するの傾向あると、固より怪むに足らず。されば、獨逸に於ては、苟も多少の財産を有し、他に何事をか爲し得るものは、決して新聞記者たらんと志望を起さず。人の親たるものが、其子の新聞記者となりて世の嘲笑の目的

とならんとを望まざるは固より當然の事なり。又た世の資本家が何等の名譽の伴ふとなくして、且つ収益の望少き事業に投資するを好まざる事も自明の理なり。随つて獨逸の新聞なるものは、大資本を有するもの甚だ少く、其基礎極めて薄弱なるものなりとす。新聞記者の収入の僅少にして、翻譯著述等の内職に依りて、其家計の不足を補はざるを得ざるもの固より怪むを要せざるなり。

獨逸新聞記者の境遇、斯の如く憐むべきものあるに關らず、其人格の概して高尚なるは意外なりと云はざるべからず。社中に於て、重要な地位を占むるものは大抵大學の科程を終りて、學位を有するものにして、道德上に於て、他の尊敬を受くべき資格を有せり。されば其紙面の調子も甚だ健全にして、清潔なり。大新聞の社説に至ては、何れも堂々たる者にして、何人も是を一讀すれば、記者の學識の凡ならざるを認め得べし。文學、美術、音樂、戲曲等に關する批評は何れも専門家の手に成り、頗る要領を得たるものなりとす。但し探訪者のみは、其人格に於ても、技倆に於ても、他の記者に比して劣ると甚しく、是を米國邊の探訪者に比するも大に遜色あり。一般社界の是に對して、敬遠主義を取れる、實に止を得

獨逸新聞記者の地位

探訪者

ざるなり。探訪者中の最も高尚なるものは、宮廷及び諸官衙に出入するものにして、比較的多額の報酬を受け、一般社界よりも相當の待遇を受けつゝあり。宮廷探訪者の職務は云ふ迄もなく、宮中に催はさるゝ大宴會の模様、其他諸般の儀式等凡て宮中に起れる事項を報告するものにして、皇帝始め諸聯邦の君主等は是を以て新聞事業中の最も高尚なるものと信じ、且つ自身等に最も必要なるものとし給ひ、特殊の便利を與へ給ふのみならず、長く宮廷に出入して、特に勳功ありとせらるゝ時は、宮中顧問の稱號を賜はり、或は勳章を授與せらるゝとあるなり。

雜誌の境遇、情態亦た日刊新聞と大差なく、其内容に於ても、勢力に於ても、發賣數に於ても、到底英米の雜誌と口を同ふして論ずべからず。僅かに二三の例外を除く外は、辛ふじて維持し得るに過ぎずと云ふも、決して過言にあらざるなり。英米佛若くば日本の旅行家にして獨逸に来るものは、其雜誌を見るどの少きに一驚を喫するならん。ホテル、停車場若くば個人の家庭に於ては勿論、書肆の店頭に於てさへも雜誌を見出すとは、極めて稀なり。英國の國會議場に於ては、議

獨逸の雜誌

員の辯論中有力なる雑誌の議論を引用すると、決して珍らしきとにあらざれども、獨逸に於ては、全く斯くの如きとあるなし。一般社會の人も亦た是に向つて何等の注意をも拂はず。例へば、總選舉の際に、世の有力なる雑誌が何事を論じつゝあるか、選舉人も、被選人も些の介意する所なきなり。されば、獨逸に於ては、生涯主なる雑誌に執筆するも、極めて狹隘なる範圍の外に其名を知らるゝとなかるべし。獨逸に於て、雑誌の發達せざる所以、其新聞の振はざる所以と略ぼ相同じ。第一、宮廷、政府、官吏、軍人等に對して、忌憚なく筆鋒を揮ふとを得ず、較もすれば則ち刑辟に觸るゝの虞れあるが如き、暗澹たる空氣中には、言語を以て生命とする雑誌の如き機關は發達するの餘地なきなり。第二、獨逸國民の政治的教育は甚だ幼稚にして、一般に普及せず、國家社界等の公事に留意するもの、數英米の社界に比して甚だ少きが故なり。第三、日刊新聞の場合に於けると等しく、資本額の小さながために、手腕を揮ふに由なきと。英米二國の雑誌が數十年前に經驗したると等しく、其収入は主として購讀料のみにして、廣告料なるもの極めて少く、ために充分の利益を見ると能はざる是なり。

最も有力なる雑誌

雑誌の最も有名なるものをドイツランドシャウと爲す。千八百七十四年ジュリアスローデンブルンの創刊する所に係り、今尙ほ彼の手中に在り。彼は文學上の天材にして、青年時代より此方面に於て、非凡の能力を發揮せしが、後英佛諸國を歴遊して、大に其智見を廣め、殊に其文學の研究に依りて非常の益を得たり。彼は久しく倫敦に寄寓せしが、其間獨逸詩人にして、英詩の翻譯家なりしフライリグラットと親交を結び、彼自身も文學上の述作に従事せり。「倫敦生活」聖徒の島「ウエール」の秋色等其重なるものなりとす。彼は獨逸の文學社界に英文學を輸入するに與つて、最も力あり。斯くて、彼は獨逸の文學界に於て、相當の地位を占めて後始めて、伯林に於て、ドイツランドシャウの初號を發刊せり。始は渺たる一小雑誌なりしが、漸次紙數を増加し、且つ寄書家として、ポールヘイゼ、ゴットフリードケラー、セオドルストーム、シーエフメーヤー、ヘルマングリム、ウイヘルムシエラー、ヘルムホルツ、ドボアレーモンド、ヘッケル、ブフナー等當世の名流を網羅せるを以て、漸く世に認めらるゝに至れり。

ドイツランドシャウの競争者たるべき雑誌數種あり。其第一はデーゲゼル

シャフトにして、千八百八十年代の創刊に係り、エムレーコンラッド、カールブライブツラウ等の記者を経て、現今の記者ルードヴィヒジャコボースキの代となれり。其始は活氣横溢、新進の銳氣當るべからざるものありしが、今は大に老成となり、復た昔日の面影を留めざるに至れり。次はノイエドイテルンデシャウにして、イブセン、ハツブトマン等の偉材に依て、大に其名聲を揚げたり。該紙はスカンデナヴィヤの傑作を獨逸文學界に輸入する事に依りて、大なる貢獻を爲せり。ポールリンダウの「ノルドウンズ」も亦た或時期の間、ドイテルンデシャウの一勁敵なりき。千八百七十八年伯林に創刊せられ、其調子の雄大にして、老健なる、且つ其社中に天下の英才を網羅するの點に於て、殆んど十年間はドイテルンデシャウを凌駕するものありき。然るに、彼が巴里留學中に得たる惡習慣は遂に彼が生涯に累を及ぼし、復び社界の表面に頭を擡ぐる能はざるの失態を演じ、彼の雜誌も亦た彼と其運命を共にするとなりぬ。

「デトゲトゲンワルト」は千八百十二年伯林に於て、テオヒルツオルリングに依て創刊せられ、今尙引續きて發行しつゝあり。ツオルリングは元來小説家な

れども、政治問題、社會問題等にも趣味と智識を有し、到る所として可ならざるなし。彼も亦た久しく巴里に滞在したるとあり、其間アルンホンスドレーデーと親交を結び、互に益する所少からざりき。彼の雜誌は政治、社會、文學、科學等の評論雜誌にして、社界の或一部分に相當の勢力を有せり。

ドイテルンビュイはスツツドガルトに於てリチャードフライシャーの發行する所。三十有餘年の歴史を有すれども、社界の表面に頭を擡げ來れるは全く近年の事に屬す。其社界の注意を喚起するに至りしは、ビスマルクの遺稿を掲載し始めたるがためにして、其材料はヘルバートビスマルクの供給する所に係ると了解せられつゝあり。本紙は寄書家として、多くの英佛大家を有せり。ドイテモナツトシユリフトは僅か數年前伯林に於て、ジュリアスロメーヤーの創刊する所にして、其目的とする所他の多くの雜誌と趣を異にする所あり。即ち其言明する所に據れば、彼の所謂世界政策の後援となり、全獨思想を鼓吹せんとするにあり。ダヌエコーは全世界に散在せる獨逸人を思想的に統一するを以て其主要の目的とせり。而して其言明に背かず、莫大の奏功をなしつゝあり。デ

「グレンツポーター」は獨逸最古の政治雜誌にして、獨逸帝國の創業に與つて功あり。殊にグスタフフレーター氏主筆の下に全盛を極めたりしが、二三十年以來漸く其勢力を失ひ、今は殆んど世人に忘却せられんとしつゝあり。デーナチオンは千八百八十八年テオドルバートに依て創刊せられ、今は進歩的政治雜誌中の鏘々たるものとなれり。バート氏は元とブレトマンの富豪にして、自由貿易急進主義の驍將なりしが、ビスマルクが政治的に彼を殺さんとしたるに憤激し、驟起して伯林に上り來り、彼の面前に於て、一大政治雜誌を發行したり。彼は最も熱心なる進歩自由の味方として、專制主義、守舊主義と戦へり。隨て英米二國に對して常に深厚の同情を有せり。デーツクンフトはビスマルクの強制退隱後二年、マクスミリアンハーデンの手に依りて創刊せらる。彼は當時尙四十歳の青年なりしが、最も大膽に、銳利なる筆鋒を揮ひて、ビスマルクに同情を表して、帝を攻撃したり。世人皆帝の老偉人に對する處置の冷酷なるに驚き、彼に向つて同情を有せる折なりしかば、大に當時の人心に投じ、伯林の紙價をして貴からしむるの盛況を呈し、獨逸雜誌界空前の出事なりと評せられたり。而か

も彼は是がために幾度か囹圄の中に呻吟し、夫れがためか、あらぬか、其筆鋒も漸く鈍れ、世人のビスマルクに對する同情も稍冷却するに隨ひ、遂に全く其勢力を失墜するに至れり。

要するに、獨逸の雜誌なるものを、英米の夫等に比すれば、實質に於ても、勢力に於ても、頗る幼稚なるものなると論を俟たざれども、概して相當の品位を有し、紙面の調子健全にして、腐敗の空氣なしと云ふとを得べし。而して舊時に比すれば、凡ての點に於て、改良進歩の跡を認むることを得べく、隨て購讀者の數も増加し、社界に於ける勢力も發展しつゝあると疑を容るべきにあらず。獨逸雜誌界の前途必ずしも悲觀すべきにあらざるなり。

第十七章 文學及び美術

獨逸の文學美術は今や最も重大なる變化を受けつゝあり。舊思想舊様式は全く破壊せられて、新生命の發展を見んとす。是を一箇の革命なりと云ふも、決して過言にあらず。而かも舊物を破壊するを以て能事とする、消極的の運動に

イブセン
及びトル
ストイの
感化

あらず、同時に建設的の氣運の頗る盛なるものあるを見るなり。

美術に於て、此新運動の先驅をなせるは、アーノルドポックリンと其一派の美術家にして、文學の方面に於て、其牛耳を執るものを、ゾーデルマン及びハツブトマンとなす。彼等と其一流の文學者は、大にイブセンとトルストイの感化を受けたなり。殊に其運動の初期に於て、然りとす。試に初期に於ける彼等の述作を一讀せよ。何れの作物も、イブセンの厭世的傾向と、トルストイの隱遁的神秘主義の影響を受くるとの頗る大なるものなるを發見するならん。例へば、ゾーデルマンの「ソドムの末日」を見れば、徹頭徹尾厭世的、絶望的なり。同著者の「ハイマツ」に至ては、宛然たるイブセンの著作にして、其「人形の家」を獨逸化したるに過ぎざるの觀あり。其異なる所は、只だ厭世の度の多少而已。其「デー、エーレ」の如き、結構の雄大にして、技巧の卓越せるがために、獨逸劇壇に於て、始んど最高の位置を占め、今尙ほ非常の勢力を有すれども、其倫理思想に至ては、全くイブセン及びトルストイの思想に過ぎざるを見るなり。ハウプトマンに至ても亦然り、其初期に於ける、戯曲的の著書を見れば、イブセン若くばトルストイの影響を受け

劇境の偉

たる痕跡歴々掩ふべからざるものなり。例へば、「アインサム、メンシエン」の如き嚴格にして、全然肉慾主義を否定する所、純然たる一箇のトルストイ宗なり。「デー、ヴェーバー」は近代稀に見る傑作と稱せらるれども、イブセンの「社界の柱石」及びトルストイの「アンナカレニナ」の感化を受くる所最も多し。人を感動せしむる點に於て、更に是よりも優るものは、彼の有名なる「ハンネル」なり。「シラー」の「盜賊」以來獨逸の全社界を感動せしめたるは、此劇に過るものなきなり。曾て伯林なる獨逸座に於て、此戯曲の劇に上せらるゝや、觀客は始より作者の目的に向つて、尊敬の念を有し、俳優は固より敬虔の念に満ち、満場の空氣何となく、聖劇を見るの觀あり。而して一度び其幕の開かるゝや、始より終に至る迄、觀客は恰かも魅せられたらん如く、俳優の一舉一動に深き注意を拂ひ、其一言一句に耳を峙てたり。殊に最後の幕に於て、憐れなる女主人公が將さに其氣息を引き取らんとする刹那に至るや、觀衆の感動其極に達し、婦人の如きは嘘啼流涕爲さん所を知らず。容易に感情のために動かされざる剛腸の男子さへも、其頰邊に涙痕の露ふを見たり。而して愈最後の幕の下ろされたるも、觀衆は肅然として一語を發

せず、立上らんとするものもなく、殆んど五分間程深き思念に沈みて、暗黒の裏に跪坐せり。其光景恰かも悔改の大説教を聴きて、其心を打ち碎かれたる後の如し。斯の如きは、是れトルストイが得意の壇場にして、作者が翁に負ふ所の少からざる固より論を俟たざるなり。

斯の如き有力なる劇が、一般國民の智徳の上に與ふる影響の偉大なるは云ふ迄もなし。其思想感情を向上せしめ、其生活に新なる動機と生命を與ふるなり。而して獨逸に於ける實際の情態を見れば、何人も其社界に與ふる影響の大なるに一驚を喫せざるを得ざるなり。勞働社界は其俱樂部に於て、青年は青年會に於て、ハツプトマン若くばゾーデルマンの戯曲を演じつゝあり。三五人集會する所には、必ず新演劇を關する批評談話あり。美蘭若くば巴厘に於ては、斯の如きとは尋常茶飯的のたと見做さるべし。而かも詩若くば戯曲演劇等に關する神經の遲鈍なるを以て知られたる獨逸に於ては、異常の現象なりと云はざるべからず。蓋し新派の戯曲演劇は慥かに獨逸に於て、人心最奥の琴線に觸れたるなり。

散文と抒情詩に於ては、戯曲に於けるが如く、著しき進歩發達を見ずと雖も、亦た創意に富める佳作甚だ少しとせず。例へば、ゾーデルマンは獨逸以外に於ては小説家として、人の知るもの稀なりと雖も、其「カツツエンステロ」の如きは何國の文學界に於ても容易に見るべからざる名著なりと云ふとを妨げず。「イオラント」は一箇の短篇に過ぎざれども、其印象を與ふるの深くして、且つ讀了後愉快なる記憶を存せしむるの點に於て、モーパッサンの作に相似たるものあり。其「フラウ、ゾルゲ」も亦た近代の傑作なりと云ふとを得べし。コンラッド、テルマンの「ウンテルム、スツローダ」は農民生活の描寫に於て、著しき成功を爲したるものと云ふを得べく、其表はせる人物の活躍せる點に於て、ゾーラの「ラ、テール」に優ると遠しと云ふべし。ザオルツォーゲンの短篇は何れも文學上の寶玉と云ふべく、其技巧に於ても、精神に於ても、英佛現代の大家に比して、些の遜色なきなり。其東普魯西の物語「イヤアインブレツヒヤ」の如き全篇に真情の流露するを見るなり。ピヤバウムの「パンクラチウスグラウンツェル」は其想像の豊富なる點に於て、ジアンポールに比すべし。「マクスクレツェルの「ダスゲシヒトクワスチ」

及び「チーゲノツセン」は其寫實の有力にして、眞に逼るを取る。ハイנטトフホーテの「チーゲリープテ」は戀愛小説の上乗なるもの。アーチユールツアツプの「ダス、アイゼルン、ツァイタルター」には軍國的精神を遺憾なく發揮せるを見る。以上は是れ皆な鐵中の鏘々たるもの而已、其以下に至ては、汗牛充棟固より枚舉に遑あらざるなり。

要するに、獨逸文學界の新派なるものは、思想界に動搖と不安とあれども、裏に活力の充實せる青年帝國の現境遇に胚胎し。イブセン及びトルストイの感化に依りて大成せるものなりと云ふとを得べし。而して其特點は放膽にして傍若無人なると、眞理を追求するに熱心なると、而して是を發表する方法と機關とを模索しつゝあると是なり。而してイブセン及びトルストイの感化として、大に厭世的の色彩を加へらるゝなり。一方には大膽にして傍若無人なりと云ひ、同時に厭世的の色彩を帶ぶと云ふは、矛盾に似たり。然り、或意味より云へば慥かに矛盾なり。而かも此矛盾せる二箇の事實は、相合して彼等の性格を形成するなり。一は改造せられたる獨逸帝國の産物なり、他は即ち外部より來れる偉

新文學の
特性

大なる思想の影響なり。

ゾーデルマンと、ハウプトマンは世界の文學界に於て、相當の位置を占むるものなり。其眞意は獨逸人以外には充分に了解せられざれども、世界の到る處に於て、大なる興味を以て迎へられつゝあり。此二人の中ゾーデルマンは戯曲作家として勝り、ハウプトマンは詩人として最も優れたり。ハウプトマンの作は演劇上の標準より云へば、其價値に大なる高下あり。或るものは非常に成功したれども、或るものは全然失敗に歸せり。例へば、「フロリアンゲイヤ」の如き甚だ混雜にして、舞臺上の効果思はしからず、僅かに數度演ぜられたるのみにして高閣に束ねらるゝに至れり。彼の作は劇としては成功せざるとあり。然れども、詩的の意味に於ては常に大なる價値を有せり、彼は其作物に於て、必ず一箇の問題を解決せんとを期す、社會問題あり、箇人的問題あり、固より哲學的問題あり。彼の戯曲には其言語に於ても、結構に於ても、往々生硬粗笨の點あり。ために、快樂を唯一の目的とする觀衆に喜ばれざるとあれども、必ず其裏に深遠雄大なる思想あり、快樂以外更に尊貴のものを求めんとする觀衆に取りては、恰かも寶の

ゾーデルマンと
ハウプトマン

山に入りたるの感ならず。凡そ是等の事實は一度劇場に入りて、觀衆の情態を一瞥すれば、直ちに是を慥かむるを得るなり。ゾーデルマンの作は一層戯曲の形式に適合し、且つ其結構の雄大にして、而かも整正せることサルドウの壘を靡せんとす。此點に於て、彼の「パプテスマの約翰」は最も卓越せるものにして、多少の缺點あるに關らず、彼れの偉大單純なる人格は躍如として活動し、印象を與ふると最も深し。ゾーデルマンもハウプトマンも共に尙多くの前途を有す、其造詣測るべからざるものあるなり。

以上の二人は、是れ獨逸現代戯曲作家中の代表的人物にして、世界的の名譽を荷へり。他の戯曲作家に至つは、彼等の陸離たる光彩に其光輝を奪はれ、外國に其名を知らるゝと多からずと雖も、卓越せる思想と、技倆とを有し、獨逸國內に於ては充分に認識せられつゝある作家の數決して少からざるなり。試に其尤なるものを擧げんか、先づ指をルードヴィヒフルダに屈せざるべからず。彼の「護符は諷刺的にして、帝とピスマークの不和を描きたるものなり」と、一般に解せられつゝあり。無韻なれども、其言語の優美にして、文章の絢爛たること獨逸文學

に匹儔少しと稱せらる。マクスドレーヤーの作は精神あり、活氣に富めるを以て名あり。其「デヤプロベカンデグト」は政府の專賣に係る所謂正統思想と、科學的研究の結果たる自由思想との衝突の模様を、最も痛快に寫し出したるものなるが、恰かも獨逸現代の急所に觸るゝを以て、非常の歡迎を受けたり。リカードフホスは各階級間に存する偏見を打破するの目的を以て、幾多の戯曲を公にせしが、何れも舞臺上に於て、大なる成功を告げたり。而かも青年作家中に在て、最も人目を惹けるはマクスハルベなり。彼の作はハウプトマンの夫と同じく、必ず一箇の主義主張を有す。其悲劇「ユージェンド」は一青年牧師の熱烈なる戀愛の結果、罪を犯し、遂に身の破滅を招くに至る始終を叙せるものにて、人を感動せしむること最も深く、全國到る所の劇場に於て、興行せられ、或大劇場の如きは、殆んど半年間打續きて興行し、毎夜客止の盛況を呈したることあり。新派の戯曲に共通の思想は、政治上に於ても、社會上に於ても、現狀に満足せず。階級思想に反對し、官權王權及び思想上の權威に對し、一層箇人的の自由を擴張せんとする是なり。抒情詩界に於ても、亦同様の思想の横溢せるを見るなり。其弱權を握るもの

を男爵デドレン、フホン、リエンクロンと爲す。彼の詩には一箇獨特の引力ありて、人を魅せんとす。其韻律も亦た全く新機軸を出したるものにして、前人の足跡を踏まず、神韻飄渺、餘音嫋々たるものあり。彼れが國民間に如何に大なる人望を有せるかは、曾て彼れの崇拜者が普く國民間に寄附金を募集し、其生活の資を助けたるの一事に依りても、是を判知することを得べし。蓋し斯の如き事は、管に獨逸に於てのみならず、何れの國に於ても、容易く見るべからざる文學界の佳話なりと云はざるべからず。エルネスト、フオン、ブオルツオーゲンはシラーの妻の父の裔なり。彼の詩は其散文の如く優美にして、而かも精神を有し、且つ其題目の撰擇に於て、極めて大膽なるものあり。彼は伯林に於ける自由劇場創立者の一人なり。該劇場は他の劇場に於て排斥せられたる急進的の戯曲を歓迎するを以て目的とせり。リカード、デーメル、ヨハネス、シラフ、アルノーホルツ、オージエー、ビヤラム、オートエリヒ、ハートルベン、ルードルフ、パウム、パフ、フランク、ヴェーデキンド、ハインリヒ、サイデル等皆な新派の抒情詩家として名あり。美術の方面に於て、新運動の開拓者となれるものは、瑞西人にして、獨逸に歸化

したるアーノルド、ボックリンなり。彼の繪畫の一度び世に出づるや、所任の青年畫家に非常のインスピレーションを興へ。伯林、ミューニヒ、ドレスデン、デッセルドルフ、カールスルーへ等の畫家の間に革命の氣運を起し、遂に全く舊型を脱して、一新派を形成するに至りぬ。蓋し獨逸の美術は殆んど五六十年以來、漸く衰運に趣き、舊來の形式を固守するの外何等の能事なかりき。固より箇人的に云へば、クナウス、メーヤー、フホン、ブレイメン、デフレガー、ヴェルナー、アツヒエンバハ等の名匠なきにあらざりしも、是を大體より觀察すれば、獨逸の繪畫なるものは、徒らに舊窠を株守するのみにして、全く生氣なきものとなり了りぬ。管に其精神と、畫題の撰擇に於て然るのみならず、亦た其技術の點に於ても然りしなり。而かも文學に於けると同じく、社界は到底此狀態に満足すること能はず。何人の心も不安と不平とにて充てり。殊に世の青年美術家は暗々の裡に何物か、より偉大なるものに向つて憧憬し、模索を試みつゝありたり。此時に當て、突如として、天の一方に彗星の現出せるが如くに、ボックリンは美術界の一方に其光輝を放ち始めたり。げにデュイラン及びホルバインの時代より以來、今日に

至る迄、ポックリンの如く完全に獨逸の國民性と國民的思想を其美術に寓するものは無かりき。

加之、彼の作は嶄新奇抜にして創意に満ち、且つ極めて眞面目なりとす。彼の作中の最も傑出せるものは、死者の島にして眞に驚心駭魄の作なり。彼は嘗に現代の獨逸に於て其匹敵を有せざるのみならず、其大膽にして、創意に富めること、色彩の快活なること、畫面の調和を有せること、其光線の人をチャームすること、其影の大なる効果を與ふること、想像の豊富なること等に於ては、世界の美術界に於て其競争者を見出すことなきなり。されば自然の結果として、新進畫家の崇拜する所となり、世の指導者となれり。斯くて、過去廿年の間に、佛蘭西派、英國派、西班牙派等の外に獨立して、一箇の獨逸派の現出を見ることとなれり。其特長は云ふ迄もなく、誠實眞面目の一點にありとす。其或者が技術の點に於て佛蘭西派の影響を受くる所あるは、固より否定すべかられども、是がために決して其本領を失はず、殊に其寫實主義は依然として存するを見るなり。試にミューニヒの青年畫家コリントの大作「ヘロデヤの娘を見よ、其眞に迫れる、人をして

ポックリンの傑作

覺えず戰慄せしむるものあり。其他スレフホフトの「放蕩息子」の如き、リーバマンの「レリス」を編める老婦人の如き、病める水夫の家庭の如き、何れも新獨逸派の特長は充分に發揮せられ、浮華艶麗の風なく、精神氣魄ありて、眞情悚々人を動かすものあるを見るなり。

ポックリンに次で、新派中に傑出せるものは、パツリヤの畫家フランツレンバフ及びフランツスチユツクの二人なり。共に獨自の本領を有する大家にして、ポックリンの門下生にはあらず。スチユツクはポックリンと等しく表徴主義を受す。彼が作中の最も傑出せるものは、戦争及び、ネメシリスにして、一度是を目撃したるものは、終生忘るべからざる印象を受くると稱せらる。レンバフは特に肖像畫に長じ、其大膽にして、單純なること、並に精神を活躍せしむる點に於て、入神の技を有す。彼の手に成れるピスマークの肖像は現代美術に於て、最も卓越せるものの一なり。マクスリバマンも亦一箇の本領を有する寫實派の巨匠にして、事實の眞髓を得るに於て、驚くべき技倆を有す。彼は獨逸に於てよりも、反て英米に於て廣く知られつゝあり。ライプルの畫は雄勁を以て優る。殊

新進の美術家

に畫面の箇物をして、一々明白に其特性を發揮せしむる點に於て、其考案の自由なる點に於て、到底舊派の企及すべからざるものありて存す。其他はハンスト、イマ、カルクロイト、マクスコナー、オトフオーゲル、ライスチカウ、マクスリンガー、ヨセフサットラー等何れも新派中の鏘々たるものにして、殊に、クリンガーは其想像力の豊富にして、印象を與ふるの大なる點に於て卓出せり。又た彼は管に繪畫のみならず、圖案、彫刻、他鏤等行く所として可ならざるはなきなり。

新派が獨逸の美術界に於て、今日の地位を占有する迄には、勿論、幾多の困難妨害なき能はざりき。舊派の美術家は悉く一致して、あらゆる手段を以て其進路を阻止せんとせり。彼等は過去に於て大なる勢力を蘊蓄し、且つ豊富なる財力を有するを以て、其妨害は新派に取りては最も恐るべきものなりき。加之帝國政府も、各洲の政府も、市政當局者も、皆な一様に舊派を庇護して、新派を壓迫するの態度を有したりき。されば、新派が是等の強大なる反對妨害を排除して、世の認識を得んことは、一時殆んど望なき事の如く思はれたりき。而かも幸にして、彼等は社界の他の一方に於て熱烈なる賛成同情を發見したり。即ち世の美術

新舊兩派の軋轢

新文學美術に對するカイゼル陛下の反感

眼を有するものは、漸く此新傾向の最も健全なるものなる事を覺り、且つ彼等の技倆を認識し始めたり。斯くて、世の新聞雜誌も亦た彼等に向つて厚き同情を表するに至れり。隨て一般公衆の彼等に對する態度の上にも徐々に變化を來し、彼等の作は相當の市價を有するに至れり。今日に於ては、美術展覽會の開設せらるゝ毎に、彼等の作は非常の好評を得、閉會に至らざるに悉く賣約済となるの有様なり。尤も伯林の美術協會は宮中の御覺目出度きアントンフォンヴェルナーの主宰する所なるの故を以て、新派は全く除外せられつゝあり。ミニエニヒに於ても、同地の美術會より分離するの必要に迫まれ、別に一協會を組織するに至り、數年前より彼等は別に一旗幟を翻へして、展覽會を開設しつゝあり。而して世間の同情悉く是に集まり、閉會毎に非常の成功を收めつゝあり。

文藝及び美術の此新傾向に對し、カイゼル陛下が反感を有し給ふは寧ろ當然の事なるべけれども、而かも是れに對して取り給ふ態度に至ては、往々滑稽に類する事少からず。彼は屢、公會の演說に於て、新派の主義目的を攻撃し、其美術のための美術なる思想の誤れることを嘲笑し給ふことあり。又た彼は自國の美

術界に於ける此新傾向を阻止せんがために、故らにポーランドの戦争畫家フオンコサク、英國の肖像畫家ハークマー、匈牙利の畫家バラギー等を宮中に召して種々の御用を命じ給ひたることあり。又た帝は其宮城の内外、又は公園等に建設せんがために、維廉大帝を始め、ビスマーク、モルトケ、ルーン其他の功臣の銅像、大理石像等を注文し給ひしが、其御用命を受けたる彫刻家は、何れも舊型を株守する凡庸子にして、一人の新派を代表するものなかりしなり。殊に宮城の表立關に維廉第一世の等身像を建つるに當り、是を其寵幸の美術家ラインホルドペーガスに命じ、其報酬として大枚七拾五萬圓を與へ給へり。而かも其結果は故意に威嚴を裝はしめんとしたるため、矯飾の風あり。維廉第一世の如き質朴老實の好紳士を紀念せんがためには、如何にも不釣合たるを免かれず。帝と美術家自身の外は何人も是に満足するものなく、口善惡なき伯林童は、恐多くも遂に是に綽號を上りて、獅子の窟中に在ます維廉第一世と尊稱し奉ることとはなりける。又た帝はチャガートン(伯林第一の公園)の凱旋道路の兩傍に、其祖先の大理石像を建て並べ給へり。總計三十六箇、何れもペーガス、ハルター、シエー

帝の新文
反對に
給ふ理
由

パー、エパライン、コーヒュース、ユルリツヒ等の舊派彫刻家が、微細の點に至る迄、直接に帝の御指揮を受け、數年の歲月を費やして竣功したるのに係る。固より鬱葱たる綠樹の間に、純白の大理石像を見ることなれば、決して美觀ならずとせず。美術眼なき見物者をして、驚心駭魄せしむるに足ると雖も、美術家の眼を以て是を見れば、單調にして、生氣なき駄作なりと云ふを憚らず。是が爲に、帝の費やし給ふ所、參百萬圓に上れりと云ふに至ては、呆然たらざらんとするも得ざるなり。帝は文藝上の新運動に對して、甚だしく不安を感じ給ふなり。彼は是を以て、自己の權威を蔑視し、其神聖を保つに必要なる諸種の遺傳舊慣を破壊し、其臣民をして、彼れに忠事せしむるに、必要なる信條を破棄せんとするもの、如くに見做し給ふなり。而して是れ帝に取りて、必ずしも杞憂とのみ云ふべからず。エルネストフオンザイルデンブルフの如きは、新派中の最も溫和なる代表者なれども、而かも其史劇「デヤゲネラルオバースト」及び「ハインリヒ王」等を見れば、往々にして帝王に對して敬虔の念を缺くと思はるゝ節なきにあらず。是「デヤゲネラルオバースト」が普國內に於て興行するを禁ぜられ、他の二者

の帝室劇場に演ぜらるゝを禁ぜられたる所以なりとす。況んや、ハウプトマンの「デーヴェーバー」「デヤビベルベルツ」等の如き、社界の秩序を亂し、帝室の威嚴を褻瀆するものと見做さるゝも止を得ざるものあり。上流社界の偽善を痛撃せるブーデルマンの作の如きも、彼の目には危険思想を撒くものと見ゆると固より論を俟たず。帝は會てルードビヒフルダの「護符」を讀みて、諷刺的に己れを攻撃するものなりとして、太く逆鱗ましまし、殊に其言辭の婉曲にして、捕捉すべからざるものあるを以て、一層憎むべき者なりと爲し給へり。箇は勿論冤罪にして、帝はフルダの敵の爲に誤られ給ひしなり。而かも此劇の始めてレツシング座に上せらるゝや、帝が是迄同座に有し給ひし、特別棧敷を廢し給へり。獨逸座がハウプトマンの「デーヴェーバー」を上場したる時も、帝は同様の報復を試み給ひたり。獨逸の警察が、劇場及び寄席の取締に注意を拂ふことは、殆んど常識を逸するものあり。新戯曲を上場せんと欲する場合には、固より警察の許可を得べきこと論を俟たざる所なるが。若し多少危険の恐れありと思はるゝ場合には、帝自から是を檢閲し給ひ、且つ自から許否を決し給ふを常とす。而して其許否の裁

劇場及寄席に對する警察の取締

決を得る迄に、時としては一二年を要するとあり。會てハインリヒリーと稱する青年作家ありて、其史的喜劇を上場せんがために、許可を請ひしに、指令を得る迄實に廿八ヶ月を要したり。其容易に許可を得る能はざりし所以は、唯だ最後の幕に、現皇帝の祖先なるフリードリヒ第一世の出場することあるがために外ならざりき。警察の斯の如き所置は、作家興行家に對して非常の打撃なるは勿論、是れ明かに憲法蹂躪の行爲たり。世論は是がために屢、沸騰し、又た議會の問題となれることもあれども、未だ些の改善せらるゝ所なきなり。

新文藝の進路を阻止せんがために、帝は其權力を以て爲し能ふ如何なる手段をも辭し給はず。伯林の文藝協會にシラー賞金なるものあり、極めて嚴格なる審査の上、最も創意に富み、且つ卓越せる文學上の創作に對して、是を與ふるの例なり。數年前殆んど満場一致を以て、ハウプトマンの「沈める鐘」を以て其資格を有するものとし、是に賞金を與へん事を決議したれども、皇帝は是を許容し給はず。遂に是をヴァイルデンブルフに與へんことを命じ給へり。而かもヴァイルデンブルフは賞金の半を割いて、是をハウプトマンに贈與したり。當時傳へて、文

文壇の佳話の一

壇の佳話となせり。

帝は消極的に新文藝の隆興を妨害するを以て満足し給はず。更に進んで、其理想に適する文學を起さんと企て給へり。先づ始めに、真誠の意味に於ての文藝、帝室の榮光と國民の幸福に資すべき健全なる文學とは如何なるものなるかを、自から獨斷的に定義し。或種の文學者をして、其輪廓の内に於て、創作を試みしめんことを努力し給へり。斯くてリカルドスコウロネク、ハンズフォンツロツタ、男爵ゲオルフフォンオムテゲ、フエドァフオンツオベルチ、アーチユルフイツガー、フエリクスゲン、エルネストツイシャルトの如き文學者は、何れも或程度に於て、帝の庇護を受けたるものなるが。最も深く帝の親任を受けたるものは、休職砲兵小佐ヨセフラウンナリとす。帝は彼に其旨を含め、且つ彼を指導して、大に帝室の尊嚴を發揮し、國利民福を増進するに足るべき戯曲の創作に従事せしめ給へり。帝は政治、經濟、學術、教育、農工商に關する百般の事物に自から手を下し給ひ。時に甲冑の上に法衣を被ふて法談を試み給ふ而已ならず、遂に此頃に至りては、戯曲の述作を始め給へりとして、世間にて囃し立てたるは、此時の事にて

皇帝自ら
演劇を
試み
給ふ

室内裝飾
の美術

ありき。偕其筋書の出來上るや、固より天子の御興行に係る演劇の事なれば、費用杯に頓着すべきにあらず。其衣裳、道具、立舞臺、裝飾等善美を盡し、場内隅々隈々迄、薔薇の花を以て飾り立てたり。俳優は云ふ迄もなく、獨逸劇壇の粹を抜きたり。觀客はと云へば、何れも陛下の御召命を辱ふしたるもの而已にて、花の如き宮女、金モールの燦然たる貴族大官、軍人等にして、其物々敷事云はん方なし。御馳走に招待せられて、悪口を云ふものなきは、日本も獨逸も異なることなし。是等の無料觀客が如何に盛に喝采し、帝に向つて其成功を讃へたるかは、故らに云ふの要なし。而かも、己がポケットを叩いて、御用演劇を拜觀せんとする篤志者は一人もなく、一方ハウプトマン、ズーデルマン等の劇が毎夜客止の盛況を呈するに關らず、帝室劇場に行くものは、無料觀客のみなりき。斯くて、帝の偉大なる計畫も、遂に一箇の大なる喜劇を以て終りけるぞ、是非もなき。

去りながら、唯だ一事、帝が此新運動の長所として、嘉納し給ふものあり。室内裝飾の美術是なり。僅か二十年程以前に溯れば、中等以下の社界は云ふ迄もなく、上流社界に至る迄も、其室内の裝飾なる者は、極めて粗笨幼稚なるものにてあ

りき。家具、置物、窓懸け、敷物、其他一切の室内裝飾に至る迄、凡て甚だ趣味に乏く、是を英米佛以諸國の家庭に比すれば、何人も其無味乾燥なるを感ぜざる能はざりき。而して其富の非常に増殖し、文雅の趣味の漸く發達するに隨ひ、現狀に對して不満足を感ずるの念も愈深かりしなり。殊に新美術の勃興と共に、此點に於ける缺陷を補はんとするの希望は、中流以上の社界に奮勃たるに至れり。而して此國民的憧憬は種々の方面に、種々の形式を以て發現せり。獨逸に於て、博覽會の開設せらるゝ度毎に、必ず家具及び室内裝飾に關する部門の設けられ、是に關する一切の物品を網羅するに至れり。又たユーロウスレシング、エバライン、ポールシレンター、其他の學者、美術家は講演に於て、實物の展覽説明に於て、此方面に關する國民の趣味好尚を開發すべく努力しつゝあり。而してハッセ太公自から進んで此新運動の牛耳を執るに至れり。彼は其資財を投して多くの家屋を建設し、其理想に隨て室内の裝飾を完成せしめたり。而して是を公衆の觀覽に供せしが、其一般社界の趣味を向上せしむるに與つて力ありしとは、論を俟たざるなり。心して是を觀察したるものは、其外部の調和に富めること、其

形體と、材料の和合せること、内部に於ける光線と影との配合、其意匠の嶄新なること等に於て、大に得る所ありしならん。而して機を見るに敏なる世の家具製造家、應用、美術家等は逸早く是が製造に着手し、斯くて一般社界の流行を促がすこととなり。今日に於ては獨逸の室内裝飾法は一大變化を受け、其意匠の嶄新にして、趣味に富める點に於て、決して英佛米以諸國の室内裝飾に遜る所あることなきなり。

獨逸に於ける、室内裝飾法の新傾向は、舊來のものに比して大に異なる所あるは勿論、英米佛以諸國のものとも全く其趣を異にする所あり。試に其特性の一二を擧ぐれば、其色彩は間色を主とし、且つ多くの異なる色彩の間に調和を得ん事を助め、其物體の線は婉曲優美を極め、模様は波狀線を好み、凡て想像的にして、決して自然界の實物を模寫することなし。又た凡ての物品は其色彩と形體に於て、其置からるゝ場所との調和を得ん事に大に心を用ゐ、且つ何れの物品も、其意匠は嶄新にして、創意的なり。

云ふ迄もなく、是れ文學美術上に於ける、新運動の一部分なり。是に依りて、新

運動は始めて完成せられたるなり。皇帝陛下は新文學と新美術とを蛇蝎視し給ふに關らず。同一運動中の此一小部分に對してのみは、敢て偏見を有し給はざるのみならず、寧ろ同情を以て是を迎へ給ひ、宮中の或部分に是を採用し給ひつゝあり。一見頗る不思議なるが如くに見ゆれども、決して不思議にあらず、其理由は極めて簡單なり。他なし、其中に何等の危険を包含することなければなり。畢竟するに帝が新文學新美術に反對し給ふは、其文學美術としての價値を批評し給ふに、あらず。唯だ其思想の極めて平民的にして、往々革命的の傾向を帶ぶるが如く思はるゝがため而已。換言すれば、專制君主たるの立場よりして、是を好み給はざるにて、眞の文藝鑑賞家としての批評にあらざるなり。

第十八章 獨逸の將來

獨逸の將來如何、斯の如き問題に向つて、解答を與ふるは、是れ豫言者の業なり。普通の政論家、批評家の能く企及し得る所にあらず。縱し是を試むるも、畢竟するに一箇の推測に過ぎず、他に向つて、何等の權威をも有するとなかるべし。殊

に獨逸の如き一方に於て、非常の長所を有すると共に、一方には恐るべき缺點を有し、現帝の如き奇矯なる人物を首長として、戴き、政黨の消長、且夕を測らざる國の將來を概括的に斷論せんは、全く不可能の事に屬す。されば、吾人は唯だ論理の許す範圍内に於て、近き將來の趨勢を研究し、以て本書の結論となさんと欲す。獨逸は歐洲列強中の恐怖なり。其陸軍は精銳無比、海軍亦た漸く英國の壘を廢せんとす。而して興國の氣運、國の頭尾に滿ち、六千萬國民は脾肉の嘆に堪へず。而して是を率ゆるに、不世出の英主を以てす。且夫れ、其國際競争場裡に現出する事の一步後れたるがために、世界樞要の地は多く英佛二國に占領せられ、獨逸の有する殖民地なるものは、他の殘存に過ぎず。彼が虎視眈々、乘ずべきの機會を窺ふと固より偶然にあらず。而して往々其鋒鏑を現はし、他の強硬なる反對に出遭ふ時は、乃ち暫く其鋒鏑を藏めて、他日の機會を俟つなり。摩洛哥に於ける近日の舉動の如き、僅かに其一例に過ぎざるなり。歐洲列強が獨逸を以て、國際間の危險分子と見做すもの決して理由なしとせざるなり。

果して然らば、近き將來に於て、獨逸は遂に國際間の平和を破るべき張本人た

るべきか。國際關係の現状に變化を來し、彼が乘すべきの間隙を見出す時は即ち彼れが起つの時ならん。而かも露佛同盟あり、日英同盟あり、而して英米佛の間に交歡の存する今日の如くなる間は、縦し一方に於て、三國同盟の効力尙存すとするも、彼は何事をも爲す能はざらん。人或は日英同盟の如きは、歐洲に於ける英獨の角逐に何等の影響を及ぼすものにあらずと思惟するものあらんも、是れ固より皮相の見なり。縱令日本が其軍艦を大西洋若くは北海に送り、又其陸軍の精銳を歐洲大陸の一角に上陸せしむる事能はずとするも、英國の如き東洋に多くの土地と市場とを有するものに取りて、日本の協力が如何に頼母敷ものなるかは、架説するを要せざるなり。何れにしても、現今の國際關係に變化を生ずにあらざれば、獨逸が英若くは佛を敵として立つの機會なからん。而して現今の國際關係が、密接なる利害の關係に依りて成立する以上、俄かに變動する事あるべしとは思はれず。隨て獨逸が近き將來に於て、歐洲の平和を攪亂するが如き事は、是なしと推定する事を得べきか。

獨逸の内政に就て云へば、其漸く近世的國家の體裁を具ふるに至るべきと、固

より論を俟たず。先づ第一に、有力なる自由進歩主義の政黨の樹立を見ざるべからず。カプリビエー伯も、ホンヘンローへ公も、共に進歩主義の政事家にして、曾て宰相の印綬を帯びたりし間、自由黨の援助を得ん事を望みしが、是に社會黨と急進黨を加ふるも、尙ほ少數にして何事をも爲すと能はざりき。獨逸現在の自由黨は一箇の消極黨にして、政府の提案と云へば、何事にも反對し、何事をも否定せんとす。而して己れは何事をも爲すを欲せざるなり。其態度我國の國民黨に相似たり。吾人は國民黨が租税を輕減して、民力を休養せんとし。無謀なる軍備擴張に反對するを諒とす。而かも鐵道廣軌政策と云ふが如き利害明白なる問題に關して、反對の地位に立つを悲むものあり。斯の如きは、其識見の透明ならざるか、否らざれば、其態度の公平ならざるを表明するものにして、偶ま有識者の同情信用を失墜する所以に過ぎず。東西其軌を一にすと謂つべきなり。今獨逸自由黨のために謀るに、頭腦の化石せる舊領袖の代りに、新進有爲の人物を以て其幹部を組織し。積極進取の政綱を掲げて、其本來の面目を發揮すべきなり。官僚黨、保守黨の跋扈に慨し、ざりとて社會黨の極端に走るを好まざる、健

實なる中流階級は擧つて、其旗幟の下に集まらんなり。

自由黨にして、其生氣を回復し、直に進歩主義、平民主義の身方たるに至らば、社會黨の是に合同せんと必ずしも望なきにあらず。前にも云へる如く、獨逸の社會黨なるものは、以前のユートピア的空想を脱し、今は比較的穩健着實のものとなり居れり。其黨の主要の目的は平和手段を以て、勞働階級の利益幸福を増進せんとするに過ぎず。寧ろ是を急進勞働黨と稱するの勝れるに如かざるなり。されば此二黨は其主義に於て異なる所殆んどあるとなし。唯だ自由黨の無爲消極的なるに反して、社會黨は精神氣力に満ち、盛に活動しつゝあるなり。而かも社會黨は、獨力にて何事をも爲し得るものにあらず。其前途多望ならざるにあらずと雖も、獨力を以て、獨逸の政界を左右する日の來るべきかは、彼等自身と雖も、斷言する能はざるべし。二黨の合同せんとは、自他のために非常の便利にして、且つ何れの側に於ても、多くの犠牲を拂ふ事なしに、是を成し遂げ得べきなり。

國民自由黨中に左右の兩翼あり。其左翼は純然たる進歩自由主義にして、右

翼は保守的の傾向を有すると世人の知る所なり。左翼は宜しく自由黨に合體すべく、右翼は保守黨に投ずべき運命を有す。當然斯の如く成るべくして、成らざる所以は、只だ自由黨の現状の萎靡不振にして、他を引き寄する力なきに依る而已。されば自由黨にして、一度其體面を新たにし、世上の信任を回復するに至らば、國民自由黨の新進分子は自然に其大旗の下に來るべきものなりとす。

斯くて、一方に於て、平和主義、自由主義を標榜する有力なる大政黨起りて、他の官僚黨、保守黨と相對するに至て、獨逸の立憲政體は始めて圓滑に活動することを得べし。帝をして憲法を蹂躪して、擅まゝ其權力を揮はしめ、官僚黨をして、既梁跋扈せしむるもの、畢竟するに小黨分立して、一の大政黨なきがため而已。而して是れビスマルク以來、帝王宰相等の在野政黨に對する操縱政策の結果に外ならざれども、斯の如き人爲の小策は到底永久に其効を奏し得べきにあらず。早晚大同團結して、二三大政黨の出現を見るに至らん。而して獨逸の立憲政體も茲に始めて其運用を全ふする事を得んなり。

商工業の前途に至ては、唯だ光明ある而已。其進歩發達測るべからざるもの

あるなり。進歩せる科學は、益々盛に其工業に應用せられ。分業の組織は愈完全の域に達せんとす。其國民は勤勉にして、而かも其生活の程度英米の如く高からず。彼等は理想的の商工國民なり。若し其前途に多少の注意を要すべきものありとせば、そは農民黨と商工階級との利害の衝突なり。獨逸は今や其食料と材料の多分を、外國の供給に仰がざるべからざる境遇にあり。而して農民黨の強要に依り、是等の輸入品に對して、重税を課するの止を得ざるものあり。是れ商工階級に取りては非常の苦痛なりとす。是に於てか、彼等に對する慰安の方法として、製造品に對しては一層の重税を課せざるを得ず。斯くて法外なる一般保護貿易政策は成立するなり。決して一般國民のために謀りて、正當の政策なりと云ふとを得ざれども、今日の如く、農民黨と、商工階級とが互角の勢力を有する間は、到底免かるべからざるの現象なるべし。

獨逸は學術上に於て、最も光榮ある歴史を有し、現在亦た大なる名譽を荷ひつゝあり。將來益々其光輝を發揚する所あるべしと想像するとを得べし。而かも社界の要求は漸次實際的に傾き、其要求に隨て、近頃其教育制度に根本的の變

更を加へたり。哲學的の思辨と、古典の研究に耽るものは徐々に其數を減じ、經世實用の學に志すもの日を追ふて増加せんとす。是れ勿論獨逸に限れる特殊の現象にあらず、是れ第二十世紀に於ける世界的の傾向なりとす。

文學も今や過渡の時代を脱して、復び健全の發達を遂げつゝあり。元來獨逸文學の特長は雄健にして、深遠なるにあり、中頃邪徑に陥り、大に不振を來せしが、今や漸く回復の運に向へり。其過去の盛時に於けるが如く、浮華淫靡なる佛蘭西文學の厭世的影響を免かれ、英國文學に接近すべきものなる事固より論を俟たざるなり。

美術に於ても、亦た一箇の特性を有する國民的美術を形成しつゝあり。今尙ほ其表面には形式的なる舊美術の殘滓の浮動するを見れども、其内部には既に新美術の健全に發達せるものあり。世界は總がて堂々たる其美觀に驚殺せらるゝの時あるべし。今其の特性の主なるものを擧ぐれば、佛以の美術よりも健全にして、精神に富み、英國の美術に比すれば、一層明白なる觀念を有するにあり。要するに、興國の氣運に際會せる國民に相當はしき美術なりとす。衰亡せんと

しつゝある國民の美術には決して健全の氣象と雄偉の精神とを認むる事能はざるなり。

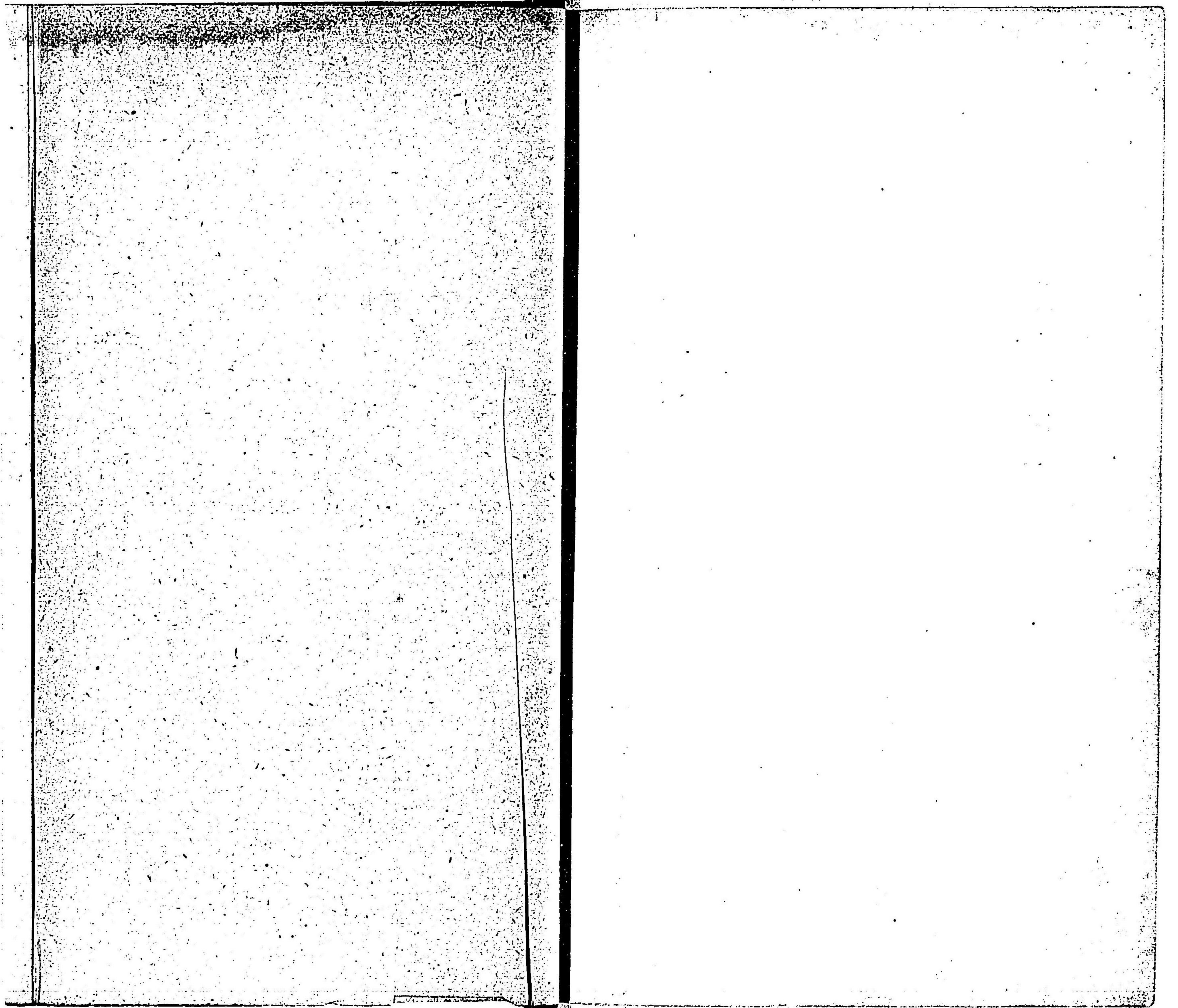
獨逸人の性格も亦た近き將來に於て非常の變化を受くべきこと殆んど疑を容れず。由來獨逸人は儉約を以て名あり。是れ畢竟するに商工業の見るべきものなく獨逸が一の貧國たりし時代の遺習に過ぎず。今日の如く商工業の勃興を來し世界の富の盛に國內に流入し來る時代に於て斯の如き性格を固持せん事は固より望むべきにあらず亦た決して望ましき事にあらざるなり。

獨逸人の誇りとする彼の尙武的精神の如きも何時迄持續せらるべきや疑問なり。現に決闘の惡習の如きは日を追ふて衰微しつゝあり。其富の愈増大し生活の程度の上進するに隨つて其尙武的の氣象も多大の影響を蒙るべきものと假定して差支なきなり。

彼の偏狹なる愛國心人俯崇拜の習慣盲從的精神等亦た多少の變化を受くべきものとす。如何に變化すべきか。今一層自由寛大にして合理的の方向に對つて進歩すべきこと論を俟たざるなり。

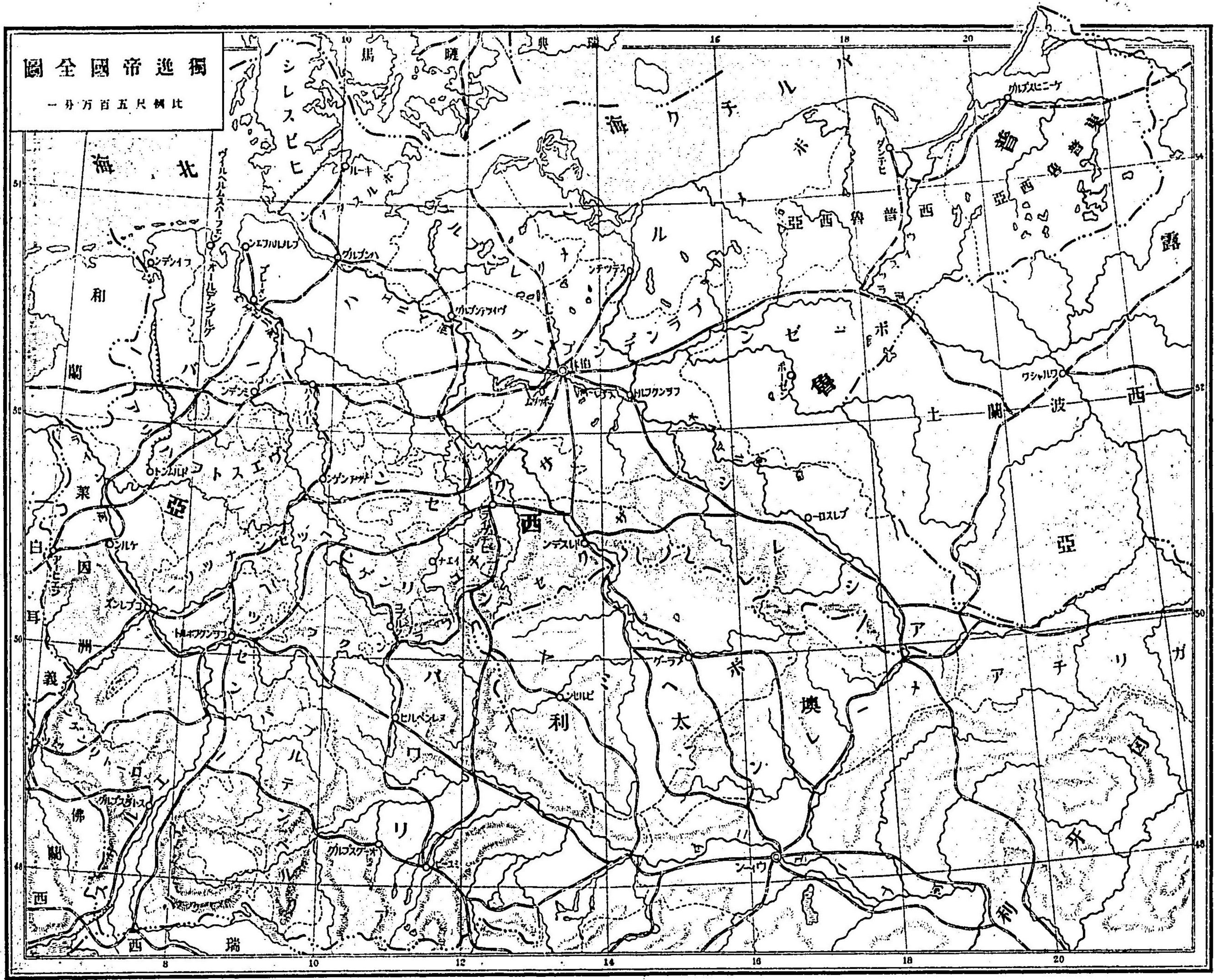
是を要するに獨逸の國家は社會進化の理法に隨つて最も健全正當の發達を遂げつゝあるものと云ふことを得るなり。

獨逸帝國畢



獨逸帝國全國圖

比例尺五萬五千分之一



明治四十四年十一月十三日印刷
明治四十四年十一月十六日發行

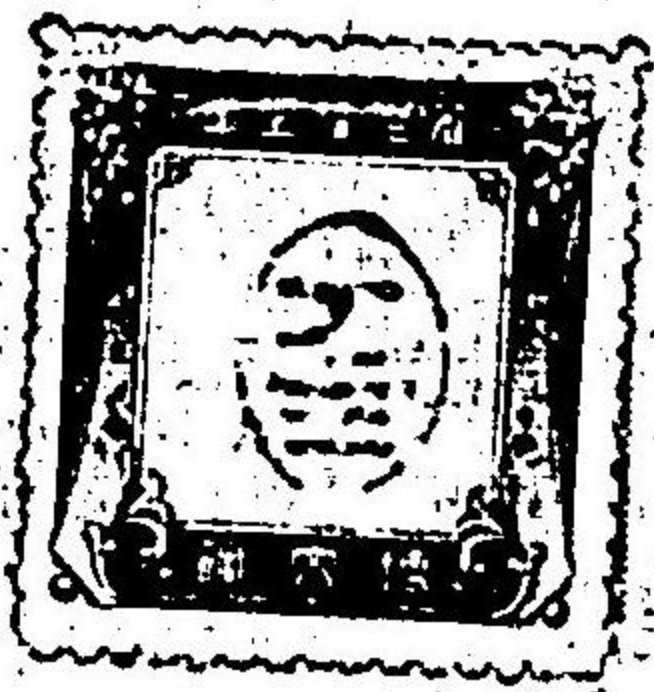
〔不許複製〕
定價 金壹圓貳拾錢

著 者 三 上 正 毅

發 行 者 大 橋 新 太 郎
東京市日本橋區本町三丁目八番地

印 刷 者 飯 田 三 千 太 郎
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印 刷 所 株式會社 秀英舍 第一工場
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地



發 行 所 博 文 館
東京市日本橋區
本町三丁目

（販賣部）
電話 東京二四〇〇番
本館 二六二〇番

文學博士 箕作元八先生著

西洋史新話

各册洋裝菊判
南京綴頗美本
各卷口繪挿入

讀書界の大惠——西洋史新話の創刊

國運の進張と國際關係の發展は、我國民をして、近時に至り殊に著しく西洋歴史に關する知識の必要を感ぜしめつゝあり。本館は今回本邦に於ける西洋史學のオーソリチーたる箕作博士に請ひ、一般國民の讀物とすべき西洋史の刊行を企て、茲に西洋史新話の刊行を見るに到れり。博士は一般國民の爲めに與ふる讀物たる事に深く留意せられ、其の宏博の學識を包むに、豊富なる趣味の色彩を以つてせられたれば、本書は精到比無き新方式の史書にして、而も一面にあつては英雄傳、傳奇小説を讀む時に味ひ得る一種の興趣に滿てる新讀本也。

第壹册 ○ギリシアの撥亂

正價金五拾五錢 郵税金八錢

第貳册 ○テレーベの勃興 (近刊)

以下紀年の順序を追はず分冊として續々刊行す

(發行所 博文館)

埃國大使館書記官 奥田竹松君著

佛蘭西革命史

全一册菊判美本
紙數四百四十四頁
正價金七拾錢
小包料金八錢

佛蘭西革命は獨り世界近世史中の最大史實たるのみならず實に振古以來未曾有の最大史實たり。十八世紀の舊天地より世界の根軸を撼かして之を現代の新天地に移つし得たる大史實たるなり、又單に其の外観内容に於て壯絶悲絶又慘絶を極むるのみならず、後世に及せる影響の較著重大なるより視て之を近世史に於ける大分水嶺なりと云ふを得べし。古へを稽へんと欲する者は佛蘭西革命を知らざるべからず、新らしきを知らんと欲する者亦固より佛蘭西革命を知らざるべからざるなり。

文學士 堀竹雄君 編纂
文學士 竹村昌次君

◎露國の實相

全一册菊判上製 正價金七拾錢
紙數三百二十頁 小包金八錢

世上露國の暗黒面を示すの書多しと雖も、露國の進歩發達せる真相を語るものは稀なり、蓋し露國が今日に至るまで能く弱を歐土列強に成せし所以は必ずや露國雄大の素ある事恰かも泰王が六國に對せし概なくんばあらず、別行會諸氏に見る所あり。堀、竹村兩文學士に托して攻訛數月以て本書を大成せしめ、坪井博士に囑して更に嚴密なる校訂を加へしめらる。其價值ある以て知るべきなり。

(發行所 博文館)

木村鷹太郎先生著 (再版)

世界的
研究に
基ける

日本太古史

全二冊洋裝菊判上製
上巻 八百二十三頁
石版口繪四枚挿入
正價 金貳圓
上巻 金貳圓
(下巻印刷中)

破天荒の研究——空前の大発見

日本民族の太古史は極東の小島國史に非るなり若し夫れ博大なる世界的知識に基づける**新研究法**を以て神話及び言語の比較を行ひ又太古史地理に就て嚴密なる攻究を行ふ時は國典我に示すに**日本人は希臘羅典系民族の宗祖たり世界文化の率先者**たり又我民族は太古小亞細亞に起りて希臘より埃及に遷り此を中津國として西は伊太利より東は波斯印度暹羅に至る大帝國を建成し居りし歴史を以てす且此新研究法を以てする時は從來難解不可解となし來れる言語、地理、神事、風俗、習慣等盡く其の明解を得る事豊榮登る朝暉

の積雲濃霧を消散するの概あり是れ破天荒の大発見にして實に史學、人類學、言語學に關して日本は勿論**世界の學界に一新紀元を開く**ものと言ふべし。

本書上巻は神史、言語、風俗等に就て日本と希臘羅典及び猶太民族の夫れを比較し彼我男女の神々の史傳は美麗なる筆を以て之れを叙述し、言語の比較は有益愉快の知識に充滿す、又珍奇の挿畫數十、善く一般の讀本に適し而も研究態度の嚴正なる學者必須の研究書なり。

人卷は日本太古史地理の世界的説明にして舊來の**日本的迷夢を打破し精密無比の歴史地圖數葉を挿入して綴出す**

日本歴史の新光輝——萬人必讀の大論著

賜天覽 ◎大日本建國史 同 著 全一冊菊判 正價金壹圓五拾錢
四百十九頁 小包料金 八 錢

(石版彩色地圖四葉 寫真版及木版畫十九葉挿入)

◎東倫理學史 卷上 同 著 洋裝菊判 正價金貳圓八拾錢
同 著 著 非上博士序文 日文千六百頁 小包料金拾六 錢

博文館發行

國府 犀東君 著

全二冊

洋裝菊判上製紙函入美本
上卷千二百頁 下卷千頁

大日本現代史

上 金貳圓五拾錢
小包料金拾六錢
下 金貳圓
小包料拾貳錢

●比類なき人文の發展史

本書の特色

聖代を謳歌し活勢を描寫せるは本書第一の特色たり
宇内の大局を照應せし帝國を中心とし世界を觀たるは本書第二の特色たり
筆を彼兎理の來航以前たる露人の太平洋進出に起して日露戰役後に及べり第三の特色たり
主要の史實必ず簡明直截の批判を加へて其概觀を識得せしむは第四の特色たり
略三十九年間のあら出來事を網羅して餘蘊なく瞭然たるを得せ第五の特色たり
一書大日本現代史直ちに是れ比類なき人文の發展史にして又異彩ある國家の大飛躍史なり

●異彩ある國家の大飛躍史

(發行所) 博文館